文教大学学園

東京あだちキャンパス

事業報告書
2020年度

2021年5月31日
学校法人 文教大学学園

理事長メッセージ 1

学校法人の概要

建学の精神・理念 2
［1］建学の精神・理念 2
役員及び教職員に関する情報 2
［1］役員の概要 2
［2］理事・監事一覧 2
［3］評議員一覧 2
［4］教職員の概要 2
沿革 3
設置学校等 4
学園の中長期計画 5
［1］学園の中長期計画について 5
［2］各校報告『文教アクションプラン2021』の実行 7

事業の概要

当該年度の主な事業の概要 12
［1］主な事業の目的・計画 12
［2］進捗状況 14
教育研究の概要 32
［1］教育研究上の基本となる組織に関する情報 32
［2］教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報 32
［3］学生に関する情報 33
［4］教育課程に関する情報 46
［5］学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報 53
［6］学習環境に関する情報 54
［7］学生等納付金に関する情報 61
［8］学生等支援と奨学金に関する情報 66
管理運営の概要 70
［1］文教大学学園 70
［2］文教大学・大学院 71

財務の概要

学校法人会計・勘定科目の概要 72
当該年度の財務状況 73
［1］財産目録 73
［2］収支計算書 74
・資金収支計算書 74
・活動区分資金収支計算書 75
・事業活動収支計算書 76
・貸借対照表 77
経年比較 78
［1］収支計算書の推移 78
・資金収支計算書 78
・事業活動収支計算書 79
・貸借対照表 80
［2］財務比率の推移 81
・事業活動収支計算書の比率 81
・貸借対照表の比率 82
経営状況の分析 83
監事の監査報告書 84

“教育力トップ”の学園を目指して

文教大学学園 理事長　野島 正也

2020年度の学園の事業報告書を供覧いたします。本報告書は、文教大学学園が2020年度に実施した諸事業について関係各位に広くお知らせし、本学園についてのご理解を更に深めていただくための一助として作成したものです。

文教大学学園は1927年の創立以来、大学を中核として付属幼稚園から大学・大学院までを有する学習者総数約1万人の総合学園に発展し、2017年には創立90周年を迎えました。こうした学園の発展は社会全般からのご支援の賜物であり、改めて厚く御礼を申し上げます。

国内外の経済や社会の構造が目まぐるしく変化する中、来る100周年も含めた今後の学園の更なる発展のためには、一段の教育力向上や経営基盤強化が求められる状況となっております。

こうした課題意識のもと、学園は2009年から「教育リーディング・ユニバーシティ文教～教育力トップを目指す～」をビジョンフレーズとして、「学園経営戦略 第1次中期経営計画（2009-2012）」、「同 第2次中期経営計画（2013-2016）」を経営・教学の緊密な連携のもとで進めました。その成果として、当時最大の懸案であった付属学校校舎の耐震化については、2014年に付属小学校新校舎、2016年に付属中学校・高等学校の新校舎とグラウンド及び付属幼稚園の新園舎を建設し、対応いたしました。

今日、従来の予想を上回る速度と規模で高度化・多様化・グローバル化が進行し、大学等教育機関に対する社会のニーズも急速に変化しております。学園は、東京あだちキャンパス開設を契機として、大学及び付属学校における志願者獲得や教育力・ 進学実績・就業力の向上、経営における財政基盤の安定等の各種課題に対して、教職員が一丸となって取り組むことが極めて重要と認識しています。

そうしたことを踏まえ、学園は2018年1月、学園のミッション「『人間愛』の教育」及びビジョン「～教育力トップを目指す～」を継承した新たな中期経営計画として「文教アクションプラン2021（2017-2020）」を策定し、2020年度は実行の最終年度でした。

「文教アクションプラン2021」は、各校の改革推進の実質化を図ることを主眼としており、各校の4年後の目標、達成目標及びアクションプランは主体たる各校が策定いたしました。目標実現に向け、各校カテゴリー別に重点化したアクションプランを着実に実行いたしました。

また、学園は2021年、東京都足立区花畑に大学の「東京あだちキャンパス」を開設し、湘南キャンパスに設置していた国際学部と経営学部を移転いたしました。東京あだちキャンパス開設計画に基づき、引き続き学長のもと、大学の検討体制を整備し、今後、学部等再編や教育力強化を具体的に進めてまいります。

これからも学園は建学の精神・理念である「人間愛」をベースとしつつ、「教育力トップ」の学園の実現を目指して、最大限の努力を傾注してまいります。皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学校法人の概要

建学の精神・理念

文教大学学園の建学の精神は「人間愛」です。「人間愛とは、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、すべての人間を信じ、尊重し、あたたかく慈しみ、優しく思いやり、育むこと」です。

学園は、1927年に「立正精神」を建学の精神・教育理念として設立され、今日では幼稚園、小学校、中学校、高等学校、外国人留学生別科、大学7学部、専攻科、大学院5研究科を擁する総合学園に発展しました。学園設立当初の教育理念「立正精神」は日蓮聖人によって体得せられた法華経の精神で、人間性の絶対的尊厳と、その無限の発展性とを確信し、理想社会の実現を期するもので、現代においてこれは生命の尊厳を基盤とする「人間愛」という言葉で表わされています。

「人間愛」の精神は、なによりも「生命（いのち）を大切にする心」の上に成り立っています。私たち一人一人の生命（いのち）は、それが誰の生命であっても、かけがえのないもので、何ものにも換え難く大切なものです。「人間愛」の精神は、人と人とが認め合い、尊敬し合い、許し合い、思いやる、そういう社会が必ず実現することを望み確信する心です。

学園では、園児・児童・生徒・学生等の学習者が知識や技能・技術を学修するに当たって、「人間愛」の精神（こころ）を人格の中核として形成することを大切に考えています。本来、教育の本旨は人格の形成にあるからです。

「人間愛」の教育の実践は、「園児・児童・生徒・学生の喜ぶ顔が見たい。子どもたちに悲しい思いをさせない。悲しむ顔は見たくない。」と教職員一同が心から思うところにあります。現在、学園では、教職員と子ども、子どもと子ども、教職員と教職員などの間で「人間愛」の精神が醸成され、各学校の教育の柱として展開されています。

［1］役員の概要

役職名	定員数	現員数
理事	12〜16	16
監事	2	2
評議員	38〜55	51

［2］理事・監事一覧

役職名	氏　名（所属・選出）	担当名
理事長	野島 正也（理事長）	
副理事長（常務理事）	新熊 基（法人事務局長）	総括・経営企画／教育環境整備（新キャンパス開設を含む）／財務／人事・労務／学園情報システム／危機管理対策：旗の台キャンパス・石川台キャンパス
常務理事	宮原 辰夫（国際学部教授）	総括・経営企画／教育環境整備（新キャンパス開設を含む）／教育・研究支援／寄附金／付属学校／危機管理対策
常務理事	根本 俊男（経営学部教授）	総括・経営企画／教育環境整備（新キャンパス開設を含む）／財務／人事・労務／学園情報システム／大学
理事	近藤 研至（文教大学学長）	教育環境整備（新キャンパス開設を含む）／大学
理事	益田 勉（人間科学部教授）	学園情報システム
理事	長谷川 清（文学部教授）	教育・研究支援／危機管理対策：越谷キャンパス
理事	石塚 浩（経営学部教授）	地域・社会・国際貢献支援
理事	中島 滋（健康栄養学部教授）	危機管理対策：湘南キャンパス
理事	戸田 弘美（付属中学校・高等学校長）	学園校友会／地域・社会・国際貢献支援／付属学校
理事	本田 勝浩（経営企画局長）	教育環境整備（新キャンパス開設を含む）／財務／人事・労務／広報戦略／学園校友会／寄附金
理事	宮越 昭彦（大学事務局長）	人事・労務／教育・研究支援／地域・社会・国際貢献支援／大学
理事／非常勤	岡本 久暢（学識経験者）	広報戦略／学園校友会／寄附金
理事／非常勤	土屋 隆英（学識経験者）	―
理事／非常勤	浜脇 麻起子（学識経験者）	―
理事／非常勤	若松 豊樹（学識経験者）	―
監事／非常勤	佐藤 善吉	
監事／非常勤	大内 康裕	

［3］評議員一覧

役職名	氏　名	役職名	氏　名	役職名	氏　名
評議員（学内）	髙橋 克已	評議員（学内）	宮越 昭彦	評議員（学外）	和田 俊子
評議員（学内）	布柴 靖枝	評議員（学内）	長谷川 明	評議員（学外）	杉田 知佳子
評議員（学内）	白井 啓介	評議員（学内）	星 薫泰	評議員（学外）	礒部 守孝
評議員（学内）	佐野 昌己	評議員（学内）	乳井 英太	評議員（学外）	秋元 努
評議員（学内）	椎野 信雄	評議員（学内）	太郎良 信	評議員（学外）	石田 恒好
評議員（学内）	出井 雅彦	評議員（学内）	秋山 美栄子	評議員（学外）	海谷 隆彦
評議員（学内）	益田 勉	評議員（学内）	長谷川 清	評議員（学外）	田辺 武光
評議員（学内）	宮武 利江	評議員（学内）	今井 陽子	評議員（学外）	戸田 あきら
評議員（学内）	釈氏 孝浩	評議員（学内）	佐久間 勲	評議員（学外）	前田 久明
評議員（学内）	奥田 孝晴	評議員（学内）	菅原 周一	評議員（学内）	近藤 研至
評議員（学内）	松村 康弘	評議員（学内）	中島 滋	評議員（学内）	岡本 久暢
評議員（学内）	石塚 浩	評議員（学内）	鈴木 誠	評議員（学内）	土屋 隆英
評議員（学内）	戸田 弘美	評議員（学内）	相原 真佐巳	評議員（学内）	根本 俊男
評議員（学内）	島野 歩	評議員（学内）	村山 直樹	評議員（学内）	野島 正也
評議員（学内）	保田 昇	評議員（学内）	松川 佳史	評議員（学内）	浜脇 麻起子
評議員（学内）	新熊 基	評議員（学内）	斎藤 正	評議員（学内）	宮原 辰夫
評議員（学内）	本田 勝浩	評議員（学外）	安岡 紀子	評議員（学内）	若松 豊樹

［4］教職員の概要

区分（本務のみ）	教　員	職　員	計
学校法人	―	14	14
文教大学	240	139	379
文教大学付属高等学校	36	4	40
文教大学付属中学校	23	3	26
文教大学付属小学校	16	4	20
文教大学付属幼稚園	11	3	14
合 計	326	167	493

※文教大学教員数には、学長1人を含む。

和暦	西暦	沿革
昭和2年	1927年	▶馬田行啓、小野光洋によって荏原郡大崎町（現品川区東大崎）に立正幼稚園、立正裁縫女学校創立
昭和3年	1928年	▶財団法人立正学園設立、立正女子職業学校設立
昭和4年	1929年	▶立正女子職業学校を立正学園女学校と校名変更、荏原郡荏原町（現品川区旗の台）に移転
昭和7年	1932年	▶立正学園高等女学校設立
昭和22年	1947年	▶学制改革により立正学園中学校設立
昭和23年	1948年	▶学制改革により立正学園女子高等学校設立
昭和26年	1951年	▶財団法人立正学園を学校法人立正学園と法人組織変更 ▶立正学園小学校設立
昭和28年	1953年	▶立正学園女子短期大学設立、家政科設置
昭和37年	1962年	▶短期大学に英語英文科、児童科設置
昭和38年	1963年	▶短期大学に文芸科、栄養科設置
昭和41年	1966年	▶埼玉県越谷市に立正女子大学設立、家政学部家政学科設置
昭和43年	1968年	▶家政学部に児童学科増設 ▶立正学園女子短期大学を立正女子大学短期大学部と校名変更
昭和44年	1969年	▶立正女子大学に教育学部初等教育課程、中等教育課程設置
昭和51年	1976年	▶立正女子大学に人間科学部人間科学科設置 ▶立正女子大学を文教大学と、短期大学部を文教大学女子短期大学部と校名変更
昭和52年	1977年	▶文教大学を男女共学とする
昭和55年	1980年	▶文教大学に情報学部広報学科、経営情報学科設置
昭和58年	1983年	▶学校法人立正学園を学校法人文教大学学園と法人名称変更
昭和60年	1985年	▶情報学部及び女子短期大学部を神奈川県茅ケ崎市に移転　湘南キャンパスとして開校 ▶品川区旗の台に文教大学経営情報専門学校設立
昭和61年	1986年	▶情報学部に情報システム学科増設
昭和62年	1987年	▶文教大学に文学部日本語日本文学科、英米語英米文学科、中国語中国文学科設置
平成2年	1990年	▶文教大学に国際学部国際学科設置
平成4年	1992年	▶文教大学に専攻科教育専攻科教育学専攻設置 ▶立正幼稚園を文教大学学園幼稚園と名称変更
平成5年	1993年	▶文教大学に大学院設置、人間科学研究科修士課程設置 ▶文教大学に外国人留学生別科設置
平成10年	1998年	▶人間科学部に臨床心理学科増設 ▶教育学部の初等教育課程を学校教育課程と名称変更 ▶文教大学付属中学校・高等学校を男女共学とする
平成11年	1999年	▶大学院に言語文化研究科修士課程設置
平成12年	2000年	▶大学院人間科学研究科に博士（後期）課程増設 ▶国際学部に国際コミュニケーション学科、国際関係学科増設 ▶女子短期大学部の文芸科を現代文化学科、英語英文科を英語コミュニケーション学科、栄養科を健康栄養学科、家政科をライフデザイン学科に名称変更
平成15年	2003年	▶教育学部に心理教育課程増設 ▶女子短期大学部を単科の健康栄養学科と組織変更
平成17年	2005年	▶大学院に情報学研究科修士課程・国際協力学研究科修士課程設置 ▶大学院人間科学研究科に人間科学専攻修士課程増設 ▶文教大学学園幼稚園を文教大学付属幼稚園と名称変更
平成19年	2007年	▶大学院に教育学研究科修士課程設置
平成20年	2008年	▶人間科学部に心理学科増設 ▶国際学部国際コミュニケーション学科を国際理解学科、国際関係学科を国際観光学科と名称変更
平成22年	2010年	▶文教大学に健康栄養学部管理栄養学科設置
平成24年	2012年	▶大学院言語文化研究科に博士（後期）課程増設
平成26年	2014年	▶情報学部を改組し、情報社会学科、メディア表現学科増設 ▶文教大学に経営学部経営学科設置
平成27年	2015年	▶大学院に国際学研究科修士課程設置
平成29年	2017年	▶文学部に外国語学科増設
令和2年	2020年	▶教育学部に発達教育課程設置
令和3年	2021年	▶国際学部・経営学部を東京都足立区へ移転　東京あだちキャンパスとして開校

各キャンパス

文教大学

越谷キャンパス　埼玉県越谷市南荻島 3337

教育学部／人間科学部／文学部
教育学研究科／人間科学研究科／言語文化研究科
専攻科／外国人留学生別科

湘南キャンパス　神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100

情報学部／国際学部／健康栄養学部／経営学部
情報学研究科／国際学研究科

文教大学付属中学校・高等学校
文教大学付属幼稚園

旗の台キャンパス　東京都品川区旗の台 3-2-17

文教大学付属小学校

石川台キャンパス　東京都大田区東雪谷 2-3-12

学校長

大学 学長
近藤 研至

中学校・高等学校 校長
戸田 弘美

小学校 校長
島野 歩

幼稚園 園長
保田 昇

[1]学園の中期経営計画について

文教大学学園は、学園が中長期的に抱える諸課題及び重点事業に対応するため、「教育リーディング・ユニバーシティ文教 ～教育力トップを目指す～」をビジョンフレーズとして、2009年度から「学園経営戦略 第1次中期経営計画（2009–2012）」（以下、「1次中計」）、2013年度から「第2次中期経営計画（2013–2016）」（以下、「2次中計」）を推進してまいりました。学園のハード（校舎リニューアル等）及びソフト（教育力強化、組織・制度改革等）両面に跨る包括的かつ大規模な計画として策定した「1次中計」から校舎の耐震化・リニューアルを継続しつつ、「2次中計」では「教育力」と「経営力」を抜本的に強化し、将来にわたって選ばれ続けるトップクラスの教育機関となるための基盤を早期に築いていくことを基本目的とした「アクションプラン」を策定し、経営と教学との緊密な連携のもと、実行してまいりました。

中期経営計画の策定・実行による効果は大きく、特に、計画に基づいて進めてきた大学新キャンパス開設を契機として、付属学校も含めた学園全体における志願者獲得、教育力強化、進学・就職実績向上、学園財政基盤の安定化等の課題に対して、学園全体で取り組んでいくことが極めて重要と認識しています。そこで、これまでに実施してきた学園経営戦略の総括を踏まえ、学園のミッション「『人間愛』の教育」及びビジョン「～教育力トップを目指す～」を継承し、2018年1月に新中期経営計画「文教アクションプラン2021」を策定いたしました。

「文教アクションプラン2021」は、「改革推進の実質化」を図ることを主眼とし、2020年度までの具体的な目標や重点化したアクションプランを各校が「主体的に策定・実行していくこと」に特徴があります。学園の「4年後の目標」*のもと、学校改革の推進主体である各校は、それぞれの「4年後の目標」*と「達成目標」を設定し、その目標実現のための施策として策定した「アクションプラン」を着実に実行してきました。

理事会は「経営・管理」部門のアクションプランの実行のほか、各校の進捗状況の報告を受け、各アクションプランに設定している達成指標に照らして進捗度合いを測るとともに、アクションプランの評価・改善に関わることで、各校の計画推進の支援を担いました。併せて、専任教職員に対して進捗状況の情報公開及び意見募集を行うことで、PDCAの流れに沿ってアクションプランを滞りなく進め、着実に成果をあげていけるように努めました。

これにより学園全体における志願者獲得や教育力、進学実績、学生の就業力の向上、経営における財政基盤の安定等の各種課題に対し、成果をあげてまいりました。

「文教アクションプラン2021」のビジョンマップおよび実施した各校事業の推進状況は次の通りです。

学園及び各校の【4年後の目標】

	目　標
学園	総合学園の維持・発展
大学	東京あだちキャンパス開設を契機とする大学の発展
付属中学校・高等学校	「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成
付属小学校	「ふるさとのような小学校」唯一無二の豊かな教育・選ばれる学校の確立
付属幼稚園	「選ばれ続ける幼稚園」の実現

BUNKYO ACTION PLAN 2021　文教大学学園経営戦略中期経営計画

ミッション 『人間愛』の教育　ビジョン ～教育力トップを目指す～

○ていねいに、たくましく育てる文教　○地域・社会・世界につながる文教

4年後の目標　総合学園の維持・発展

- 「キャンパス新構想」の着実な実現へ
- 教育インフラの充実を図り、強い競争力を実現する
- 財政を強化し、学園の更なる発展のための基盤を整備する
- 社会のニーズに応えられる文教ブランドを確立する

目標達成：学習者1万人以上　学習者の満足度90%以上

大学

4年後の目標：東京あだちキャンパス開設を契機とする大学の発展

達成目標：有機的に連携した3キャンパス体制を2021年度に実現する

【アクションプラン】

- キャンパス新構想：●キャンパス新構想の実現と更なる深化
- 募　集：●高大接続改革に伴う入試制度の構築
- 教　育：●教職課程の整備と更なる充実
- 研　究：●研究支援体制の強化とコンプライアンスの推進
- 学生生活：●学生支援室の更なる充実と、学習支援体制の構築
- 地域・社会連携：●連携活動に関するマネジメント体制の確立
- 内部質保証：●内部質保証推進体制の構築

中学校・高等学校

4年後の目標：「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成　●進学実績の向上と、教育力の向上を図る　●豊かな人間性と、強い心を育む　●グローバルに活躍できる力を培う　●入試広報の充実を図る

達成目標：国公立大学、早慶上理、GMARCH合格者計130人以上

【アクションプラン】

- 募集・広報：●志願者数の増加（定員の充足）●入学者の質の確保
- 教　育：●生徒の学力の向上 ●新教育課程の構築
- 研　究：●教員の指導力の向上
- 生徒生活：●豊かな人間性と強い心の育成 ●基本的生活習慣の確立
- 進路・キャリア：●進学実績の向上 ●キャリア教育の充実 ●文教大学との連携
- 地域・社会連携：●ボランティア活動の推進
- 国際交流：●コミュニケーション力の向上 ●海外語学研修・留学・進学の充実

小学校

4年後の目標：「ふるさとのような小学校」唯一無二の豊かな教育・選ばれる学校の確立

達成目標：定員50名に対し、安定した倍率・志願者の確保／保護者の満足度9割以上の維持

【アクションプラン】

- 募集・広報：●倍率3倍以上の志願者の確保
- 教　育：●自ら学び続ける子どもを育てる教育の実践 ●グローバルに羽ばたく子どもを育てる教育の推進
- 研　究：●1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進 ●文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立
- 児童生活：●人間愛あふれる文教っ子「大切な八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進
- 進路指導：●一人一人の夢を実現させる進路指導 ●進学校への輩出
- 保護者・地域連携：●学校教育と家庭教育の連携 ●地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立

幼稚園

4年後の目標：「選ばれ続ける幼稚園」の実現

達成目標：入園者60名の確保／保護者の満足度9割以上

【アクションプラン】

- 募集・広報：●安定した入園者の確保
- 教　育：●「生きる力の土台を広げる教育」の推進
- 研　究：●時代の変化に対応した幼稚園の在り方の構築
- 園児生活：●「素直で明るい元気な子ども」の永続的な実現
- 進路支援：●付属小学校を含めた希望の小学校への進学実現
- 保護者・地域連携：●「保護者との連携重視の幼稚園」と「地域ニーズに応える幼稚園」の発信

経営・管理

【アクションプラン】

- 教育環境：●競争力を持った教育環境の整備
- 財　政：●強固な財政基盤の確立
- 組　織：●変化に対応できる組織力の強化
- 広　報：●戦略的広報活動の展開

大学

カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度（20%・40%・60%・80%・100%）
キャンパス新構想	キャンパス新構想の実現と更なる深化	A101	地域連携の強化	足立区を中心とした教育行政との連携関係構築・強化	■■■■■■■■■□
				新キャンパス周辺大学との連携関係構築・強化	■■■■■■■■■□
				足立区周辺で大学から地域向けの企画実施、情報発信	■■■■■■■■■□
		A102	教育力の強化	全学共通教育プログラムの導入	■■■■■■■■■■
				キャンパス間の時間割統一	■■■■■■■■■■
				ICTを活用した教育の充実	■■■■■■■■■■
		A103	志願者確保対策の強化	新キャンパス開設に伴う指定校戦略の立案	■■■■■■■■■■
				外国人留学生募集戦略の立案	■■■■■■■■■□
		A104	教育・研究体制の整備	3キャンパス体制を見据えた湘南校舎の教育・研究体制の整備	■■□□□□□□□□
				各センター機能の充実	■■■■■■■□□□
募　集	高大接続改革に伴う入試制度の構築	A105	新たな選抜制度の確立	平成32年度以降のAO・推薦・一般入試・大学入学共通テスト制度変更の理解	■■■■■■■■■■
				AO・推薦・一般入試・大学入学共通テストへの対応	■■■■■■■■■■
		A106	全国入試特待生制度の効果的な実施	現行制度の検証	■■■■■■□□□□
教　育	教職課程の整備と更なる充実	A107	課程認定基準に基づいた教育課程の編成・運営	再課程認定申請と新課程への円滑な移行	■■■■■■■■■□
		A108	教職課程運営体制の整備	教員養成課程運営委員会体制整備と全学組織の機能充実	■■■■■■■■■□
		A109	関係自治体との連携による教員養成力の強化	学校等、教育現場との連携による学習の場の充実	■■■■■■■■■□
研　究	研究支援体制の強化とコンプライアンスの推進	A110	研究活動を充実させるための組織の在り方の検討	産業界・行政・他の教育機関からの研究ニーズの把握	■■■■■□□□□□
		A111	企業、自治体からの研究費獲得のための環境の整備	受託研究、共同研究支援、実施体制の構築	■■■■■□□□□□
		A112	コンプライアンスの推進	研究倫理教育の徹底と公的研究費の着実な管理	■■■■■□□□□□
学生生活	学生支援室の更なる充実と学習支援体制の構築	A113	学生支援室を中心とした学生支援体制の充実	・学生支援室の課題確認と検証 ・校舎間での学生支援に係るノウハウの共有	■■■■■■■■□□
		A114	学習支援体制の在り方の取りまとめ	・各学部や学生のニーズの把握 ・学習支援体制の検討	■■■■■■■■□□
地域・社会連携	連携活動に関するマネジメント体制の確立	A115	学外との連携体制の確立	連携活動を充実させるための組織の在り方の検討	■■■■■■■■■■
内部質保証	内部質保証推進体制の構築	A116	第3期認証評価に対応した体制の整備	学内の点検・評価体制の見直し	■■■■■■■■■■
				PDCAサイクルの構築と継続	■■■■■■■■■■

中学校・高等学校

カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度 20%		40%		60%		80%		100%	
募集・広報	・志願者数の増加（定員の充足） ・入学者の質の確保	B101	募集・広報活動の強化	【募集】 ・学校説明会や体験学習の充実 ・公立中学校や塾への訪問活動推進及び連携強化 ・外部相談会への積極的な参加 【広報】 ・ホームページの充実 ・学校案内等の広告媒体の充実 ・内部広報の強化 【入試制度改革】 ・時代のニーズに合った入試制度改革	■	■	■	■	■	■	■	■		
教　育	・生徒の学力の向上 ・新教育課程の構築	B102	外部模試偏差値の向上	外部模試の目標設定、実施、及び分析	■	■	■	■	■					
		B103	「確かな学力」を育む、新教育課程の作成	・次期学習指導要領に沿った中学の新教育課程の作成 ・次期学習指導要領に沿った高校の新教育課程の作成	■	■	■	■	■	■	■	■		
		B104	英語検定の取得結果の向上	英検対策の実施	■	■	■	■	■	■	■	■		
研　究	教員の指導力の向上	B105	校内研究授業の充実	研究授業の実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		B106	校外研修の推進	校外研修会への参加促進	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
生徒生活	・豊かな人間性と強い心の育成 ・基本的生活習慣の確立	B107	学校行事の内容の充実	学校行事(体育祭、白蓉祭、合唱コンクール、トリニティーキャンプ、修学旅行等)の内容の充実による、豊かな人間性と強い心の育成	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
		B108	自宅学習時間の確保と、生活指導の徹底	・学習時間調査と生徒への指導を行い、自宅学習時間の確保 ・時間厳守、遅刻者の減少による皆勤者の増加 ・挨拶の励行と、身だしなみ指導の徹底	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
進路・キャリア	・進学実績の向上 ・キャリア教育の充実 ・文教大学との連携	B109	学習・進路行事やガイダンスの充実と、生徒カルテの構築	・学習・進路行事の充実により、生徒に進学の目的を明確化 ・進路ガイダンスの推進 ・生徒カルテの構築と活用	■	■	■	■	■	■	■	■		
		B110	「文教キャリア教育プログラム」の実施と進化	・各学年で学校行事及び、総合的な学習の時間などを活用した「文教キャリア教育プログラム」の実施 ・1年間の学習の集大成として、総合学習発表会の実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		B111	体験授業と、教員間の意見交換会の実施	・文教大学の先生方による体験授業及び教員間の意見交換会の実施 ・希望者による文教大学キャンパス訪問	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
地域・社会連携	ボランティア活動の推進	B112	清掃活動、地域の祭り手伝い、交通安全パレード、募金活動等の実施	・ボランティアクリーンアップ ・毎朝の近隣清掃活動、地域の祭り手伝い ・地域の交通安全パレード ・幼稚園の祭り手伝い ・募金活動	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
国際交流	・コミュニケーション力の向上 ・海外語学研修、留学、進学の充実	B113	留学等のための事前・事後指導の充実と、華語講座の継続	・オーストラリア短期語学研修・中長期留学と、事前・事後指導の継続実施 ・セブ島英語研修(7日間)および事前・事後指導 ・台湾の大学進学をめざす華語講座、台湾への進学に関する説明会の継続 ・参加者の増加をめざして、経験者と希望者間の意見交換会の実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		B114	外国人教員の活用と、「オンライン英会話」の開始	・TOEFL Junior等の取得の奨励 ・外国人教員(JET教員等)の活用 ・中学生 放課後「オンライン英会話」を計画し、2018年度から実施	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

小学校

カテゴリー	４年後の具体目標	No.	アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度 20%	40%	60%	80%	100%
募集・広報	倍率3倍以上の安定した志願者の確保	C101	顕在層（学校説明会や幼児教室訪問で出会える層）からの志願者の拡大	・幼児教室への訪問の拡大 ・在校児童の活動を反映した動画の工夫 ・在校児童と来校未就学児とのふれあいの場の設定 ・5回におけるそれぞれに特色を持たせた学校説明会の工夫と実施 ・幼児教室における本校単独説明会を実施	■	■	■	■	■
		C102	潜在層（受験しようか迷っている層・受験は考えていないが私立小学校に入れることが可能な層）からの志願者の拡大	・幼稚園・保育園訪問の拡大 ・受験雑誌への出稿 ・書店売り冊子への出稿 ・接触保護者への本校行事お誘いの郵送	■	■	■	■	■
教　育	・自ら学び続ける子どもを育てる教育の実践 ・グローバルに羽ばたく子どもを育てる教育の推進	C103	確かな学力の伸長	・文教大学付属小学校型アクティブラーニングの構築 ・全国学力調査（CRT）の実施	■	■	■	■	▌
		C104 ①	グローバルな人材の育成	・オーストラリアへの短期留学の継続実施	■	■	▌		
		C104 ②		・TOKYO GLOBAL GATEWAY（英語村）への参加 ・イングリッシュタイムの導入 ・英語ロボットの導入 ・英語電子辞書の導入・活用 ・英語の絵本コーナー設置	■	■	■	■	▌
研　究	・1時間ごとに成長できる学校「深い学び」の推進 ・文教大学付属小学校型アクティブラーニングの確立	C105	魅力的な授業創り・授業力の向上	・全教員が年に1回～2回、研究授業を実施 授業力アップ講座　年間2回実施 ・全教員が外部研修会に参加及び研修内容の共有 ・全教員のICTスキルアップ・プログラミング教育スキルアップのための研修　年間5回	■	■	■	■	■
児童生活	人間愛あふれる文教っ子「大切な八か条」に基づく豊かな教育の実践と推進	C106	児童による挨拶運動の励行	・児童会を中心に挨拶運動を展開 ・登校時、教員による挨拶指導	■	■	■	■	■
		C107	「文教っ子八か条」の徹底	・「文教っ子八か条」の理解 ・八か条の家庭への配布とよびかけ ・生活目標への挿入	■	■	■	■	■
進路指導	・一人一人の夢を実現させる進路指導 ・進学校への輩出	C108	一人ひとりへのきめ細やかな充実した進路指導	・進路指導部を設立 ・充実した進路指導の資料作成と豊富な実践の提示 ・中学受験にむけての個別面談・進路指導	■	■	■	■	
		C109	付属中学高等学校との連携	・本校児童対象の付属中学校説明会に参加 ・付属中学校ならびにBステーション指導者による出前授業への参加	■	■	■	■	■
保護者・地域連携	・学校教育と家庭教育の連携 ・地域に貢献し地域に愛される私立小学校としての確立	C110	・学校と保護者を結ぶ学校だより学年だよりの充実 ・ホームページの充実	・月に1回・学校だより・学年だよりの発行 ・ホームページへの行事掲載	■	■	■	■	■
		C111	東急池上線へのボランティア活動	・池上線、石川台周辺への清掃活動 ・駅員の方々へのご挨拶 ・駅員の方々との定期的な顔合わせ ・池上線のイベント参加	■	■	■	■	

幼稚園

カテゴリー	4年後の具体目標	No.	アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度 20%	40%	60%	80%	100%
募集・広報	安定した入園者の確保	D101	プレスクールの充実	・プレスクールの内容の充実 ・実施方法や周知方法の工夫	■	■	■	■	▌
		D102	ファンを増やすための口コミの活用	・世代をつないでいく方策の構築（親子を繋ぐ・満足度を発信する） ・近隣への広報の工夫 ・乳幼児関連施設への広報	■	■	■	■	▌
		D103	認知度を高め、応募者を増やす	・ホームページへのアクセス回数を増やす工夫 ・それぞれに特色をもった説明会と見学会の実施 ・周辺区への有効な広報 ・応募を後押しできる方策の検討と実施	■	■	■	■	▌
教　育	「生きる力の土台を広げる教育」の推進	D104	新しい幼稚園教育要領への対応	・新しい幼稚園教育要領の理解と本園のカリキュラムの関連性の確認及び見直し ・新しい指導要録への移行準備	■	■	■	■	■
		D105	指導力の向上	・指導内容、方法の教員間での共有 ・研修会への参加と研修内容の共有 ・園内研修の充実	■	■	■	■	
		D106	生きる力の土台を広げる「遊び」「運動」「行事」「生活」の指導の実施	・生きる力の土台（人間力の源）を育む教育活動の推進 ・各学年の指導の工夫と園児の変容の記録	■	■	■	■	■
		D107	動植物と触れ合う機会を増やす	・新しい動物小屋での飼育についての共通理解と動物の購入計画 ・新園舎に相応しい草花や野菜の栽培についての共通理解と田植えや稲刈りの指導の引き継ぎ	■	■	■	■	■
研　究	時代の変化に対応した幼稚園の在り方の構築	D108	勉強会の実施	・品川区における少子化や保育園の現状把握 ・働く女性の増加への対応策についての研修 ・地域ニーズの把握と対応策の検討 ・講師を招聘した研修会の実施	■	■	■	■	
		D109	少子化と共働き家庭の増加に対する幼稚園の将来展望の検討	・幼稚園の将来展望についての検討 ・将来展望の中間まとめの作成	■	■	■	■	
園児生活	「素直で明るい元気な子ども」の永続的な実現	D110	挨拶や食事のマナー、手洗い・うがい等、基本的な生活習慣の習得	・重視する「基本的な生活習慣」の再確認 ・毎月の目標設定と周知	■	■	■	■	▌
		D111	保護者との「園児の成長のストーリー」の共有	・エピソードで綴った「園児の成長のストーリー」の作成 ・保護者への発信	■	■	■	■	▌
		D112	“文教スタイル”の共有（教職員・保護者）	・“文教スタイル”の発信（文教スタイル：「認める・見守る・ともに楽しむ」という保育・指導のスタイル） ・保護者との共有	■	■	■	■	▌
進路支援	付属小学校を含めた希望の小学校への進学実現	D113	“学ぶ、をあそぼう。”の強化	真の学ぶ力（意欲・見出す力・実行力）を育てる教育活動の推進	■	■	■	■	▌
		D114	付属小学校との連携	・付属小学校との連携行事の工夫 ・付属小学校推薦に向けた有効な方策の検討	■	■	■	■	▌
		D115	「文教幼児教室」の本格実施	・本格実施に伴う体制づくり ・「文教幼児教室」の広報の工夫 ・年3回の特別講演会の実施 ・担任との情報共有の工夫	■	■	■	■	▌
保護者・地域連携	「保護者との連携重視の幼稚園」と「地域ニーズに応える幼稚園」の発信	D116	園児の成長を保護者とともに楽しむ活動や環境の構築	・保護者との連携の工夫 ・保護者の活動の楽しみ方の発信 ・負担にならない楽しみ方の提案	■	■	■	■	▌
		D117	幼稚園が求める家庭の明確化	・幼稚園が「求める家庭・保護者」の再確認 ・「本園は次のようなご家庭にピッタリです」（8項目）の再検討	■	■	■	■	▌
		D118	地域や家庭のニーズの把握とそれに応える方策の検討	・地域や家庭のニーズの把握と方策の検討 ・プレスクール前の幼児対象の企画の検討	■	■	■	■	▌

経営・管理

カテゴリー	４年後の具体目標	No.	アクションプラン	具体的な取り組み内容	達成度（20%／40%／60%／80%／100%）
教育環境	競争力を持った教育環境の整備	K101	東京あだちキャンパスの開設	開設スケジュールの完全な履行の管理	■■■■■■■■■□
		K102	越谷・湘南キャンパス キャンパス環境の向上	学生生活環境を重視した事業計画の策定と実施	■■■■■■■■■■
財　政	強固な財政基盤の確立	K103	学園財務の徹底管理	中期財務計画の策定と履行の管理	■■■■■■■■□□
		K104	学習者の安定的確保	在籍者数計画の策定と履行の管理	■■■■■■■■□□
		K105	補助金の安定的確保	補助金計画の策定と履行の管理	■■■■□□□□□□
		K106	寄付金事業の推進	寄付金の募集活動の継続	■■■■■■□□□□
		K107	経費の検討と変更	経費計画の策定と履行の管理	■■■■■■■■□□
組　織	変化に対応できる組織力の強化	K108	ガバナンス体制の強化	経営と教学の情報共有の実施	■■■■■□□□□□
		K109	リスク管理体制の強化	学園危機管理体制の確認と周知の実施	■■■■■■■■□□
		K110	学園校友会との連携強化	学園校友会を通じて、校友及び校友団体との連携・強化	■■■■■■■■□□
広　報	戦略的広報活動の展開	K111	東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開	・東京あだちキャンパス開設前後（2017年度から2022年度）における効果的な広報展開計画立案 ・年度毎に伝えたい内容と対象のフォーカスを設定 ・各訴求対象（一般、関係行政機関、地域住民、受験生、高校、教職員、学生、保護者、卒業生）に合わせた適切な広報活動の設定 ・計画に沿った実行と管理	■■■■■■■■□□
		K112	受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化	・受験生ニーズに即したプロモーション企画・ツールの研究とその整備 ・各校、各学部ホームページの整備支援 ・SNS等を利用した情報発信強化 ・プレスリリースの強化(数と質)	■■■■■■■■□□
		K113	効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備	・広報活動の組織的な連携強化（学園広報委員会の活用やインナー向け説明会等の実施など） ・広報コンテンツの組織的発掘体制の整備	■■■■■■■■□□

[1]主な事業の目的・計画

学園経営戦略

学園経営戦略に関する事業

①東京あだちキャンパス建築計画の推進
②寄附金事業の推進
③リスク管理対応体制の強化事業
④校友会活動の推進事業
⑤戦略的広報活動の展開
⑥越谷キャンパス新棟建設工事

文教大学・文教大学大学院

当該年度の教育目標

入学時の初年次教育から卒業時の卒業研究等に至る4年間を通じて、全ての学生に目が届くきめ細かい教育を行います。「教育活動を通じて、学生と社会を繋ぐ『プラットフォーム』としての機能」「教育活動や日常生活のあらゆる機会において学生が自分の居場所を見つけることができ、自己肯定ができる『ホーム』としての機能」を目標に教育・研究活動を充実させます。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業
①入学前教育
②初年次教育
③教務委員会の改組及び全学共通カリキュラムの整備
④学修成果可視化システムの試行
⑤担任制度とオフィスアワー制度
⑥キャリア形成支援
⑦国際交流事業の推進
⑧第３期認証評価に向けた対応
⑨各学部における取り組み
⑩大学院教育
⑪専攻科
⑫外国人留学生別科

当該年度の研究活動・支援事業
①外部研究費（科学研究費補助金等）の獲得支援
②学内の競争的資金
③学術図書出版助成
④在外研究の支援

当該年度の学習者支援事業
①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援
②障がいを有する学生への支援
③100円朝食の実施
④海外留学希望者に対する支援
⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助
⑥キャリアイングリッシュ講座
⑦バス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）
⑧学生向け資格取得講座の開催

当該年度の保護者または地域連携事業
①地域、行政と大学の連携・協力
②学部・研究科の教育・研究と結びついた地域連携の取り組み
③高大連携の取り組み
④地域連携センターによる講座
⑤保護者との連携
⑥大学間の連携・協力

校舎施設整備の改善事業
【越谷キャンパス】
①正門警備室 自動火災報知設備更新工事
②図書館 入館管理システムの更新

【湘南キャンパス】
①2号館 化学薬品排水管改修、貯留タンク設置工事

入試制度、募集強化事業
①2021年度入学者選抜方法の検討
②募集強化計画の実施
③入試情報サイトのリニューアル
④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

その他
①ホームカミングデーの実施
②教員免許状更新講習
③図書館 ホームページの再構築
④図書館 電子情報資料整備事業
⑤新型コロナウイルス感染症対策の実施

文教大学付属中学校・高等学校

当該年度の教育目標

教育目標で掲げる「慈愛の心」「輝く知性」「世界に飛翔する力」の育成を進めます。具体的には、中学生には自立心を育てること、高校生にはグローバルな視点を持って将来の「自分像」が描けることを目標とします。また、生徒が希望する進路実現のため、「進学力」の向上を目指します。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業
①文教ステーション（Bステ）・各種講習・学習合宿の実施
②キャリア教育の充実
③タブレットPC活用の推進
④自立心を育てる
⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進
⑥台湾修学旅行から台湾の大学進学へ

当該年度の研究活動事業
①教員の授業力の向上
②進学実績の向上
③ICT（情報コミュニケーション技術）機器の活用

当該年度の学習者支援事業
①「JETプログラム」による外国語（英語）指導助手の活用
②外国人英語講師の幅広い活用

③プログラミング教育の推進
④特待生の入学金、授業料免除

当該年度の保護者または地域連携事業

①保護者アンケートの実施と学年便りの配布
②地域における生徒のボランティア活動

校舎施設整備の改善事業

①人を呼べる校舎の追求

入試制度、募集強化事業

①学校説明会の積極的な実施
②多様なニーズに応えた入試制度の設定
③魅力ある広報活動の実施
④生徒募集活動の成果分析の実施

その他

①生徒指導上の留意点について
②新型コロナウイルス感染症対策の実施

文教大学付属小学校

当該年度の教育目標

「慈愛の心をもった子ども」「自ら学ぶ子ども」「情操豊かな子ども」「頑張る子ども」「明朗な子ども」の育成
◎一人一人の可能性を大切に育み、一人一人が輝ける学校へ
◎「教えられる学校」から「学びを創る学校」へ
子どもたちが自分自身の思考において活動する能動的な学びを創ります。

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業

①知的能力を高める体験活動の充実
②国際社会で活躍する人材の育成:英語力の強化
③「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化
④自分の考えを明確にもち、交流により考えを深めていける人材に!【深い学びへ】～「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」の構築　本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～
⑤プログラミング教育の充実
⑥指導体制の工夫による個に応じた指導
⑦基礎・基本の確実な定着
⑧多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚
⑨日常的な運動継続による体力向上
⑩縦割り行事や全校自然体験学校の取り組みによる豊かな心の醸成

当該年度の研究活動事業

①自分の考えを明確にもち、考えることが楽しめる人材の育成
②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元
③日常的な教材の研究と準備

当該年度の学習者支援事業

①系統的なキャリア教育
②個に応じた補習活動
③適切な進路指導

当該年度の保護者または地域連携事業

①保護者参画による行事等
②年間を通した保護者による参観や面談
③地域連携強化による防災
④協力・支援を生かす同窓会

校舎施設整備の改善事業

①校舎・施設の特長を最大限に活用した学習活動の展開
②校舎内・校舎外における教育活動のバランス
③校舎目隠しフェンス取り付け工事

入試制度、募集強化事業

①広報活動の充実と応募者増への戦略
②学校説明会の充実
③学校外説明会の充実

その他

①グローバルに活躍する人材の育成
②アフタースクールとの連携
③「人間愛」あふれる文教っ子 大切な八か条
④文教っ子スタンダード
⑤自然学校における自然体験の充実
⑥防災意識の向上
⑦コンピュータシステム保守
⑧新型コロナウイルス感染症対策の実施

文教大学付属幼稚園

当該年度の教育目標

学園建学の精神「人間愛」のもと、「素直で明るい元気な子ども」を教育目標として掲げ、教職員一丸となって子ども達を育みます。
①元気に挨拶ができ、正しい生活習慣を身に付けた子ども
②慈愛・感謝の気持ちや思いやりの心をもち、感じたことを素直に表現できる子ども
③自分の役割を果たすとともに、自分のことは自分でやろうと努力する子ども
④好奇心が旺盛で、自ら積極的に行動できる子ども

主な事業計画

当該年度の教育活動に関する事業

①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくり
②様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、“学ぶ、をあそぼう。”の具現化
③「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫した、生きる力の土台を広げる教育の更なる推進
④動植物と触れ合う機会を増やし、自然の変化を肌で感じたり命の大切さを実感したりする活動を通した、豊かな感性の育み
⑤園行事と関連する日本の伝統的行事の体験の工夫

当該年度の研究活動事業

①品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を効果的に利用した、個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携
②品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会への参加による教員の資質向上

③教員の研修・講演会等への積極的な参加環境づくり

当該年度の学習者支援事業

①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践
②真の学ぶ力の育成
③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供による進学率向上
④「文教幼児教室（課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム）」との連携

当該年度の保護者または地域連携事業

①保護者との連携方法の工夫
②保護者と連携した諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」の諸行事への協力
③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施
④未就園児保護者との連携及び保護者同士の交流のための「ぶんぶん広場」の充実
⑤共働き保護者を対象とした預かり時間延長の推進

校舎施設設備の改善事業

①園舎の施設設備機能の有効活用
②園児の目線に立った施設設備の整備

入試制度、募集強化事業

①保護者のニーズとのミスマッチの防止
②入園考査方法の精査
③タイムリーな情報を発信できるホームページの改修・有効活用
④プレスクール実施方内容の工夫

その他

①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫
②保護者の満足度を高める教育活動の充実
③新型コロナウイルス感染症対策の実施

その他の施設（八ヶ岳寮）

主な事業計画

①八ヶ岳学寮の運営

［2］進捗状況

学園経営戦略

学園経営戦略に関する事業

①東京あだちキャンパス建築計画の推進

2019年4月から着工した建築工事は、新型コロナウイルス感染症の大きな影響を受けることもなく、2020年度も順調に進めることができました。セキュリティ強化等の工事を追加で実施したことにより、当初予定していた計画から3か月ほど遅れ、2021年2月18日に建物の引き渡しを受けました。その後2月22日に竣工式、3月20日には学園関係業者、企業等を招き開設記念式典を執り行い、建築工事に関する本事業は無事に完了しました。

新キャンパス開設を契機に、多様性と柔軟な発想のもと従来培ってきた人材・知識・経験のキャンパスを越えた融合を行い、互いに支え合う三つのキャンパスを柱にした「一つの文教」として、更に広い社会の発展に寄与していきます。

②寄附金事業の推進

2020年度は、文教大学学園の各校（幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学）の就学支援・教育振興に資することを目的とした「文教サポーターズ募金」の募集を行い、550件、24,233,065円の寄附をいただきました。寄附対象の学校種を「大学」としていただきました「文教サポーターズ募金」においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により困窮している学生への支援としてお申し込みいただく仕組みも2020年度に作り、多くの寄附をいただいております。また、2021年4月に開設した文教大学新キャンパスの環境充実にご協力いただく「東京あだちキャンパス開設募金」の募集も行い、190件、17,944,000円の寄附をいただきました。今後も、新規寄附金事業の推進も含め、強固な寄附金募集体制の確立を目指してまいります。

③リスク管理対応体制の強化事業

大規模地震発生時の危機管理対応能力の強化のために、以下の施策を実施しました。

1）大規模地震対応マニュアル周知訓練の実施
新任職員を対象に、大規模地震対応マニュアルの周知訓練（9月実施、参加者7名）を実施しました。

2）災害備蓄品の整備・拡充
想定残留者5,150名（越谷1,900、湘南1,300、旗の台1,600、石川台350）が3日間滞在するために必要な災害備蓄品を整備する「備蓄品整備計画（5カ年計画）」を作成し、2012年度から実行中です。2020年度は、「備蓄品整備計画（5カ年計画）」に基づき、消費期限切れとなる備蓄品の入替えを中心とした整備を図りました。

3）緊急地震速報システムの入替え・拡充
経年劣化した緊急地震速報システム5台（越谷1、湘南1、旗の台2、石川台1）の入替えを行いました。また、開設に向けて東京あだちキャンパスにも緊急地震速報システムを新たに設置しました。

④校友活動の推進事業

学園から卒業生に向けて、積極的に情報発信を行うことにより、卒業生との連携強化を図りました。文教大学学園校友会報『あやなり』第７号を、幼稚園から大学院までの全卒業生約86,000名宛に、2020年9月上旬に発送し、連動したWebサイトも同時期に最新情報に更新しました。『あやなり』第７号では、2021年4月開設の文教大学東京あだちキャンパスを紹介する特集を組み、足立区長と学長の対談や足立区に関係のある卒業生を紹介しました。
『あやなり』に同封したアンケートは約400通の返信があり（登録情報の変更のみも含む）、今後の活動に生かしていきます。

⑤戦略的広報活動の展開

戦略的広報活動の展開として、「東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開」「受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化」「効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備」の3点を中心に行ってきました。

・東京あだちキャンパスをキーとした新しい「文教大学」の広報展開
東京あだちキャンパス開設の前年度として、広報展開計画（2017～2022年度）に沿って、伝えたい内容と対象の重点化を行い、ポスター

やチラシの作成、特設Webサイトの充実や各種広報媒体への告知を行いました。ただ、当初予定していた開設時のイベント開催は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止し、開設記念式典のみ参加者を絞って実施しました。

・受験生ニーズに応える募集支援広報の重点化
学園各校の志願者確保に向けた募集活動に対して、受験生ニーズに即した募集支援広報として、2020年度は、これまで実施してきたマス媒体や各種広告を用いたプロモーション活動を継続するとともに、動画コンテンツの制作によるSNSやWebサイトの情報発信を重点的に行いました。特に、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から各校の対面でのイベント中止もあり、各校ホームページの充実は重要な意味を持ち、その中で大学のホームページリニューアル、付属幼稚園ホームページリニューアルを行いました。

・効果的かつ戦略的な広報活動に向けた基盤整備
効果的かつ戦略的な広報活動を実施するため、2019年度から各校に配置した「広報連絡員」の充実（各校の情報素材の掘り起こし）を図りつつ、学内者向け説明会等を実施していく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大していたこともあり、各校の情報素材の掘り起こしがあまり出来ず、例年と比較すると、プレスリリース数も多く発信出来ませんでした。

⑥越谷キャンパス新棟建設工事

2020年4月に選定した設計会社、株式会社昭和設計とともに基本設計を開始し、計画コンセプトの作成から教室の配置計画（ゾーニング・ボリューム検討）や設備計画（空調やインフラ関係）等を約5か月かけて策定しました。その間、敷地測量や地盤調査を実施した後9月頃からは、実施設計に入り、各種行政機関との相談・調整を経て、2021年3月の建築確認申請書の提出を以って、設計業務は完了しました。

文教大学・文教大学大学院

当該年度の教育活動に関する事業

①入学前教育

ア. 教育学部
学校教育課程においては、各専修の専門性に応じた課題、課題図書、問題集等を提示し、レポートや作品、解答を提出させました。発達教育課程においては、課題図書を提示し、レポートを提出させました。また、一部の専修では、自由課題として、在籍する高校で教師の仕事を体験する「教師１日体験」を課しました。

イ. 人間科学部
1）人間科学科では、各コースの学びに関係する課題図書3冊中1冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

2）臨床心理学科では、まず学科のホームページにアクセスし、学科の学びの様子を確認させました。さらに、各教員の推薦図書の中から3冊を読み、内容を要約したうえで意見をまとめてレポートを作成させました。

3）心理学科では、学科教員が中心となって執筆した入学後のテキスト『日々の生活に役立つ心理学』を読み、関心のある章のワーク1つを選択して、レポートを作成させました。また、大学生活を送るうえでの抱負も記述させました。

4）人間科学科と心理学科では、上記のレポートを大学に送付させ、各学科教員がコメントをつけて返却しました。

5）3学科共通で、NetAcademy2を利用して自主的に英語学習を進めること、及びDVD教材を利用して英語やレポート力養成のための学習を自主的に進めることを推奨しました。

ウ. 文学部
1）日本語日本文学科では、古典文学・近代文学・日本語学等の6つの分野ごとに数冊ずつ提示された課題図書から1冊ずつを選んで計6冊を読み、内容に関するレポートを提出させました。担当教員が確認したうえで、必要に応じ添削・コメントを付すなどして返却しました。

2）英米語英米文学科では、2つの課題を用意しました。1つ目は、推薦図書リストの中から1冊以上を読み、要旨と自分の意見をレポートとしてまとめさせました。2つ目は、NetAcademy2を利用した英語の自主学習で、指定のユニットを受講し、学習記録を作成して提出させました。それぞれ提出物は担任が確認し、コメントを付けて返却しました。

3）中国語中国文学科では、課題図書リスト中の興味のあるテーマの書籍1冊について、レポートを作成させました。入学後、研究基礎演習の時間を活用して本人にコメントしました。

4）外国語学科では、NetAcademyNext（TOEIC®L&Rテスト500点突破コース）Unit1～28に取り組み、受講記録シートを提出させました。また、必修の「1セメスター留学」の準備の一環として、留学先である6カ国のうち4カ国について調査・比較し、希望する留学先とその理由を英語または日本語でまとめさせました。

エ. 情報学部
1）情報システム学科及び情報社会学科では、SNSから課題を提示し、解答を提出させました。解答は学科教員により採点が行われました。また、情報システム学科では、数学プレースメントテストの結果を踏まえ、DVD講座（数学力・言語理解力）の学習を促しました。

2）メディア表現学科では、総合型選抜入試及び学校推薦型選抜入試の入学予定者に対して、入学前教育を実施しました。約70名の入学予定者へ課題指示書を郵送し、指定した図書の読後観をレポートにして作成させ、3月末の新入生オリエンテーション時に提出させました。

オ. 国際学部
1）東京あだちキャンパスへの移転及びコロナ禍で入学前教育の困難化が事前に予想されたので、これまでの学部オリジナルテキスト『ブリッジ教材／国際学部・学習の基礎知識』課題に代わるオリジナルのオンライン教材を作製し、総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試による入学予定者に課し、オンラインベースで質問を受け付けるとともに、改めて入学後に解説指導することとしました。

2）さらに、総合型選抜入試・学校推薦型選抜入試による入学予定者に対しては、学部教員による著書『私たちの国際学の学び』（新評論）を配布のうえ、1年生必修科目「国際学入門」のテキストとして活用することを踏まえて入学前時点での予習を進めてもらい、大学での新たな学びの準備を図りました。

3）Net Academy2で英語力レベルに関する診断テストを受けさせ、リスニングとリーディングの指定箇所を学習させました。入学後に提出させ、添削後に返却することとしました。

カ. 健康栄養学部
1）合格者全員への必須課題として、①レシピの作り方と自分自身の食事記録をレポートにまとめる課題、②包丁の使い方に関する練習課題、③「食べること」を学ぶための英単語和訳を課しました。課題は入学後に提出させて担当教員から指導を行いました。

2）高等学校までの数学、化学、生物の基礎力に不安がある学生を対象に、通信講座（DVDおよびWeb授業）の学習を促しました。

3）合格者全員を対象にZoomによる入学前スクーリングを実施しました。内容は学部の概要と管理栄養士についての説明、大学での勉強の仕方・教科別学習のポイント解説、在学生がファシリテーターを務めてのグループ別交流会を行いました。

キ. 経営学部
例年実施している内容について、Webを活用し以下のとおり実施しました。
1）英語学習として、Net Academyの「道場単語ランキング」のインターネット学習を促しました。
2）経営学にかかる基礎的知識を修得させるため、経済・経営のキーワードについて調べてもらう自主学習講座を実施しました。
3）経営学部における『学び』の準備として、大学での学修について理解してもらう自主学習講座を実施しました。

②初年次教育

各学部の特色を活かした初年次教育を実施しました。

ア. 教育学部
1年次開講の必修科目「基礎演習」において、大学での学習・研究を進めていくうえで必要な知識や技能を身に付けるため、まず大学での学びの意義について高校の学習との比較を行いました。次に、大学での主体的な学修・研究を進めていくために求められる「書くこと」「読むこと」「調べること」「発表すること」「話し合うこと」等について話し合いを通してしっかり捉え直させました。図書館の利用・活用方法、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方等も指導し、最終的に大学生として必要な基準を満たすレポートを作成できるようにしました。なお、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全てオンラインで行いました。

イ. 人間科学部
1年次開講の必修科目「人間科学の基礎」において、大学における学びの意義と指針、図書館の利用・活用方法、情報や資料の収集方法、レジュメやレポートの作成の仕方、プレゼンテーションやディスカッションの方法等を、オンライン授業により指導しました。これにより、人間科学部で学ぶために必要な問題意識を高め、専門的な学修へのスムーズな導入を図りました。

ウ. 文学部
1年次開講の必修科目「研究基礎演習」（英文語英米文学科は「英語研究基礎演習」）において、大学で学ぶことの意義とその内容理解を始めとし、図書館の利用・活用の方法やレポート・論文の書き方を学び、プレゼンテーション・ディベートの訓練を行う等、少人数の演習形式でスタディスキルの習得を行いました。オンラインでもmanabaを活用したり、双方向的な授業を実施するなどして、対面授業と同様の効果を上げられました。例年実施している、外国語学科の「EnglishCamp」（2日間英語のみで過ごす）という新入生合宿は、新型コロナウイルス感染症拡大により延期（2021年度秋学期実施予定）、日本語日本文学科の1年次必修科目「日本文化研究」（こちらもmanabaで開講）の総まとめとしての1泊2日の研修旅行も中止しましたが、研究結果の報告冊子は例年通りのものを作成し、評価用紙・質問用紙等を準備したうえで、研究発表会部分はオンラインで行いました。

エ. 情報学部
2019年度に引き続き、1年次開講の必修科目「基礎演習A・B」及び「文章演習」「文章演習Ⅰ」「文章演習Ⅱ」において初年次教育を行いました。具体的内容は学科によって異なりますが、大学での学びに必要な基礎的スキルや、日本語での論理的コミュニケーション能力を身につけることを目的に、小規模クラス編成での指導を行いました。また、目的養成系学部ではない情報学部では、各自が早くから自分の将来像を明確化したうえで自らの学びを設計することが大切です。これらの初年次教育科目では、そうした能動的な学習姿勢を涵養することも心がけました。全学部共通化を指向した教育プログラムの開発については、検討継続中です。

オ. 国際学部
コロナ禍でキャンパスへの登校が困難となる状況下でしたが、1年次開講の必修科目「新入生ゼミナール（春学期）」及び「基礎ゼミナール（秋学期）」をオンラインベース（一部は対面形式の授業）にて実施し、通年にわたって基礎的なアカデミック・スキル修得に向けた指導を行いました。また入学後の適応教育の一環として、4月中旬には1年生全員が新入生ゼミナール担当教員及び上級生のリーダー学生（約30名）と共に参加する「新入生研修会」をオンラインベースで実施し、教員・学生間のコミュニケーションを深め、大学生活への適応機会としました。また、同研修会の運営を通して、指導的上級生のリーダーシップ能力の育成を図りました。

カ. 健康栄養学部
学内での昼食会を通して、入学当初から新入生同士、教員及び在学生とのコミュニケーションを深めることを計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止しました。
また、専門科目の基礎となる「化学」について、オリエンテーション時にプレースメント試験を実施し、新入生の習熟度を確認しました。例年習熟度を確認した後、対象者を選定して少人数制の授業を行っていますが、春学期は対面授業が実施できないことから、一旦秋学期に延期しました。秋学期になっても対面授業の目途が立たない事から急きょオンデマンド形式の自主学習に切替え、健康栄養学部として必要と考える項目を絞って全8本のビデオ教材を作製し、学習してもらいました。

キ. 経営学部
2021年度から開始の新カリキュラムのための準備を授業担当教員で行いました。新入生合宿は新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

③教務委員会の改組及び全学共通カリキュラムの整備
2021年度からの3キャンパス体制を見据え、2020年度から委員会組織の改組を行い、教務委員会の全学化及び専門委員会（共通教育委員会、外国語教育委員会、体育教育委員会）の設置を行いました。教務委員会では、通常の教務事項の対応に加え、キャンパス間で運用が異なっていた事項の整理、整備を進め、2021年度からの３キャンパス体制への移行に向けた基盤を整えました。また、共通教育委員会を中心に、共通教育科目のカリキュラム表を整え、これまで学部により異なっていたカリキュラム表を2021年度から7学部で統一することとしました。また、学長が設置する「全学共通教育プログラム検討委員会」において、全学部の共通教育科目設置の検討を行いました。さらに、各学部のカリキュラムを有効に機能させるため、本学の内部質保証方針の見直しを行い、関係規程の整備を完了しました。

④学修成果可視化システムの試行
ディプロマポリシーに対する学生個々の到達状況の判定や、より効果的な学生指導に資するための学修成果アセスメントシステム試行的導入に向けた検討を行いました。

⑤担任制度とオフィスアワー制度
2016年度から大学の制度として運用が開始され、担任と関係事務局が密に連携しながら、学生からの相談を受ける体制整備を図り、学生生活の支援体制を強化しました。2019年度においても各制度について、文教大学ホームページや学生に配付する各印刷物に掲載して周知を行ったうえで実行しています。ただし、2020年度においては新型コロナウイルス感染防止のため、各キャンパスに登校する学生が限られ、オフィスアワー制度は十分に機能させることができなかったため、2021年度においてはコロナ禍における学生支援の方策について改めて検討し、実行します。

⑥キャリア形成支援
両キャンパスの共通教育（教養）科目において、キャリア形成を考える科目を設定し、さらに、各学部において専門分野に対応したキャリア形成支援のための教育を行いました。正課内外の授業及び取り組みにより、学生が職業観を身に付け、自らの職業を考えられるよう支援しました。また、学生が各自の目標で社会への第一歩を確実に踏み出せるよう、就職活動支援の取り組みを強化しました。
2021年3月卒業生就職者の内訳は、【両キャンパス】教員23.0%、公務員6.4%、企業70.6%、【越谷キャンパス】教員37.7%、公務員9.6%、企業52.7%、【湘南キャンパス】教員3.7%、公務員2.3%、企業94.0%でした。
越谷キャンパスでは、低学年の進路支援として、2年生を対象に、進路を見据えた学生生活を送るための基礎力を高める「社会人基礎力講座」を5つの分野別（①教員、②企業、③公務員、④幼稚園教諭・保育士、⑤やりたいことがはっきりしない学生向け）にYoutube(限定公開)を利用して実施しました。各分野の講座について学生の満足度は５段階評価で平均4.4と高い水準でした。3年生からは、具体的な4つの志望分野別（①教員、②企業、③公務員、④幼稚園教諭・保育士、）に絞り各種ガイダンス、対策講座（一部有料）、面接講座、業界・仕事入門セミナーを主に実施しました。
湘南キャンパスでは、毎週水曜日3時限目に3年生の企業就職希望者を対象としてガイダンス、業界研究、面接対策講座、各種講習・講座を実施しました。また、教員採用試験、公務員試験に向けた対策講座（一部有料）を希望者向けに開講しました。今年度は、これらの行事を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部を除きオンラインにて実施しました。

◆越谷キャンパスでの取り組み

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、個別相談を対面形式ではなく、本人の希望に応じてオンライン形式と電話を利用し実施しました。ガイダンス、講座、ゼミナール等の各種行事は、オンライン形式（リアルタイム型、オンデマンド型）で実施しました。一部の行事は、感染防止対策に配慮しながら、対面形式で実施しました。

教員就職の支援

豊富な現場経験を持つ「教職専門員」が週3日キャリア支援課に常駐し、教職に関する進路相談、教員採用試験対策を通し、教員を目指す学生に対し支援にあたりました。教員採用数の維持とともに、質の高い教員を輩出するために単なる試験対策に留まらない支援を全学年に向けて行いました。キャリア支援課を中心として、就職委員と教職担当者の協力により、採用試験の動向とその対策等をまとめた『教職への道―教採対策の基礎・基本―』を作成しました。

学年別にガイダンスや講座等を実施しました。詳細は以下の通りです。

- 本来であれば、1年生秋から参加できる近隣の学校現場に赴くボランティア補助教員は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施を見合わせました。
- 2年生には「教員就職ガイダンス」を通じて、教職を目指すことの意義や価値、そのプロセスについて解説しました。
- 3年生には筆記対策講座（有料・8～2月）をオンデマンド型で実施しました。「教員就職ガイダンス」にて教員採用試験の概要、攻略法等についての講座を実施しました。「教採対策基礎講座」では、自己アピール、論作文等の概説を行い、教採対策ゼミ（11～3月）を実施しました。「学内教採合宿（2泊3日）」は中止とし、学内通学型（2日間）で代替行事を対面形式で実施し、教員採用試験に向けた士気をより一層高めるとともに実質的な対策を行ないました。
- 4年生には「教員就職ガイダンス」において、願書・面接等における志願理由と自己アピールの基本講座、直前ガイダンスをオンライン形式で実施しました。「教採2次対策講座」を実施し、面接や模擬授業対策を行いました。採用試験合否結果確定後に、「先生になるための準備ガイダンス」を正規採用者、非正規採用者に分かれて実施し、4月から教壇に立つ上での責任と自覚を促しました。

企業就職の支援

民間企業経験を持つ進路アドバイザー2名（月～金）と企業担当職員が連携しながら、個別相談を基軸に各種支援行事を実施しました。3年生対象に「NAVIGATOR～road to a joboffer（企業就職のてびき）」として配布しました。オンライン形式の強みを生かし、湘南キャンパスと合同で支援行事を実施しました。

コロナ禍において、各企業の選考方法はオンライン面接等多岐に及び、例年と大きく異なる選考形式に不安を覚えた学生がいる中、4年生に「就活状況実態調査」として最新動向を一斉調査・フィードバックしたり、学生アンケート結果や社会情勢の変化に応じた支援行事を企画・実行したりするなど、迅速かつ柔軟な対応を実施しました。インターンシップ実態調査では、他大学と比較するとインターンシップへの出足が遅い傾向があることが把握でき、秋学期以降の支援方針策定に役立てました。調査結果を元に学生の抱える就職活動への不安や疑問に答え、秋冬インターンシップや就職活動本格化に備えるためのフィードバックを実施しました。

3年生対象に、「就職支援ガイダンス」、「今から準備すべきこと～自己分析ワーク～」、「自己PR・学チカの書き方」、「就活体験報告会」を実施しました。外部講師や各企業の協力を仰ぎ「筆記試験・適性試験のウラ側を探る」、「企業人事が語る！インターンシップ講座」、「エントリーシート対策講座」、幅広い学年を対象としたプログラムとして、「英語を使った仕事とは？」、「基本が肝心！今日から身につくマナー講座」、「秋冬インターンシップガイダンス」、コロナ禍で新卒採用が見送りとなった航空業界志望学生を対象とし、CA転職者を講師としたガイダンス等を実施しました。

学内合同企業セミナー、業界研究セミナー、地方就職セミナーは、各企業の参加を賜り、合同企業説明会をオンライン形式で実施しました。従来はキャンパス毎に開催していましたが、オンライン形式での開催にし、両キャンパスから参加ができる合同開催により両キャンパスからの参加がありました。

公務員就職および幼稚園教諭・保育士就職の支援

筆記試験対策（有料）は、1・2年生対象公務員試験対策基礎講座、3年生対象公務員試験対策（教養コース・教養・専門コース）、3年生対象保育士受験対策講座、志望別模擬試験を実施しました。

公務員試験対策は、各学年別に「公務員就職ガイダンス」を実施し、公務員の仕事の内容や受験対策についての講座を実施しました。説明会・仕事入門セミナーとして、「公務員合同説明会」「仕事入門セミナー」（国税官、埼玉県警）「公務員志望者座談会」を開催しました。3月に実施した学内公務員合宿は、対面形式で開催しました。

幼稚園教諭・保育士試験対策では、「幼稚園教諭・保育士就職ガイダンス」を中心に、公務員・私立園の就職活動の概要の説明や自己分析、論作文、面接の各受験対策を行いました。1,2年生を対象とした「就職ガイダンス」や、全学年を対象とした「卒業生保育士懇談会」、「公務員保育士合格体験報告会」、「私立園合格者交流会」をオンライン形式で開催しました。

◆湘南キャンパスでの取り組み

各種筆記試験・模試の実施

湘南キャンパスの3年生を対象として、多様化する筆記試験対策として様々な種類の筆記試験模試を実施しました。

◇SPIテストセンター型Webテスト模試
実施期間：2020年7月27日～2020年9月30日（利用人数：40名）
2020年12月21日～2021年2月27日（利用人数：26名）

◇言語非言語模擬試験（SPI3形式）
実施期間：2020年10月26日～2020年10月31日（利用人数：114名）

◇玉手箱型Webテスト模試
実施期間：2020年11月2日～2021年1月31日（利用人数：16名）

筆記試験対策（SPI対策講座）

就職活動を目前に控える3年生が、就職に際しての筆記試験を理解し、継続して筆記試験対策を講じることができるよう、以下のとおり筆記試験対策講座を実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての講座をオンラインにて実施しました。

対策講座を一定期間継続して実施することにより、継続して学習したい学生への指導体制の充実はもちろん、学習開始が遅れた学生指導も可能な体制を整えました。対策講座は、テキスト代として1,000円を要しました。

◇SPI非言語基礎講座（オンデマンド）
実施期間：2020年8月31日～2020年10月31日（講座回数：14回
申込者数：66名）

◇筆記試験全般解説講座（リアルタイムオンライン）
実施日：2020年10月21日（水）3限（申込者数：195名）

◇筆記試験応用講座（オンデマンド）
実施期間：2020年11月2日～2020年12月31日（講座回数：6回
申込者数：186名）

◇SPI対策直前確認講座（オンデマンド）
実施期間：2021年2月1日～2021年2月21日（講座回数：6回 申込者数：155名）

面接・自己PR講座

自らの就職へ確固たる信念と高い志を持つ学生に対し、早期対策講座を実施しました。専門講師により約4ヶ月間にわたり、就活テクニックだけではないキャリア形成意識の醸成を図る伝統講座です。従来は3年生向けの講座でしたが、就活準備の早期化に対応し、2年生から参加可能としました。また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点と対面での採用試験への準備のバランスを考慮し、全12コマの講座では、感染防止の対策をとったうえでの対面講座とリアルタイムオンライン講座をバランスよく配置し実施しました。20名の参加があり、内2名が2年生でした。2021年3月に卒業した当該講座受講者（2019年度参加学生）の就職率は約92％であり、参加学生の多くが希望する業界の有名企業の内定を受けている他、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。（受講生自己負担額は10,000円）

面接対策合宿

3年生を対象に2日間の面接対策合宿（通い合宿）を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から宿泊ではなく、感染防止対策をとったうえで、学内での集中研修としました（参加者78名）。合宿では6～7名のグループに分かれて企業の人事担当者からマナー、集団・個人面接対策、グループディスカッション対策等を実践の中から習得しました。参加者は、事前研修の受講の他、面接練習で利用する履歴書の添削指導を夏休中に受け、下準備をしたうえで合宿に臨み効果を上げました。さらに、1回の事後研修を実施し、各自の課題解決への取り組み状況を確認し、引き続きの研鑽を促しました。コロナ禍において対面でのコミュニケーションに自信を持てていなかったことから、多くの参加学生から対面での実施に感謝する声が上がりました。合宿の実施について学生1人当たりの経費は約14,000円かかるところを、大学がその大半を助成することで学生負担は2日分の昼食費2,000円としました。ちなみに、2019年度の合宿参加者の就職率は約84％であり、早期内定者、複数内定者が多いことが特徴です。

学内合同企業セミナー

学生と企業とをつなぐ支援行事として、本学学生を採用する意欲の高い企業を中心に学内企業セミナーを実施しました。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全てオンラインで実施しました。就活中の4年生を対象として、個別企業セミナーを4月から実施、3年生対象（低学年も参加可能）として、業界研究セミナーを11月から2月にかけて以下のとおり実施しました。また、オンラインの利点を活かして、業界研究セミナーは越谷校舎の学生も参加できるよう周知をしました。

◇Web学内業界研究セミナー（各回約30社参加）
　実施日：11月4日、12月2日、9日、16日、23日
◇IT業界研究セミナー（21社参加）
　実施日：1月13日
◇栄養士・管理栄養士業界研究セミナー（13社参加）
　実施日：2月24日

これらのセミナーに合計137社（又は団体）が集まり、延べ約1,030名の学生が参加し、業界・業種の視野を広げ、就職につなげる良い機会となりました。毎年、合同企業セミナーや個別企業セミナーをきっかけとして、多くの企業から内定を獲得しています。

進路相談とキャリアガイダンス連携による支援強化対策

増加している個別相談に対応するため2名のキャリアカウンセラーに加え、（株）キャリアフラッグから、キャリアガイダンスもできるキャリアカウンセラー2名の派遣を受けました。中・小規模ガイダンスの企画と実施にも加わり、キャリアガイダンスとの連携を行いました。専任職員の他にキャリアカウンセラーを常時2～3名配置することが可能となり、進路相談体制の強化へつながっています。キャリアガイダンスの実施と、個別の相談業務を一体化させることで、学生個々に応じた指導の強化、キャリア支援課訪問者の増加、就職内定率の向上につなげました。特に、コミュニケーションを苦手とする学生には好評を得ており、学生の特性に合わせた就職ガイダンスの企画立案に貢献し、成果も上げています。

⑦国際交流事業の推進

2020年度は、国際交流センターが新たな組織体制となり5年目を迎えました。国際交流センターは、学生の海外への送り出し及び留学生の受入れ支援の両面を担う組織でしたが、より一層、受入れと送り出しの支援を強化するために新たな組織体制を検討しました。2021年度以降、送り出し支援に特化する組織として国際交流センターを改組し、受入れ支援に特化する新たな組織として留学生委員会を設置することを決定しました。

- 2020年度は、新しく2校の教育機関（タイ1校、ベトナム1校）と協定を締結しました。また、新規の協定以外に3校の教育機関（タイ1校、韓国1校、米国1校）との協定・覚書の更新を行いました。
- 2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全ての国際交流プログラムにおいて学生の海外への渡航が中止となりました。一部のプログラムはオンラインプログラム等に変更し、海外研修オンラインプログラム参加者9名、文学部外国語学科短期留学オンラインプログラム参加者72名の、計81名が、海外とのオンラインプログラムに参加しました。

⑧第3期認証評価に向けた対応

大学機関別認証評価を2022年度に申請する予定です。2020年度は、第3期認証評価で求められる内部質保証の体制の整備を行いました。

⑨各学部における取り組み

ア. 教育学部

1）教員・教育関係職に就く卒業生のネットワークづくり（経営戦略）を目的とした「文教大学教育フォーラム」は、新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年度の開催を見送りました。当初の計画では、従来学内で行っていたフォーラムから、全国を対象に地方の会場での開催に変更し、地方の卒業生とのネットワークの構築も図ろうとしていました。2020年度は沖縄を会場にし、沖縄の教育界が直面している子どもの貧困問題を取り上げて、子どもの貧困問題の専門家と、沖縄で教員をしている卒業生をパネラーに実施する予定でした。2021年度は、引き続き沖縄を会場に、子どもの貧困問題を取り上げて「文教大学教育フォーラム」を開催し、卒業生とのネットワーク作りと文教大学の研究と教育のアピールを図りたいと考えています。

2）アメリカ・メリーランド州の小・中学校での英語による教育実習体験を通して、アメリカの教育制度や文化を学ぶ「アメリカ学校教育研修」は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、現地教育委員会の判断と学生や関係者の健康と安全を考慮し、中止しました。

3）英語指導者を志望する学生向けにイギリス・ウォーリック大学で3週間の英語教育力を高めるための研修は、現地での新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、受入れ辞退の申し出もあり、中止しました。

4）越谷市教育委員会との連携による「先生の助手」体験プログラムは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、9月期、2月期とも中止になりました。2021年の2月に行われる予定であったプログラムについては、実施に向けて学生の事前指導を進めてきましたが、緊急事態宣言の発出により中止のやむなきに至りました。2021年度は例年どおり実施できるよう、越谷市教育委員会との協議を重ねているところです。

5）2020年4月から、学校教育課程と新たに設置した発達教育課程の2課程で新生教育学部をスタートしました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、オープンキャンパス等を含め、対面での広報活動は殆ど実施できませんでしたが、ホームページ、学部独自パンフレットの配布、オンラインでの説明会などを通して、教育学部が目指す方向性、教育内容、さらに取得可能な免許・資格の周知を図りました。

イ. 人間科学部

1）スペシャル就活ゼミ
企業就職を目指す人間科学部の3年生を対象に、グループワークを通じて就職活動の前提となる仕事観・社会観の醸成を目指すとともに、実際の就職活動支援のためのワークショップ、キャリア・カウンセリングの組織的展開を目的に2020年度もスペシャル就活ゼミを実施しました。2010年度以来継続的に実績を積み上げています。

2）社会福祉士及び精神保健福祉士受験対策講座
社会福祉士及び精神保健福祉士受験資格取得者に対して、2013年度から対策講座を実施しています。2015年度からは、東京社会福祉士会の国家資格取得者による国家試験対策講座を実施し、受験のポイントを指導しており、2020年度も引き続き同講座を実施しました。

3）『先輩からのメッセージ』刊行
就職活動に当たっての先輩の経験を後輩に伝えるべく、就職活動の経験や留意点、後輩への助言等を聞き取り、資料としてまとめ、配布を行いました。

4）2017年度に新たに制定された国家資格「公認心理師」資格を取得するための大学における指定カリキュラムを提供し、資格取得を目指す学生を支援しました。

ウ. 文学部

1）PROGテストの実施
2020年度、文学部では1年生全員を対象に、社会で求められる能力である、コミュニケーションスキルや論理的思考力等を測るPROGテストを初

めて実施しました。コロナ禍のため、20日程度の期間を設けた上で、各自が自宅からでもオンラインで受験できるようにしました。実施後には、学生ごとにテスト結果分析書を届けるとともに、専門の講師による学科別の「オンライン解説セミナー」を開催、Zoomを用いたグループワークも行って、テストの意義と各自の結果に対する理解を深めました。解説会後のアンケートでは、「自分の強みがわかった：95.6%、課題がわかった：99.1%」と非常に高い数字が並び、さらに能力開発のための今後の行動について、「これからやるべきことがわかった」とした者も97.8%に上り、自分の強み・課題の発見に加えて「大学での学びの動機付け」という点に関しても効果が得られたと考えます。

2）語学検定試験（TOEFL等）の受験費用補助
2020年度からは、英語系検定については英米語英米文学科と外国語学科でそれぞれ分けて実施しています。英米語英米文学科では5名が英検準1級に挑戦しました。TOEICは9名受験し、6名は830点以上という高いスコアを確保できました。受験費用の補助を受けた学生のうち、4名が留学説明会に参加しましたが、コロナ禍により今年度の留学はかないませんでした。外国語学科では5名が英検を受験し、1名が準1級に合格しました。ドイツ語技能検定は、2名が補助を受けて受験し、1名が3級に合格しました。今後の学習への動機づけを高めるため、1年間の協定校留学プログラムの他に、短期語学研修プログラムの開拓・実現に向け動いています。フランス語技能検定は、5名の受験者が補助を受け、3級と4・5級に各1名が合格しました。2021年度には新たなフランス語担当専任教員が着任するので、フランス語圏の協定校開拓を進めていく予定です。中国語関係の検定では、HSK（中国政府公認の語学資格）受験者18名が補助を受け、3級5名、4級8名、5級2名、6級1名が合格しました。前年度補助を受けた中の1名は2020年度の中国認定校（上海・華東師範大学）への留学が決定していたものの、コロナ禍のため中止となりましたが、2021年度も1名が協定校（北京外国語大学）への派遣留学を希望し、採択されています。韓国語能力試験は、10名が受験補助を申請していたのですが、これもコロナ禍により残念ながら2020年度は中止となってしまいました。全体的に今年度は受験者が減少していますが、コロナ禍による海外研修プログラムの中止、検定試験のスケジュール変更等が原因と考えられます。そのような中にあって、マルタ春期英語研修とマギル大学英語・文化集中プログラムという二つの研修をオンラインプログラムとして提供することができ、それぞれ英文科から3名、1名が参加しました。2021年度はTOEFLの受験準備講座開講を検討するなどして、もう少し受験者数を増やしたいと考えています。

3）就職活動支援
文学部就職委員会が主体となり、4年生に依頼して就職活動体験談を執筆してもらったものを冊子『就職への道』としてまとめました。2020年度で完成年度を迎えた外国語学科からの報告も加わり、さらに充実した内容となりました。しかし、日本語教員を目指す学生への支援である日本語教員養成コースの体験報告会「日本語教員への道」は、コロナ禍の影響で開催を見送りました。公務員試験と教員採用試験合格者の体験報告会は、対面ではなくすべてオンデマンドの動画配信としました。中国語中国文学科独自の「就職活動報告会」はオンラインで実施し、録画したものをオンデマンドで利用できるようにしています。

4）外国語学科1セメスター留学
外国語学科の2年次春学期の必修科目である「1セメスター留学」は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を見定めながら実施の時期を延期してきましたが、2020年度末から代替プログラムとして留学予定教育機関のオンラインプログラムの履修を開始しました。2021年度には国内のテンプル大学日本校での対面授業なども加えて、海外短期留学と同等の学びを提供する予定です。

5）国際研究交流
当初予定していた海外協定校との国際シンポジウムは、コロナ禍のため中止となりました。

エ. 情報学部
1）簡にして要を得た文章を書くためには、伝えたい要旨が前半に来る「逆三角形」の書き方が望まれます。新聞に見られるこのような書き方を学ぶためにニュースパーク（日本新聞博物館）と提携し、課外授業を複数回に渡って実施する予定でした。しかし、コロナ禍のため、今期は学生の引率もできず、控えることとなりました。その代わり、新聞記事を題材に、文章の書き方を学ぶことに変更することで、効果的なコミュニケーションに必要な文章の構成法を習得させました。

2）垣根を超えた情報のやり取りが益々進む現代にあって、学生にグローバルな感覚を植え付けさせることは不可欠です。そのためにベトナムやモンゴルの提携校との交流を押し進めています。2020年度も継続するコロナ禍で海外研修の実施が見送られましたが、FPT大学とオンラインASEAN研修を企画・実施し16名の学生が参加しました。そこにはベトナムFPT大学をはじめ、インドネシアのビーナス大学、タイのランシット大学の日本語学科の学生18名が参加し、4日間の研修を通じて、日本語と一部英語による交流を深めました。

3）情報社会にあっては、今後も情報経路の拡大は一層進みます。しかし、どんなに情報の伝達経路が拡大したとしても、重要なのはそこに載せるコンテンツであることに変わりはありません。その中でも特に映像表現は大事です。学生の映像表現に関する感覚を研ぎ澄ませ、高い情報処理能力を育むために、2020年度も映像分野や芸能分野のエキスパートを講師に招いた実践的連続講義を行いました。

4）学生による学習成果物を外部の展示会に出展する計画でしたが、今年度は多くのイベントが中止となりました。これに代わり、オンライン学会が数多く開催されたため、希望する学生はゼミ担当教員の指導のもと、オンラインでの国際会議や学会発表に参加し、成果を学外に発表して高い評価を得ました。

5）情報システム学科での科目を中心に、深層学習アルゴリズムを実行するための仮想基盤サーバ（Deep Learning Box-II 1式）を導入しました。同基盤上にDockerを利用したコンテナ型仮想サーバを構築し、Web接続するためのNginxによるプロクシを設定しました。この結果、情報システム学科「プロジェクト演習D・E」向けにOpenPose実行サーバ、「卒業研究A・B」及び「機械学習」で利用できるJupyter Notebookをインタフェースとした Tensor Flowをはじめとした周辺処理を含む実行環境サーバを構築し、学生演習の利用が確認できました。今後も、利用方法を簡便にし、利用範囲を広めていくため、目的ごとに仮想サーバを構築し、プロクシ設定を行っていく知見を得ることができました。

6）情報学部志願者獲得のための広報事業として、6月に進研アドの「デジタル配信サービス」、11月にダイレクトメールを用いた広報を行い、情報学を含む学問系統を志願する受験生に対して本学情報学部の学習内容などの発信を行いました。

オ. 国際学部
1）入学前教育及び初年次導入教育については、それぞれ13,14ページに記載した形での計画を実施し、所定の成果を収めました。

2）卒業予定学生には、卒業論文発表を目的とした卒業研究会をオンラインベースにて実施しました。各自の4年間の大学生活の集大成としての研究成果を「自分のアイデア、ロジック、言葉」で伝え、主体的な社会人としての自覚を促しました。

3）地域社会との関わりや自主的なキャンパス環境整備努力を通して得られる知見涵養を目指す「体験知教育」を重視し、国内外でのボランティア活動、「文教の森プロジェクト」等の学生活動への支援を行うこととしていましたが、残念なことに、多くのイベントがコロナ禍のために中止・延期となりました。ただし、東京あだちキャンパスへの移転を見据え、地元の国際交流組織やボランティア団体等との交流を模索しました。

4）東京あだちキャンパス移転に併せて、2021年度から実施する新カリキュラムに対応するために必要な諸規程・内規の改訂を進めるとともに、移転対策委員会を中心として学部での移転実施を図りました。

5）現在ある大学・学部主催の国際交流研修プログラム、学部の短期留学プログラム、留学支援、海外ゼミ活動の拡充等を踏まえて、学生への注意喚起などを通した海外危機管理教育・研修体制を充実させるべく検討を図りました。また、導入ゼミナールを通して新入生に対しては海外における危機管理の研修機会（オンラインベース）を持ちました。

6）1年生に対するTOEIC全員受検を通して、学部生の進路に対する意識付けと英語能力確認及び学習意欲の喚起を図りました。また、就職支援の一環としてキャリア意識形成のためのSPI試験受検を通じた進路指導や就職対策講座を実施しました。（いずれもオンラインベースにて実施）

7）東京あだちキャンパス移転を控えた国際学部入試広報の充実化のため、各種メディアを通した広報活動を実施しました。また、キャンパス移転をふまえて今後の入試体制の充実と入学者の多様化を進めるべく、推薦

入試指定校の見直しを図りました。

カ. 健康栄養学部
1）理科系専門科目を学ぶうえで必須となる「化学」については、学生の基礎知識の底上げが必要です。化学の理解が他の授業の理解へとつながり、学習意欲向上が期待されるため、少人数制指導による「化学」の補習を引き続き行いました。

2）管理栄養士国家試験対策として2020年度も、専従スタッフによる個別指導をベースとし、4年生には模擬試験（年10回；業者模試７回）及び模擬試験解説授業（夏期・秋期特別講座）、国家試験合格水準に達していないと判断される学生を対象とした科目別グループ指導、国家試験直前講座（2月）、模試業者解説授業、3年生には模擬試験(年３回)と学習用ノート作り等（夏休み・春休み課題）の指導・支援を行いました。
2020年度は、上記の指導と支援の多くをオンライン形態（リアルタイムとオンデマンド式）で実施しました。

キ. 経営学部
1）新入生の初年次教育・適応教育の一環としての、合宿形式の「経営学部新入生オリエンテーション合宿」は、新型コロナウイルス感染防止のため中止しました。

2）2021年4月のカリキュラム改訂に向け、円滑な導入のための準備を進めました。

3）新キャンパス移転を踏まえ、FDの更なる強化に向け、研修会等を実施しました。

4）足立区をはじめ東京都や近隣県の教育機関、企業、団体との関係づくりに取り組みました。足立区の金融機関や商工会議所支部などと将来の協力関係について協議しました。

5）就職支援活動「キャリア観醸成」及び「就労意識向上」を基盤としたワークショップ等、年間を通じ進路開発プログラムを実施しました。

6）本学教員や外部研究者の現在の研究を知ってもらうため、経営学部セミナーを教員、学生等を対象に開催しました。

7）海外プログラムは、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限が実施されたため中止しました。

8）留学生との交流は、新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

9）ベトナムFPT大学との連携事業は新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

10）学部留学生の日本語能力向上のプログラムは、新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。

⑩大学院教育

ア. 教育学研究科
1）越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究を実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、2020年度については越谷市立学校での実習は一年延期しました。また、「実践研究」協議会も中止しました。

2）2018年度、学園戦略事業として6台のタブレット端末を新たに購入するとともに、大学院生に貸与する際のルール作りを行いました。2020年度4月に入学した大学院生にも、貸与を開始し、授業や論文作成等に活用されています。

3）幼稚園教諭の専修免許取得に対応するためのカリキュラム改革案について検討した結果、中止を決定しました。

イ. 人間科学研究科
1）新型コロナウイルス感染症拡大で構内利用が大きく制限を受ける中で、効果的なオンライン授業を工夫し、感染症対策を講じた上での院生室の利用、研究科付属臨床相談研究所での実習を継続し、学修の質を落とすことなく、院生が安心して研究・実習に取り組めるような対策を講じました。

2）臨床心理学専攻では、公認心理師・臨床心理士養成に必要な実習が、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止や期間縮小がなされる中で、国の基準に合う実習代替え授業を工夫して行いました。

3）修士課程大学院生及び修了生の研究活動を奨励することを目的とした論文コンテストを実施し、受賞者1名を選出しました。

4）博士後期課程に従事する教員を増やし、博士課程後期の体制の充実を図りました。

5）内部質保証のPDCAのCheckの一環として、院生全員に学習および学習環境に関する「学生アンケート」を実施しました。その結果に基づき、改善措置を講じると共に、各専攻ごとに院生に直接フィードバックを行いました。

ウ. 言語文化研究科
1）国際的学術交流として、予定では10月-11月に日中韓三カ国日本言語文化国際シンポジウムを本学で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、中止としました。計画では、2021年度に改めて開催する方向で検討を進めています。

2）海外協定校との学術連携強化を図るため、北京外国語大学から教員2名を2020年12月と2021年1月の2度にわたり招く予定でしたが、オンラインで集中講義を行いました。これと対応する形で、北京外国語大学MTI(翻訳通訳修士)に本研究科教員2名が、2020年11月初旬と12月下旬にそれぞれオンラインで集中講義を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で直接出向くことができない中、最低限の学術教育交流を達成し得たものと考えます。

3）教育面での国際交流の一環として、「言語文化実地研究」科目を開設していますが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により海外渡航が不可能となり、オーストラリアでの「日本語教育実習」にも「中国日本語教育実習」にも、派遣することができませんでした。

エ. 情報学研究科
情報学研究科では、2021年度の東京あだちキャンパス開設に伴う構成員の2キャンパス化に備えてこれまでさまざまな準備を行いました。2020年度にあっては、遠隔授業及び教授会等の会議の遠隔化の実証実験を実際の運用を想定して行い、検証と改善策の提案及び何等かの問題が発生した際の備えを用意することを想定し、事業計画を立てました。実際には、2020年度においては講義並びに会議運営に新型コロナウイルス蔓延防止対策が学園全般に施行されたことにより、遠隔授業及び教授会等の会議の遠隔化の実行を余儀なくされ、実際の運用と並行して、検証と改善を実施しました。研究科に特徴的な事例となる「ポスター発表」、「研究中間発表」の完全オンラインによる実施、「修士論文発表会」の対面とオンラインの併用による実施などから、2021年度東京あだちキャンパス開設に伴う構成員の2キャンパス化に対する備えは、必要に対してかなり十分に蓄えられたと言えます。ただし、新型コロナウイルス蔓延防止対策の影響で、対面と遠隔が混在する状況を設定することができなかったこと等から、2キャンパス化の早期定着化への取り組みは引き続き行っていく必要があります。

オ. 国際学研究科
1）茅ヶ崎市との連携事業として2013年から始めた、大学院と茅ヶ崎市との協定に基づく職員研修との合同セミナー講座の開催は、コロナ禍のため中止しました。また、茅ヶ崎市の「豊かな長寿社会コンソーシアム」への参画もできませんでした。

2）大学院生のキャリア支援を主な目的とした、大学院生との意見交換会の企画は、コロナ禍などの理由で実施できませんでした。

3）協定大学である中国・廊坊師範学院の、国際学研究科での短期研修の受入れは、コロナ禍のため中止となり、また協定大学からの受験生を対象としたII期入試では、2020年度は残念ながら志願者はありませんでした。

4）ドイツ・オズナブリュック大学の文化社会学科と国際学部及び国際学研究科は、協力協定を締結しており、2020年度も協定を継続しました。新型コロナウイルス感染症拡大の状況次第ですが、オズナブリュック大学から、2021年度の研究者受入れの要請がありました。

5）韓国・南ソウル大学との協定を視野に入れた交流を継続しました。

6）大学院外国人留学生の獲得のために、「外国人留学生別科」との連携を強化しました。

7）9月に開催の「グローバル・フェスタ」は、本年度の開催が中止となりました。国際文化学会との連携で設けている「インターカルチュラル・コーディネーター」資格取得プログラムを継続していますが、コロナ禍の影響もあり2020年度は大学院生の参加はありませんでした。

8）国際学研究科ホームページ更新のため、業者への発注など手続きを進め、現在、トップ画像・中面デザインの最終調整の段階で作業が進んでおり、４月からリニューアルします。

⑪専攻科

ア. 教育専攻科

1) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、春学期はオンライン授業で、秋学期は対面授業またはオンライン授業で、先生方の工夫により高度な実践的指導力が身につくよう指導しました。学生２名は、小学校教諭専修免許状を取得しました。また、学生２名の内、１名は埼玉県公立学校教員採用選考試験で小学校教員に合格し、もう１名は、埼玉県公立学校教員採用選考試験で、特別支援学校教員に合格しました。

2) 小学校での現場体験については、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年実施していたような形態では実施できませんでした。

⑫外国人留学生別科

1) コロナ禍により、春学期は全てオンラインによって、日本語、日本事情、地理歴史、英語などの授業を行い、各学生の進路指導を行いました。春学期に1人が修了し、文教大学国際学部の研究生となって、大学院進学を目指すことになりました。

2) 秋学期は対面授業が認められたため、感染対策を徹底したうえで、教室での受講を原則とし、場合によってはオンラインによる受講も可能となる体制を整えました。秋学期に入学した中国人留学生2人は、政府の水際対策のため入国できず、オンラインによる授業受講ののち、12月に入国可能となって対面授業に参加しました。

3) 秋学期修了予定者10人のうち、4人が文教大学文学部、国際学部、経営学部、情報学部に推薦入学、1人が本学文学部の研究生、2人が本学国際学部の研究生に出願、2人がそれぞれ北洋大学国際文化学部及び旭川大学経済学部に進学し、1人が帰国することとなりました。

4) 日本語能力試験及び日本留学試験について、2020年度はそれぞれ第2回目のみの実施となり、日本語能力試験ではN1合格者1人、N2合格者6人という結果でした。また、日本留学試験は8人が受験し、7人が全国平均点を上回る成績でした。

5) コロナ禍のため、春学期の越谷市内見学、学外宿泊研修などは中止となりましたが、その代替研修として、春学期に伝統工芸である寄木細工づくりをオンラインで実施し、秋学期に感染対策を徹底したうえで、日本文化演習の授業で日本文化の一つとして書道を体験することができました。

6) 各学期の最終日に学習発表会をオンラインで開催し、総合日本語の授業で日本文化や日本事情に関連する事柄について調査してきたことを、各自がプレゼンテーションを行いました。

7) 文学部の日本語教員養成コース「日本語教育実習Ⅳ-(1)」「日本語教育実習Ⅳ-(2)」の履修者による日本語教育実習が行われました。春学期は文学部の履修者4人を実習生としてオンラインで、秋学期は同学部履修者4人を実習生としてオンライン及び対面を併用して教育実習が行われました。

当該年度の研究活動・支援事業

①外部研究費（科学研究費補助金等）の獲得支援

科学研究費補助金獲得のための説明会を開催しました。

②学内の競争的資金

学長調整金（学内の競争的資金）による教育改善支援として1件当たり最大200万円、研究成果の発表支援として1件当たり最大50万円、事業支援として1件当たり最大100万円の支援を行いました。また研究支援として補助金申請で不採択になった者のうち、2021年度の科学研究費の申請に向けて研究及び研究準備を行う意思のある者に対して、文部科学省・日本学術振興会の審査結果の評価レベルに応じて20万円から60万円の範囲内で7名に研究の支援をしました。

2019年度から文部科学省・日本学術振興会が定める研究種目において、研究代表者として交付決定額が500万円以上の研究課題（研究種目「研究成果公開促進費」は除く。）に採択された者のうち、科学研究費のみでは研究費が不足する者に対し、研究環境改善経費として2名に対し、研究費を支援しました。

教育改善支援

所属	教員名	テーマ
教育学部	石井 勉	卓越した人材育成を志向した保育・教職実践演習の魅力あるカリキュラム開発
人間科学部	石原 俊一	生理心理学実験教育改善のためのバーチャルリアリティー（VR）機器の導入

事業支援

所属	教員名	テーマ
経営学部 就職委員会	山本 顕一郎	「アクティブ・スクール・マネジメント」（7月18日（土）、10月31日（土）、2月20日（土）実施）キャリア教育的視点による『学びの変化に対応する高校・大学・企業の人材教育の在り方』研究会

③学術図書出版助成

2020年度は学術図書刊行に際し、3件の出版に対して助成しました。

所属	教員名	助成対象図書の題名
人間科学部	益田 勉	空海に学ぶキャリアデザイン
国際学部	孫 美幸	深化する多文化共生教育 ホリスティックな学びを創る
国際学部	齊藤 功高	米州人権制度の研究

④在外研究の支援

専任教員の在外研究について、6名の派遣枠で募集し、1名を在外研修に派遣しました。

所属	教員名	テーマ
人間科学部	高尾 浩幸	日本人の心理的構造と機能に関する研究

当該年度の学習者支援事業

①奨学金、奨励金及び授業料減免による学生への支援

- 本学は国の高等教育修学支援制度の対象となり、学生に必要な情報提供を行ったうえで、支援に必要な諸手続きを適切に実施しました。
- 文教大学奨学金制度による経済的に修学困難な学生への支援を実施しました。文教大学奨学金制度では219名、文教大学大学院奨学金制度では8名を採用し、支援しました。なお、緊急特別奨学金制度は、2020年度該当者がいませんでした。また、新型コロナウイルス感染症の影響で修学が困難な学生に対し、緊急特別奨学金規程の一部を改正し、文教サポーターズ募金を原資とした奨学金制度を設け、38名を採用し、支援しました。
- 成績優秀者への奨励金制度では、各学科・学年（2年生以上）の成績優秀者51名に奨励金を給付しました。
- 私費外国人留学生に対する学納金減免制度及び奨学金制度による経済的に修学困難な留学生への支援を行いました。学納金減免制度では43名（学部生22名、大学院生21名）、奨学金制度では48名（学部生26名、大学院生22名）の留学生に学納金の減免又は奨学金を給付しました。

②障がいを有する学生への支援

2020年度は、新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言下での授業対応が主になり、授業形態もオンラインやオンデマンドとなり、全てが新たな対応となりました。

越谷キャンパスでは、教育学部6名、人間科学部8名、文学部9名の学生が「配慮願」を活用し、授業の担当教員や事務局窓口対応における情報の共有を図りました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常行っている対面・電話・メール相談に加えて、Google Meetを利用してオンラインでの相談にも対応しました。また、2021年度入学予定者に対し保健センター（相談室・医務室）と学生支援室との連携により、「入学前相談」を実施しました。相談者の希望により、入学予定の学部学科専修と情報の共有も行い、安心して学生生活に入れるように対応しました。

湘南キャンパスでは、例年どおり保健センター医務室と教育支援課が連携し、当該学生のニーズに合わせ、学生生活を送るうえで支障があ

るかどうかを建設的に相談しながら具体的な施策を検討し、配慮に努めました。
授業関係では、越谷キャンパスと同様に「配慮願」を作成し、各教員に支援を依頼し、対応しました。また、本人からの申し出をもとに、キャンパス教務委員会で検討を重ね、書字困難による試験時間延長の配慮などを行いました。
キャリア支援関係では、両キャンパスのキャリア支援課共通事項として、困難を抱える学生が他の学生と同じく平等にキャリア支援事業に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせた支援を実践し、障がいのある学生のインターンシップ参加や企業等への就職に結びつけました。

③100円朝食の実施
新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。2021年度については、状況を踏まえ実施検討する予定です。

④海外留学希望者に対する支援
国際学部
2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、海外への留学の目途がたたず、支援のための集中講座も実施することができませんでした。今後は、将来的な留学の可能性を期待して、オンライン集中講座などについても検討を進めます。

⑤アジアからの協定校交換留学生に対する住居費補助
日本と住居費が大幅に異なるアジアの国・地域からの交換留学生に対して、住居に係る経費の一部を補助する事業です。本学への留学の可能性を広げ、今後ますます重要となるアジアの大学及び学生との交流の深化・活性化を図ることを目的としたものです。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で日本政府による水際対策の強化により、新規の受入れが中止されましたが、2019年度秋学期から留学を継続して日本に滞在していた交換留学生計5名に対して住居費補助を行いました。

⑥キャリアイングリッシュ講座
地域連携センターでは、学生向けに「キャリアイングリッシュ講座」の開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度春学期の募集を中止しました。秋学期からはオンライン授業に変更し受講生の募集を行いましたが、申込数が開講条件を満たせず非開講となりました。

⑦バス通学定期券等購入代金補助事業（湘南キャンパス）
湘南キャンパスの通学問題対策の一つとして、学生のために大学と茅ケ崎駅及び大学と湘南台駅の2路線を利用できる2Wayバス通学定期券を割引価格で提供していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で授業が原則オンライン開設となったため、通学定期券の販売を中止しました。

⑧学生向け資格取得講座の開催
地域連携室では、学生向け資格取得講座の開催を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面講座の開催は中止しました。なお一部の講座は開講形態をオンラインに変更し、開講時期を秋学期に移行して以下のとおり開催しました。

		講座数	受講者・受験者
資格取得講座	越谷キャンパス	2講座	中止
		2講座（オンライン開催）	52人
	湘南キャンパス	4講座	中止
検定試験	越谷キャンパス	5検定	中止
	湘南キャンパス	17検定	中止
		2検定 （人数を制限し限定的に実施）	80人

当該年度の保護者又は地域連携事業

①地域、行政と大学の連携・協力
ア. 越谷市との連携包括
越谷市との連携包括協定に基づき、定期的な連絡会を持ち、行政や地域との連携について協議を深め、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、可能な範囲で連携事業を実施しました。

イ. あいのみ文庫
2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、学生・教職員以外の方々の図書館利用を停止せざるを得ない状況が続いたことから、あいのみ文庫の活動も停止しました。

ウ. 越谷市消防団との連携
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、越谷市消防団「学生機能別団員」の地域及び大学の中における活動は実施できませんでした。

エ. 神奈川県警察との連携
「神奈川県警察と文教大学とのサイバー犯罪の防止に係る連携協力に関する協定」に基づく活動として、神奈川県警に向けて2019年度より試験的に運用していたサイバーパトロールの支援システムを本格的に運用しました。当該システムは、神奈川県内のサイバー防犯ボランティアが利用し、青少年の問題行動に関するSNSの書き込みを神奈川県警に情報として提供するものです。このシステムからの2020年度の情報提供の件数は、2020年末の時点で1,745件でした。その他の主な活動は以下の通りです。
- 第32期東京都青少年問題協議会の第1回専門部会（児童健全育成部会）にサイバーパトロールシステムから取得した情報を提供（2020年7月）
- 国立青少年教育振興機構の実施する第37回全国青少年相談研究集会において、サイバーパトロール支援システムから取得した情報を活用した講義を実施（2021年1月）
- 神奈川県警と連携し県内のサイバー防犯ボランティアに向けてサイバー空間の浄化に関する講習会を実施（2021年2月）

オ. 神奈川県教育委員会との連携
2020年度は、「神奈川県教育委員会と文教大学とのインターネット等の安全・安心な利用に係る連携協力に関する協定」に基づく主な活動は特にありませんでした。

カ. 神奈川県寒川町との連携
委員会や懇談会等への参加を通じて、地域社会の発展に寄与するべく努力しました。

②学部・研究科の教育・研究と結びついた地域連携の取り組み

ア. 文学部
文学部の日本語教員養成コースでは、2009年度から松伏町の町役場と連携して、「まつぶし日本語ひろば」を開講してきました。以来、毎年度、松伏町に在住する外国人を対象として、毎週土曜日10～12時に学生が日本語を教えたり、参加者全員による文化交流を行ったりしてきました。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、春学期、秋学期ともに開講できませんでした。

イ. 国際学部
2015年度から始まった事業として、岐阜県高山市飛騨世界生活文化センターとの共同による「オープン・カレッジin飛騨」を引き続き実施し、高山市における地域社会や観光の持続可能な発展とその人材育成に協力しました。一方で、予定されていた多くの企画やイベントがコロナ禍のために中止又は延期となりましたが、JR茅ケ崎駅の外国語（英語、中国語）アナウンス、

表示等で学生がボランティアとして引き続きサポートし、JR東日本より感謝されるなど、いくつかの活動により地域社会に貢献しました。

ウ. 経営学部
行政が抱える課題の解決を目指す実践的な演習科目として2016年度に開講した「公共経営実地演習」について、茅ヶ崎市議会及び市役所等の協力のもと、演習を実施し1月に成果報告会を行いました。2020年度が茅ヶ崎市での最後の演習実施となりました。

エ. 教育学研究科
越谷市教育委員会及び越谷市立小学校・中学校等の地域社会と連携した実践研究を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度については越谷市立学校での実習は一年延期しました。また、「実践研究」協議会も中止しました。

オ. 人間科学研究科
新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面による多くの事業が中止になりましたが、「獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター（以下、獨協リーガル）」との連携事業は、下記①～③を実施しました。
①感染症対策を十分に行い、臨床心理士の資格を持つ本学の教員が交代で獨協リーガルにおける専門相談にあたりました（年8回）。
②草加市および獨協リーガルの共催によるオンライン子育て支援事業の講師を本学教員が務めました。
③獨協リーガルの弁護士の協力を得て、実習授業において「いじめ問題」「個人情報と守秘義務」「機関連携」について法的な観点から3回オンライン講演を実施しました。

カ. 国際学研究科
2015年4月に締結した「茅ヶ崎市職員の政策立案能力の向上及び文教大学の実践的な教育研究の充実に関する覚書」に基づき、2020年度も引き続き相互に協力し、国際学研究科における実践的な教育・研究の充実と、地域の実態に則した茅ヶ崎市の政策や行動に資する協働事業を計画しましたが、合同研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

③高大連携の取り組み

ア. 越谷キャンパスでは、感染症拡大の影響により、授業日の大幅な変更や受講体制を整える必要が生じたことから、2020年度は受入れを見送ることといたしました。

イ. 湘南キャンパスでは、神奈川県・静岡県内の協定締結校（27校）並びに神奈川県立総合教育センターと連携事業を実施し、2016年度末から加盟している「神奈川県立高校生学習活動コンソーシアム協議会」への参加も継続し、神奈川県立高等学校及び県立中等教育学校後期課程との連携協力を推進しました。実施事業としては、協定締結校及び、その他の学校、企業等の方も対象とした「夏季キャリア教育研究会（オンライン）」や、神奈川県立総合教育センターとの連携講座として「英語教育指導法」研修を開催し、近隣教育機関並びに地域との連携強化に努めました。なお、「大学体験プログラム（協定校生徒対象）」については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を見送りました。

④地域連携センターによる講座

地域連携センターにおいて「特別講演」、「公開講座」、「オープンユニバーシティ」等を計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度の開催は中止しました。開催を計画していた講座は以下のとおりです。

		講座数	受講者・受験者
公開講座	湘南キャンパス	1講座	中止
特別講演	越谷キャンパス	1講座	中止
オープンユニバーシティ	越谷キャンパス	58講座	中止
	湘南キャンパス	38講座	中止

さらに、越谷キャンパスでは、埼玉県「大学の開放授業講座（リカレント教育事業）」の趣旨に賛同し、「文教大学シニアアカデミー」として埼玉県在住で55歳以上の方の授業聴講制度に参加しておりますが、シニア受講生の方々の安全を最優先と考え、2020年度は受入れを中止といたしました。

⑤保護者との連携

ア. 父母と教職員の会との連携
父母と教職員の会（学生の父母と教職員で構成する協力団体、以下、「父母教」という）が主催する以下の行事に大学（教職員）が連携し、父母に大学を知っていただく機会の創出に取り組みました。

- 新任教職員をお迎えする会（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）
- 父母教代議員会および学長主催パーティー（2020年6月28日書面表決により決議、学長主催パーティーは中止）
- 父母のための一日大学
（2020年11月29日、12月6日、12月12日、12月13日：越谷キャンパス
2020年11月29日：湘南キャンパス　いずれもZoomにより開催）
- 親と子のための進路問題研修会（2020年度はオンデマンドの方法で2020年11月29日から12月13日までYouTubeにて開催）
- 父母教支部長研修会（2021年２月27日　Zoomにより開催）
- 父母教各県支部総会及び研修会への教職員派遣
支部総会については、9月末までは対面を避け、書面表決により決議。10月頃には、少数の支部ではZoomまたは対面で開催し、対面開催時に派遣。支部研修会については、Zoomにて開催、教職員がZoomで出席。
- 共催事業である越谷・湘南両キャンパスの授業期間の「100円朝食」については新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

イ. 情報・国際・経営学部の保護者対象学部教育説明会の実施
情報学部及び国際学部は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となりました。経営学部は入学予定者の保護者を対象とした学部教育説明会を、Webにて実施することにより、保護者との連携を一層強めることで、学生指導の充実を図りました。

⑥大学間の連携・協力

ア. 越谷キャンパスでは、「埼玉県東部地区大学単位互換に関する協定書」に基づき、埼玉県立大学、獨協大学、及び日本工業大学との学生相互の単位互換制度を行っています。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、授業日の大幅な変更や受講体制を整える必要が生じたことから、各大学と協議し、年間を通じて、本学への受入れ及び他大学への送り出しを見送ることとしました。

イ. 名桜大学との単位互換に関する協定に基づき、単位互換特別聴講生を募集しましたが、コロナ禍ということもあり、希望者はなく派遣は行いませんでした。また、名桜大学からの受入れについても、希望者がいませんでした。

ウ. 2012年度に加入した「神奈川県内の大学間における大学院学術交流」に基づき、情報学研究科、国際学研究科において、他大学院と授業の相互開放を行いましたが、コロナ禍ということもあり、本学の授業履修者及び他大学院への履修者はいませんでした。

校舎施設設備の改善事業

【越谷キャンパス】

①正門警備室 自動火災報知設備更新工事

既設設備老朽化に伴い、自動火災報知設備更新工事を実施しました。更新工事実施により、大学構内の防火体制維持及び学生・教職員にとって安心安全なキャンパス環境の提供が可能となりました。

②図書館 入館管理システムの更新

2009年8月に更新して以来10余年を経過した入館管理システムの更新を行いました。今回はこれまでの入館管理に退館管理を加えた「入退館管理」ができるものへの変更です。これにより、ある時間帯の在館者数がリアルタイムで把握できるようになりました。例えば大規模災害が起こった時、館内に何人いるか、また誰がいるかということが把握できるなど、利用者の安全管理に資することができます。ほかに、利用者の平均在館時間など、利用者の行動を把握し、それに見合った開館時間を検討するなど、利用者サービス向上のた

めの資料として活用することができます。
また、2021年4月に開設する東京あだち図書館にも同じシステムを導入しており、一元的な管理が可能となりました。

【湘南キャンパス】

①2号館 化学薬品排水管改修、貯留タンク設置工事

2号館3階実験室で使用した実験排水の処理方法を、浄化槽法を順守した方法に合わせるため、各実験室からの化学薬品排水管を改修し、貯留タンクを設置しました。今後は実験排水を溜め、産業廃棄物回収業者が回収する処理方法に改めます。

入試制度、募集強化事業

①2021年度入学者選抜の実施

文部科学省から通知された「2021年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について」の内容を踏まえ、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を総合的に評価するための入試制度を検討し、2021年度入試の総合型選抜、学校推薦型選抜において、一部試験科目を変更し実施しました。引き続き、文部科学省及び大学入試センターの動向を注視し、他大学の入試制度改革の状況も踏まえながら、検討を続けます。
また、2021年度入試においては、文部科学省等からの指示に基づき、新型コロナウイルス感染防止対策を各種講じ実施しました。

②募集強化計画の実施

新型コロナウイルスの影響により、予定していた学生募集強化高校訪問は、直接訪問から資料送付及びWeb個別相談方式に変更し実施しました。また、対面式のオープンキャンパスや相談会、高校での説明会・模擬授業等を中止し、その代替企画として、Webによるオープンキャンパス、個別相談、入試説明会、高校教員対象説明会及びオンラインによる高校での説明会等の各種学生募集活動を実施しました。

③入試情報サイトのリニューアル

大学のWebサイトリニューアルに併せて、より受験生や保護者に訴求できるサイトへリニューアルを実施しました。

④全国入試成績優秀者に対する特待生制度の実施

2018年度入試から導入した新たな制度により入学試験を実施し、8名の入学者がありました。引き続き、今後は入試結果や特待生入学者数等を参考に、導入した特待生制度の妥当性の検証を進めます。

その他

①ホームカミングデーの実施

新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。2021年度については、状況を踏まえ実施検討する予定です。

②教員免許状更新講習

教育職員免許法に基づく教員免許状更新講習の開催を計画し、4月1日から募集を開始しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、講習の質を保持しながら安全に開催することは困難であると判断し、2020年度開講予定講習を全て中止としました。開設を予定していたのは、越谷キャンパスが27講習（必修2、選択必修4、選択21）、定員1,916名、湘南キャンパスが10講習（必修1、選択必修2、選択7）、定員690名でした。

③図書館 ホームページの再構築

本学付属図書館を構成する越谷図書館と湘南図書館は、これまでホームページを別々に作成し、それぞれのキャンパスの利用者へのサービス・ポータル（拠点）として維持してきました。2021年4月の東京あだちキャンパス開設に伴い、付属図書館は新たに開設する東京あだち図書館を加えた「３館体制」となります。そのタイミングで付属図書館として共通のサービスを提供するという方針のもと、図書館ホームページの再構築を進めてきました。近年の図書館ホームページは、学術情報のデジタル化・ネットワーク化の進展に伴い、それを利活用する「学術ポータル」としての役割をますます強めています。図書館の基本情報（利用条件など）や最新のお知らせを伝えるだけでなく、「情報を探す拠点」としてデザイン・構成を一新し、2021年4月にリリースします。

④図書館 電子情報資料整備事業

学術雑誌、書籍、事典・辞典、文献索引など、これまで印刷体で提供されてきた情報は、近年デジタル化され、コンピュータ・ネットワークを通じて利用できるようになってきました。
本学付属図書館を構成してきた越谷図書館、湘南図書館は、2000年頃より電子化された文献データベースを導入し、以後、学部の主題領域に沿ったデータベースを提供してきています。提供するコンテンツは、事典・辞典、新聞記事、学術雑誌（電子ジャーナル）へと拡大してきました。近年では、電子書籍提供プラットフォームのひとつであるLibrariEを「文教大学電子図書館」として利用者に提供しています。新型コロナウイルスの流行が本格化し、利用者の来館を受入れることができなくなった2020年4月以降、これら電子資料は「非来館型サービス」で提供する重要なコンテンツとなりました。

⑤新型コロナウイルス感染症対策の実施

学長の下に文教大学新型コロナウイルス感染対策組織を編成し、大学の教育課程を確実に実行することを優先課題とし、大学行事予定の変更、オンライン授業の導入、各学科等で実施する学外実習等の対応を実行し、学生の単位認定に支障が出ないよう対応しました。また、オンライン授業を実施するための通信環境が整わない学生に対し、PC及びモバイルWi-Fiの無償貸与や緊急特別奨学金制度の拡充等により学生支援を実行しました。

文教大学付属中学校・高等学校

当該年度の教育活動に関する事業

①文教ステーション（Bステ）・各種講習・学習合宿の実施

講習については新型コロナウイルス感染症の状況を見定め、夏期はオンライン、春期は対面で実施し(冬期は中止)、放課後は中学1,2年生のみ、小規模実施しました。2018年度から中学生の各学年で週2回行い、生徒各々が学びたい講座を選んで主体的に学べることが好評な放課後講習の「ナナガク・みらいTime」は、2学期から実施にこぎ着けました。タブレットPCを持つ中学校1年生・高校1年生は、オンライン英会話を授業の中に組み込みました。また、Bステ（放課後の「自立学習支援システム」）を設置しており、放課後学習習慣の定着に効果を上げていますが、ここでも、授業や講習の実施状況にあわせて、対面での時間短縮実施やオンライン実施を行いました。3学期には講習を実施する際、対面講習が難しいときは急遽オンライン実施できるようになり、学習指導体制がこの1年間で格段と前進しました。なお、学習合宿は宿泊を伴うため、実施できませんでした。

②キャリア教育の充実
（株）リクルートホールディングスとタイアップして文教版キャリアノート『NEWTON』が中高6年間分、完成しており、2017年度から全ての学年で体系的に実施しています。2020年度は独自のプログラム実施6年目で、さらなる内容の改良、更新を行いつつ、実施しました。4,5月の休校期間は生徒への『NEWTON』のオンラインによる配付や、高校ではオンラインで大学の授業を視聴する等、工夫してキャリア教育を行いました。英語スピーチコンテストは初めての試みとして、中学3年生がオーストラリアの中高生とZoomを活用して交流し、たいへん有意義でした。キャリア教育の1年間の集大成として行っている探究学習発表会については、一同に会することができないので各学年ごとに1年間のまとめをしました。

③タブレットPC活用の推進
2019年度から、生徒各自にタブレットPCを持たせて授業、HR活動、学校行事や家庭学習を通して幅広く活用させる取り組みを開始しており、2020年度は中学1,2年生、高校1,2年生に広げました。4,5月が休校でやむを得ず、高校1年生には4月、中学1年生には5月にタブレットPCを各家庭に送付しましたが、各家庭での保護者のご協力も得て活用にこぎ着けました。生徒に1人1台のタブレットPCを持たせたことにより、登校できない状況下でも、Zoomでの各生徒への声かけや授業実施、オンラインでの課題や家庭通信の配布ができ、たいへん効果的でした。中学3年生、高校3年生は自宅のPCやスマホで、オンラインを活用しました。オンラインを授業、HR活動、家庭学習、保護者への連絡等で活用する組織体制が、1年間で一気に前進しました。

④自立心を育てる
中学生を対象に1泊2日の体験型宿泊行事として、自立心を養うこと等を目的とした「トリニティーキャンプ」の実施を計画していましたが、コロナ禍で実施できませんでした。そのため、代替行事として10月に、中学1年生は品川区、2年生は鎌倉方面で、日帰りの訪問・調査研究活動を班ごとに行いました。また、中学3年生は平和学習として丸木美術館を訪問して原爆について学んだり、歴史学習として大江戸博物館を訪問して伝統文化について学んだりしました。感染防止に配慮して行動する中で、生徒が主体的に考え、行動するプログラムを実践し、大きな成果をあげることができました。

⑤オーストラリアへの短期研修・中長期留学とセブ島への語学研修の推進
2012年度にグローバル化事業を立ち上げ、2013年度から始まった中長期留学プログラムのもとで毎年実施している、オーストラリアへの短期研修・中長期留学と、2016年度に開始したセブ島語学研修は、どちらもコロナ禍で実施できませんでした。

⑥台湾修学旅行から台湾の大学進学へ
2015年度から実施している台湾修学旅行は、台湾の大学で授業や交流活動を行う等、生徒の意識を高め、視野を広げることができる、意義深い体験学習ですが、コロナ禍で中止となりました。しかし、台湾では新型コロナウイルス感染防止対策が進んでおり、現地の大学では対面授業を行っています。そのため、本校で行っている台湾の大学進学向けの華語講座はオンライン(月に1回のスクーリング有り)で実施し、9月には8名の生徒が台湾の大学に進学しました。華語を学んだ上で台湾の大学に進学する生徒は2017年度から6名、9名、12名、8名と続いており、世界規模で困難な状況下ですが、海外に羽ばたいていく生徒を支援します。

当該年度の研究活動事業

①教員の授業力の向上
「生徒による授業評価アンケート」を外部業者（代々木ゼミナール教育総合研究所）に依頼し実施しました。その後、8月に実施した教員研修会において、講師からの結果分析とアドバイスを基に、教員の指導力向上につなげました。また、1月には感染防止に配慮しつつ、対面による研究授業を重視し、計7教科で実施しました。全教員が参加し、授業改善への取り組みが進みました。一方で外部での授業力向上研修参加を奨励していますが、2020年度はコロナ禍ですべてオンライン講座となりました。

②進学実績の向上
大学への進学実績の向上を目指して、外部模擬試験の分析会を中学高校全学年について2回、個々の生徒に合わせた志望校検討会を高校3年生について2回行いました。こうした協議会や各教科会を通して、中学高校の各学年の模擬試験結果等を分析し、指導方法や指導計画などを振り返り、学習指導の改善を行いました。また、特に高校3年生は大学入試改革の下での「大学入学共通テスト」開始年度であり、対策、指導方法について何度も研修を行い、教員間での共通理解に努めました。結果的には熱心な進路指導、学習指導が実り、大学進学状況は国公立大学14名、早慶上理16名、GMARCH73名等、過去最高の進学実績でした。

③ICT（情報コミュニケーション技術）機器の活用
校舎の全教室にICT機器が配備され、全教科で電子黒板を活用した授業を行うことが定着しています。2019年度から、生徒各自にタブレットPCをもたせて授業やHR活動、家庭学習等で活用させる取り組みを開始しており、2020年度は中学1,2年生、高校1,2年生に広げました。4月、5月はコロナ禍で休校となり、全校生徒がオンライン授業となったため、中学3年生は自宅のPC、高校3年生は所有のスマホを使用することとしました。2020年3月から教員間で活発にタブレットPCの操作や技能を習熟する研修会を何度も開き、ZoomやYouTubeの使用法、授業研究を行い、4月当初から全教員がオンライン授業を行うことができたことは最大の強みとなりました。それによりICT機器活用のための教員のスキルが大幅に向上しました。また、2020年度は、2019年度から行っている東・西・中央校舎内のWi-Fi設置が全て完了し、施設の整備が進みました。

当該年度の学習者支援事業

①「JETプログラム」による外国語（英語）指導助手の活用
4月当初はコロナ禍のため、「JETプログラム」による外国語（英語）指導助手が、東京都から配置されませんでしたが、12月から1名、配置されました。授業の支援に加えて、英語検定のための面接練習、スピーチコンテストに向けた指導等、生徒が外国人の発音やパフォーマンスを身近で学び、英語に親しむ機会を増やすことができました。

②外国人英語講師の幅広い活用
ALT講師を常駐の教員として採用しました。職員会議に出席し、指導方針に沿って学校運営に携わることで、職務や指導における共通理解が大きく深まりました。また、専任教員とともに、会話を中心とした授業計画の作成、興味を向上させる英語のアクティビティプランの作成、リスニング学習用の音声教材の作成、スピーチコンテストの指導、英語検定２次試験の指導など、ネイティブとしての特性と専門性を生かした業務を担当させることで、生徒の英語４技能の向上につ

ながりました。今後、さらに、外国人英語講師の活動の場面を増やし、活用を推進します。

③プログラミング教育の推進

生徒の問題解決力、論理的な思考力の育成と、現代のコンピュータ社会でのプログラミング教育の必要性を重視し、2017年度から中学3年生の技術家庭の授業内で「レゴ・マインドストームEV3」を教材として使用したプログラミング教育を行っています。加えて2020年度から、高校1,3年生の情報の授業で、HTMLによるホームページ作成を開始しました。高校1年生は入学当初から休校になり、授業時数が少ない中での開始でしたが、興味をもって取り組む生徒が多く見られました。プログラミング教育の推進に、引き続き尽力します。

④特待生の入学金、授業料免除

2020年度の特待生については、入学金の免除・授業料給付となる新入生の特待生は、入学選抜において対象者は多数いるものの、入学手続きに至らないため、中学1年生は該当者なし、高校1年生は1名となりました。在校生については、年間3回の模試と、各教科の評定をもとに選考し、中学生は4名、高校生は10名となりました。いずれの生徒も、学習の意欲が高く他の生徒と見本となっています。また、高校3年生の特待生については、進路実績の向上にも好影響を与えています。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者アンケートの実施と学年便りの配布

毎年行っている保護者対象の学校アンケートを12月に実施しました。4月当初の休校時にオンライン授業をいち早く始めたことを評価してくださったご意見が多々ありました。概ね学校に好感をいただいていますが、自由記述欄には、改めるべき点等厳しいご意見もいただきました。ご意見に教職員全員が目を通し、改善や変更が必要な事項は早速、改めました。2月にアンケートの結果を表やグラフにまとめた資料と保護者の主なご意見に考察を添えて配布しました。オンライン学年便りについては、各学年で計画的に配布し、情報交換と相互理解を深めました。保護者面談や保護者会、学級懇談会は、年間をとおして対面実施が難しく、Zoomでの実施を併用しました。

②地域における生徒のボランティア活動

4月に毎年行っている、有志生徒による地域の清掃活動は、休校により中止しました。部活動単位で有志生徒が行っている、学校周辺の清掃や地域の高齢者施設での吹奏楽演奏等のボランティア活動も中止を余儀なくされました。しかし、新宿警察が行う交通安全イベントに吹奏楽部が参加し、協力したところ、新宿警察署から表彰されました。コロナ禍でボランティア活動が難しい状況ですが、できることを模索し、取り組みを続けていきます。

校舎施設設備の改善事業

①人を呼べる校舎の追求

校舎を綺麗に保つよう、毎日の清掃活動に取り組み、施設設備を大切に使うことや清掃美化について、生徒会の整備委員会の生徒が中心となり活動を行いました。また、2016年度に作成した、校舎のテーマである、「PORT（港）」のコンセプトと校舎の各施設の紹介を、学校説明会や学校案内時に行いました。コンセプトの下で「母校であり、母港でありたい」というメッセージを掲げることで、本校に関係する多くの方々の連帯感を高めるとともに、本校の魅力を多くの方々に発信することに繋がりました。一方で授業、HR活動、学校行事等でのタブレットPC の活用が広がることに備えて、校舎の無線LAN環境整備を2018年度から開始し、2020年度に普通教室・特別教室の無線LAN環境が完成しました。充実した学習環境が提供できるよう、引き続き、校舎施設の整備を推進していきます。

入試制度、募集強化事業

①学校説明会の積極的な実施

4月、5月の休校後も感染防止を第一と考えたため、学校にお招きしたり、ご案内したりすることを控えました。そのため、学校説明会を初めて行ったのは8月1日であり、その後も少数の説明会を短時間で行い、授業見学は行わない等、配慮を徹底させた説明会を継続しました。また、対面とオンライン（Zoom使用）を併用した「ハイブリッド型説明会」を複数回、工夫して実施しました。毎年、全教員体制で行っていた塾や中学校訪問も、コロナ禍のため実施できませんでした。しかし、感染防止を優先し、小さな説明会を中心に丁寧、誠実な対応を遂行した学校の姿勢を、参加者の皆様にはご理解いただけたことと考えています。

②多様なニーズに応えた入試制度の設定

中学校では2017年度から2科、4科の入試とは別に適性検査型入試を行い、論理的思考力や発想力に富む生徒の募集を実施し、2020年度は3名が入学しました。高校では2020年度から新たに、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、受験機会を確保するため、第3回入試を2月23日に実施したところ、22名が受験し、11名が入学に至りました。また、2018年度から実施している帰国生入試は、2020年度は受験者も増え、中学1名、高校1名が入学しました。多様なニーズに応えた入試形態の設定が功を奏しており、受験生の増加につながっています。

③魅力ある広報活動の実施

2017年度からホームページを一新しました。360°見渡せるカメラを使用した校舎の施設設備の紹介や、生徒の生き生きした表情が数多く掲載されており、ほぼ毎日更新しています。2020年度はインスタグラムの発信を開始し、コロナ禍で学校に来校する機会がほぼ無くなってしまった中、たいへん好評です。フォロワー数は約900人と増えています。また、3月には新型コロナウイルス感染症対策の一環として、卒業式の形態を昨年同様、例年と変更して行いましたが、保護者向けにYouTubeで式典の動画を限定配信したところ、たいへん喜ばれました。

④生徒募集活動の成果分析の実施

第3者機関に依頼し外部からの視点で、入試及び入試広報に関する成果がどの程度であったかについて分析、報告を受けました。他校との比較や経年比較を数値で分析することで、様々な問題点が明確化し、対策につながりました。第3者機関による分析結果を教員間で共有することで、入試広報や生徒募集活動の取り組みに生かすことができました。

その他

①生徒指導上の留意点について

中高生の時期は、心の成長に重要な時期です。本校では教職員間の情報共有を密にし、保護者の方々と連携して、多感な時期の生徒の悩みやトラブルを小事の段階でとらえて、相談に乗り指導しました。保健室やスクールカウンセラーとの情報交換や連携も大切にしてきました。また、毎週月曜日に行っている校長講話で、学園創立90周年である2017年度から、「人間愛」に関する話を定期的に行っています。一

方、図書室でも、「人間愛に生きた(る)人々」の書籍コーナーを設置し、生徒の感想文を募集し紹介しました。校訓である「人間愛」について、生徒全体が考えを深める一助になりました。

②新型コロナウイルス感染症対策の実施

4月、5月は休校とし、オンライン授業を実施しました。6月当初から分散登校を開始し、29日からほぼ、通常登校を始めました。分散登校時から、校門でサーモカメラによる体温確認を行うと共に、生徒は朝の体温を記入した健康観察票を毎日持参し、朝のHR時に担任の確認を受けます。また、6月、7月は教員が生徒の机、椅子の消毒を毎日行い、2学期以降は生徒各自が必要に応じて消毒を行うことができるようにしました。緊急事態宣言等の下では、状況に応じて、放課後の講習や部活動の時間を短縮したり、中止したりしました。

文教大学付属小学校

当該年度の教育活動に関する事業

①知的能力を高める体験活動の充実

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本校の特色である宿泊学習が2020年度は実施できませんでしたが、「知的能力を高める体験活動の充実」はぶれることなく、社会科見学等、感染リスクは回避した形で実体験を踏みながら活動の学びを重ねることができました。
3年生の社会科見学では「海苔の博物館」を訪れ、海苔づくりを実際に体験することで、先人のものづくりの精神と伝統文化・産業について体感することができました。4年生は、「ごみ処理場」「ごみ埋め立て地」を見学し、自分たちの出すごみの行方を知ることで、ごみが自然に与える影響や、自分たちの今できることについて考えることができました。5年生は、「未来科学館」を見学し、これから迎える未来を体感することで、AIやデジタル社会での生き方や未来に向けてつけていく力について考えるきっかけを持ちました。6年生は、国会議事堂を見学し、普段見ることのない政治の中枢を目の前にし、政治を身近に感じることができました。
学校で学んだ知識が点となり、体験活動が線となることで、点が結ばれ生きた学びとなるよう、今後も知的能力を高める体験活動を大切にしていきます。

②国際社会で活躍する人材の育成：英語力の強化「全学年週1時間から週2時間へ」「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加・「ENGLISH TIME」の継続

2020年度から、英語力の強化をねらい、全学年週1時間から週2時間へと英語の授業時間を増やしました。このことにより、子どもたちの英語に触れ、英語で遊び、英語を話す機会が圧倒的に増えました。また、英語を苦手に思っていた子どもたちも、英語の時間が増えたことで苦手意識が克服できていることが、子どもたちの声からもわかります。
この日々の英語学習でつけた力を「活きて働く英語実践の場」として「TOKYO GLOBAL GATEWAY」への参加も継続していきました。「ENGLISH TIME」も、子どもたちが全校の前で英語でスピーチする貴重な場として継続しています。
英語検定へのチャレンジも増えてきており、2020年度は、1年生で英検準2級、2年生で英検2級に合格する子どもも出てきました。子どもたちの中での「英語力強化」の意識が浸透しつつあります。

③「全館図書館」のメリットを生かし、「読む力」「書く力」の言語力を強化

校舎の中心に「本」がある全館図書館の環境ができ、6年目を迎えます。新校舎になってから、小学1年生だった子どもたちが最高学年となり、6か年、この環境で育った子どもの姿や成果には以下のような変化が見られるようになりました。

- 子どもたち同士の話題が、遊びやゲームが中心だったことから変化し、「本」の話題が多く挙がるようになりました。文教大学付属小学校は、9割の子どもが電車で通っていますが、子どもたちのカバンの中には常に本が入っています。混んでいない電車の中では、すき間の時間を利用し、本に積極的に親しむ子どもの姿が多く見られるようになりました。
- 本校では、毎年2月に全学年が全国学力模試（CRT）を受け、自分の、あるいは学年や学校としての学力が、客観的な数値で、どのような位置にあるのかを把握しています。全館図書館に校舎が変革して以来、国語における、とくに「読む力」「書く力」において、2017年度から全校平均がどの学年も15ポイント以上を上回る結果を出しています。

日常的に本に親しむことが、子どもの学力にいかに大きなプラスの影響をおよぼしているかが、この数値からも読み取ることができます。今後も読書活動に日常的に触れられるよう教育活動を工夫してまいります。

④自分の考えを明確にもち、交流により考えを深めていける人材に！【深い学びへ】～「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」の構築 本校独自の年間指導計画・単元ごとの評価規準の充実と活用～

「文教大学付属小学校型アクティブラーニング」を更に継続し、子どもたちが「どのように学ぶか（論点 整理）」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び＝ディープアクティブ・ラーニング」を実践してきました。特に、「発問の焦点化」「思考の可視化」に研究の重点をおき、公開授業を通して互いの授業を見合い研鑽を積んできました。
2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、研究授業の設定は難しかったものの、「学びの月間」と題し、お互いの授業を公開し合い、見合うという手法をとりました。お互いの授業スキルを高め合う貴重な機会となりました。今後も継続していきます。

⑤プログラミング教育の充実

「2DAY PEPPER」と題し、各学級をロボットのPEPPERが2日間ずつ回っていくことでどの学年も、プログラミングの機会に触れられるよう工夫しました。プログラミングが日常的になってきていることを、今後も継続してまいります。

⑥指導体制の工夫による個に応じた指導

チーム・ティーチングや習熟度別学習、課題別グループ活動等を適切に行い、個に応じた指導を徹底し、基礎学力の定着と学力向上を図ってきました。特に3年生の算数においては、算数少人数担当と学級担任が連携し、2クラスのところは2学級3展開の体制を組み、習熟度に応じた充実した授業を展開することができました。

⑦基礎・基本の確実な定着

45分の枠に縛られない短時間学習：モジュールタイム（毎日10分×2回）、漢字検定（年間2回）、全学年辞書の日常活用、家庭学習の徹底（10分×学年数＋20分と取り組みカード活用）等、きめ細かな指導を積み重ね、基礎学力を定着させることができました。特にモジュールタイムの読書活動は、子どもたちの「読む力」「書く力」の向上につながり、2020年度全国学力模試「CRT」でも、全国平均を全ての学年で5～15ポイント以上を上回る結果を出すことができました。

⑧多様な学習展開による学ぶ意欲の高揚

2020年度は、コロナ禍により校外での活動が制限された分、ICT教育の充実を各学年で図ることができました。各教室の電子黒板等も有効に活用して、分かりやすく思考が深まる多様な学習展開を工夫し、子どもの学ぶ意欲を高めています。

⑨日常的な運動継続による体力向上
休み時間終了前5分間の「マラソンタイム」、始業前の外遊び、週2回の体操朝礼を継続的に実施することで、子どもたちの体力向上を図ることができました。とくに2020年度は、コロナ禍により運動不足になりがちな子どもたちの生活を改善させるためにも、体力づくりに力をいれてきました。人工芝の校庭や第二運動場を十分に活用するために、各場所の学級割当てを決め、計画的に体力向上が実現できています。

⑩縦割り行事や全校自然体験学校の取り組みによる豊かな心の醸成
2020年度はコロナ禍により宿泊は実施できませんでしたが、運動朝礼での縦割り活動、行事への練習過程等を通して、豊かな心を醸成することができました。日常的な、掃除の取り組みも縦割りで行い、子どもたちの人格形成が豊かに育まれることを確信しています。

当該年度の研究活動事業

①自分の考えを明確にもち、考えることが楽しめる人材の育成
研究主題「学びの深化を目指して 自ら問い続ける子どもを育てる！文教大学付属小学校型アクティブラーニング」

- 新たな未来を築く人材育成として「主体的に問題を解決し解を見出していく能動的学習（アクティブラーニング）を実践しました。学びの量とともに、質や深まりを重要視し、子どもたちが「どのように学ぶか（論点整理）」に光を当て、「主体的・対話的で深い学び＝アクティブ・ラーニング」としての授業を展開すべく研究を進めてきました。
- 教員の授業力向上に向け、「学ぶことを楽しむ！文教大学付属小学校型アクティブラーニング」を主題に校内研究を充実させてきました。どの教員も公開授業を通してお互いの授業を見合い、外部講師の指導を仰ぐことで、実践的な力を高めています。
- 「ディープアクティブラーニング授業スタイル」の工夫に取り組みました。
  - ・複数で解決していく課題の設定
  - ・協働的な学びを意識した机の配置スタイル
  - ・子どもたちが話し合う場面の設定
  - ・子どもが中心の教師の立ち位置
  - ・課題設定の工夫

②外部研修への積極的な参加と成果の共有・還元
全教員が、年2回の私学連合研究会（全国大会を含む）と個別課題研修1回に必ず参加し、研修成果をまとめて共有し、実践につなげるようにしました。研修の学びは、研修報告書として一冊にまとめ、教職員共通の学びとしました。職員会議には研修報告会も実施いたしました。

③日常的な教材の研究と準備
全教員が、週ごとの指導計画記入と教材準備について、管理職の指導を受けて、日常的に授業改善を重ねてきました。

当該年度の学習者支援事業

①系統的なキャリア教育
個に応じたきめ細かな進路指導のために、1年生から6年生までの系統性を明確にしたキャリア教育計画を活用して、全教育活動を通して指導を進めてきました。

②個に応じた補習指導
4年生から6年生は、更に具体的に中学校選択への支援ができるように、児童・保護者への調査を行うとともに、面談を通じてニーズを正確に把握してきました。それに基づいて補習計画を立てることで、指導内容や方法を改善することができました。

③適切な進路指導
進路指導部を中心に、中学校受験への具体方策を提案できるようにしてきたことで、多くの子どもたちが、第一希望第二希望の中学校進学を決めることができました。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者参画による行事等
父母の会（児童の父母で構成する協力団体）主催の文教まつりやバザーは、コロナ禍により開催することは困難でしたが、形を変えて、「ビンゴゲーム」や「文教マーケット」を開催することで、密を避けつつ父母の会主催の行事を充実した形で行うことができました。

②年間を通した保護者による参観や面談
新型コロナウイルス感染防止のため、授業参観は中止としたものの、個別面談は、Zoom等を利用し開催することで、家庭と学校との連携を取りながら進むことができました。

③地域連携強化による防災
防災対策、緊急時対応を万全にするために、地域防災会議への参加や関係部署との連携を引き続き密に行ってきました。不審者訓練で警察の方にご来校していただいたり、煙体験で消防署の方のご指導をいただいたり、地域の専門の知識を取り入れながら進んできました。更に最良の判断で最善が尽くせる組織体制を整えていきます。

④協力・支援を生かす同窓会
同窓会は、月1回小学校で役員会を開いて連携をしてきました。2021年度は、バザーや文教まつり等参加を更に強めていきます。

校舎施設設備の改善事業

①校舎・施設の特長を最大限に活用した学習活動の展開
校舎の全館図書館や特別教室の利点を生かした授業展開を考え、ねらいと方策を明らかにして取り組み、成果に結び付けてきました。具体的には、電子黒板を活用することにより、前時の振り返りが容易となり、スパイラルに学習が進めていけるようになりました。

②校舎内・校舎外における教育活動のバランス
人工芝の校庭での外での活動と内での図書館活用を、バランスよく進めてきました。

③校舎目隠しフェンス取り付け工事
児童の安全性確保や、校舎周辺及び近隣への騒音対策として、校舎東側フェンスへ目隠し板取り付け工事を行いました。
児童の安全性の面では、半透明の素材を使用したことで、防犯性を残しつつ、児童の姿が外部から直接見えることがなくなりました。騒音対策としては、近隣地域への配慮を目に見える形で示し、なおかつ景観に閉塞感を与えないよう注意しました。

入試制度、募集強化事業

①広報活動の充実と応募者増への戦略
幼稚園・保育園・幼児教室等へ、年間複数回お手紙等を発信することで、幼児保護者に文教大学付属小学校の教育方針や進路指導等を、更に深く理解いただき、知名度を高めていくことができました。また、「お受験冊子」や教育誌等への小学校の積極的な掲載等、広報活動を工夫し、コロナ禍にあっても、定員50名に対し、出願倍率を3倍強に維持することができました。

②学校説明会の充実

幼児体験教室や模擬試験等、幼児保護者のニーズを踏まえ、年間5回の説明会の内容を回ごとに工夫し（オンライン含む）充実したものにしていきました。回ごとに合唱を披露する子どもたち及び教育活動を紹介する教員を入替えることで、多くの学年の子どもたちの様子を知り、理解を深めていただくことができました。

③学校外説明会の充実

幼児教室から依頼の講演会、近隣の私立小学校合同説明会等で、本校の存在や魅力を広く周知していただく機会を多く得ることができました。

その他

①グローバルに活躍する人材の育成・「オーストラリア短期留学」の実践
「世界の中の日本」を意識した国際理解教育・異文化理解教育の充実

2020年度は、コロナ禍により渡航することはできませんでしたが、オーストラリアの教育省とのオンライン会議や、ノースレイクス ステイト カレッジの子どもたちとの手紙のやり取りなど絆を深めることができました。

②アフタースクールとの連携

文教大学付属小学校で実施しているアフタースクールのスタッフと更に連携を深め、放課後における一人ひとりの子どもの生活・学習を知り、児童理解を深めました。

③「人間愛」あふれる文教っ子　大切な八か条

「豊かな人間性」とともに、「学ぶ楽しさ」「学びの発見や友達との共感、わかった・できたという実感、もっと探究したいという意欲」を育みました。

【第一条】大きな声であいさつ・返事ができること。
【第二条】背中をまっすぐ伸ばして、いい姿勢で過ごせること。
【第三条】素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること。
【第四条】人のせいではなく、自分で責任がもてること。
【第五条】めんどうなことを後回しにしないこと。
【第六条】提出物、宿題について、ちゃんとやれること。
【第七条】困っている友達に進んで声をかけることができること。
【第八条】整理整頓、片付けがしっかりできること。

以上、八か条を生活目標に組み込むことで、豊かな文教っ子の生活が実現できています。

④文教っ子スタンダード

建学の精神「人間愛」に基づく、学校とご家庭の共通理解を冊子「文教っ子スタンダード」として作成したことで、連携しながら教育活動を進めることができました。

⑤自然学校における自然体験の充実

コロナ禍により実施できませんでしたが、今後も自然体験の少ない子どもたちに、自然の植物や生物に触れさせる貴重な機会をつくってまいります。

⑥防災意識の向上

8月末に「防災の日」を設定することで、いつ何どきに災害が起こっても、「自分の命はしっかり自分で守る」防災意識のスキルを学ぶことができました。毎月行っている避難訓練だけでは、身につけられない知識も、豊富に積み重ねてきています。

⑦コンピュータシステム保守

2018年8月導入した教育システムの安定稼働・安定維持を目的として導入業者と5年間（2022年8月終了予定）の保守契約をしています。システムのセキュリティー対策や指導要録の改訂に伴う仕様変更など、安定した授業支援、校務支援システムの運用ができました。

⑧新型コロナウイルス感染症への対応について（総括）

●健康観察

・登校前に必ず体温測定を実施。のどの痛み・咳などの風邪症状や発熱がある場合には、無理に登校せず、自宅にて休養。朝の時点で37.0度以上ある場合には、体温が上がってくる可能性があるので、登校の検討をご家庭にご依頼。各ご家庭には「健康観察カード」を配布し、毎日の体温と健康状態を記録。
・登校後、目安として37.5度以上の発熱や体調不良等の訴えがあった場合には、ご家庭にお迎えの要請。

◎毎日 始業10分間は、健康観察タイム。換気・手洗いをこまめに行うことに加え、各教室に加湿空気清浄機を設置。

●基本的な感染症対策の徹底

・ハンカチは毎日清潔なものを準備。
・マスクの着用は必須。
・使用したティッシュは、学校のごみ箱には捨てず、各自持参したビニール袋にて密封し、持ち帰り。

●学習について

・座席の配置は、一定の距離をとり、前後の配置も飛沫がかからぬようずらして固定。
・対面式となるグループ活動は避ける。
・全校学年が集合する場は避け、朝礼も電子黒板を利用したZoomによる配信とする。
・運動会は、団体競技は避け、徒競走のみとする。当該学年のみが校庭で参加しそれ以外の学年は、教室内で配信された映像を見ながら応援。時間も短縮し、午前中で終了。保護者の参観はなし。後日、DVDにて鑑賞。
・昼食は、全員が同じ方向を向いた状態でいただき、会話はなしとする。

◎2020年度いっぱいは、コロナ禍による登校困難な自粛は欠席とせず、出席停止扱いとする。

●登下校について

・登校については、本校の子どもたちのほとんどが電車で通学していることを鑑み電車の混雑の感染リスクを下げるため、登校時間幅を拡張。通常7時50分から8時10分であるが、7時50分から8時50分の1時間を登校時間帯とし、授業開始を遅らせることとした。
・下校については、子どもたちの電車内での密を避けるため、時差下校を実施した。

（2020年度 年間を通して実施）

文教大学付属幼稚園

当該年度の教育活動に関する事業

①新しい幼稚園教育要領の趣旨を生かしたカリキュラムづくり

新幼稚園教育要領が施行されて3年目。園児一人ひとりの発達状況の把握・理解を十分行った結果、集団としての育ちに着目したカリキュラムづくりの基礎が定着してきました。

②様々な「遊び」の中で、組織的かつ計画的に教育課程を実践し、“学ぶ、をあそぼう。”の具現化

2020年度はコロナ禍により、様々な「遊び」が制限された中であっても、計画的に学年ごとのテーマを決めて、その内容を少しずつ膨らませてきました。年度末に実施した生活発表会では、見学者の人数制限を余儀なくされましたが、短い練習期間にも関わらず、その成果を元気のない人に「元気ない時ラーメン食べて！」と年長児の『よさこいラーメン』のダンス表現で具現化し、園児達の達成感が得られました。

③「遊び」「運動」「行事」「生活」等の活動を工夫した、生きる力の土台を広げる教育のさらなる推進

2020年度はコロナ禍により、それぞれの活動が制限されましたが、"遊び"の中から運動能力の向上、行事の理解、日常生活に必要な能力を育み、生きる力の土台を広げる教育は、凝縮して推し進めることができました。

④動植物と触れ合う機会を増やし、自然の変化を肌で感じたり命の大切さを実感したりする活動を通した、豊かな感性の育み

新園舎完成から5年後の2020年冬に、動物小屋のクサガメの生んだ卵が４匹孵化したことにより、淡水カメの卵の形や大きさを、園児たちが直に見ることができました。みんなで生命の誕生の不思議を肌で感じ、好奇心や興味を持つことで豊かな感性が育まれました。

⑤園行事と関連する日本の伝統的行事の体験の工夫

7月のみたままつり、12月のお餅つき、2月の節分豆まき会など、園行事として実施する日本の伝統的行事は、時間短縮やクラス別などの工夫をしながら、直接的体験をすることができ、園児たちの心の醸成が育まれました。

当該年度の研究事業

①品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を効果的に利用した、個々の園児の課題に対応した指導及びそれを踏まえた保護者との連携

2020年度は、品川区特別支援教育・巡回相談員の助言・指導を3回にわたり受けることができました。その内1回は、保護者を交え園児の行動観察及び態度などの話し合いを持つことにより、幼稚園と保護者の連携がいかに大切であるか、双方で共通認識を得ることができました。

②品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会への参加による教員の資質向上

2020年度はコロナ禍により、品川区私立幼稚園協会・東京都私立幼稚園連合会研修会は、中止になりました。

③教員の研修・講演会等への積極的な参加環境づくり

2020年度はコロナ禍により、全ての研修・講演会には参加できませんでした。今後はWebを利用した研修・講演会などを利用し、積極的な環境づくりを併用していきます。

当該年度の学習者支援事業

①「目標とする力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が身につく計画的な教育活動の実践

2020年度はコロナ禍により、毎年2月に実施されている幼稚園教諭と進学先の小学校教諭との連絡は、すべて電話による情報交換に変更し、実施しました。

②真の学ぶ力の育成

2020年度はコロナ禍により、2019年度よりも少ない保育時間数でしたが、「認める・見守る・ともに楽しむ」という"文教スタイル"を継続して自己肯定感を育て、遊びながら真の学力を育みました。

③付属小学校との連携及び保護者への積極的情報提供による進学率向上

2020年度はコロナ禍により、幼稚園で実施する付属小学校説明会や、付属小学校への見学は中止となりましたが、付属小学校だよりの配布や、付属小学校入学希望者への保護者面談を2回に増やすなど、付属小学校への情報提供を行いました。

④「文教幼児教室（課外活動として実施している外部業者による学習支援プログラム）」との連携

2020年度はコロナ禍により、幼稚園が閉鎖された時以外は開室しました。この幼児教室は保護者からの期待度も高く、年中・年少クラスともに定員10名にして密を避けながら実施しました。年中10名、年少6名が課外活動として参加しています。

当該年度の保護者又は地域連携事業

①保護者との連携方法の工夫

2020年度はコロナ禍により、登降園時や掲示板での連絡ができませんでしたが、保護者が登録している安否確認システムを活用して、幼稚園からの発信を速やかに行いました。又、保育活動の様子については、リニューアルしたホームページから簡単に閲覧できるよう配慮しました。

②保護者と連携した諸行事の円滑な実施と品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」の諸行事への協力

2020年度はコロナ禍により、品川区私立幼稚園「保護者教職員連合会」が主催する連合大会が中止となりましたが、保護者による「あしなが育英会募金」は従来通り実施できました。

③地域や家庭のニーズの把握と必要な対策の実施

2020年度も保護者アンケートを実施しました。コロナ禍で幼稚園行事が通常どおり実施できない中、保護者の生の声を反映できる貴重な情報です。今後も継続して保護者のニーズを把握し対策を講じていきます。

④未就園児保護者との連携及び保護者同士の交流のための「ぶんぶん広場」の充実

2020年度はコロナ禍により、「ぶんぶん広場」は6回（3回中止）のみの実施となりましたが、Web登録に切り替えた結果、90名あまりの登録者がありました。参加された保護者の方も顔を合わせる機会も増え、保護者同士の交流の一助となりました。

⑤共働き保護者を対象とした預かり時間延長の推進

2019年度保護者アンケートで希望が多かったお預かり時間の延長については、2学期から共働き保護者のみ18時（通常預かりは17時まで）まで延長しました。しかし、コロナ禍であるため、延長預かり人数の上限定員（15名）を設けました。

校舎施設設備の改善事業

①園舎の施設設備機能の有効活用

幼稚園施設の定期点検や用務員による園庭の管理は細部まで行っています。また、コロナ禍であったため、換気機能の充実した大型冷暖房機器の使用により、窓やドアをあけ放っていても、快適に過ごせるよう有効活用しています。

②園児の目線に立った施設設備の整備

幼稚園施設のコンクリート部分や鋭角な部分には、クッション性の高いゴムで覆い園児の安全を心がけています。また、遊具などについても、毎朝、教員による園舎内の点検・清掃により常に安全管理に努めています。

入試制度、募集強化事業

①保護者のニーズとのミスマッチ防止

2020年度はコロナ禍により、幼稚園説明会(外部)は中止になりましたが、幼稚園で実施する説明会は、3密を防ぐ措置を行いながら実施しました。また、保育見学会も定員10名で6回実施しました。

②入園考査方法の精査

2020年度はコロナ禍により、入園考査ではグループで実施する行動観察は取りやめ、親子面接の中で、行動観察を行いました。その結果、控室での密集を防ぐことができたと同時に、保育室の3密も防止できました。

③タイムリーな情報を発信できるホームページの改修・有効活用

2020年度9月には、ホームページ(携帯ホームページを含む)をリニューアルして、保護者の方が必要と感じるページを中心に、園児の活動が明確に見える形を目指しました。
その結果、行事や幼稚園内での活動がいち早くブログに反映できて、理解度を深めることができました。

④プレスクール実施内容の工夫

2020年度はコロナ禍により、5月の第1回目を中止といたしましたが、開催を楽しみにしている子ども達のために、最初の内容は動画撮影してYouTube配信しました。6月の第2回目からは、3密を防止しながらできる範囲で実施しました。2021年の2月3月は緊急事態宣言中の為中止にしましたが、最終回の内容は動画に収め、YouTube配信しました。

その他

①「文教幼児教室」との募集方法、連携の仕方を工夫

2020年度はコロナ禍により、募集チラシは6月になってから全員に配布しました。「文教幼児教室」の開室は、幼稚園が開園していれば実施することとし、10月に1回講演会を実施することができました。この講演会では、幼児教室のことだけではなく、コロナ禍に必要な家庭での教育の仕方など、幼稚園と連携した内容を工夫して実施しました。

②保護者の満足度を高める教育活動の充実

2020年度はコロナ禍により、全ての活動が時間短縮であったり、学年別に行ったりしましたが、2020年度の保護者アンケート結果は、全体的に満足度が向上しました。コロナ禍であっても、幼稚園での活動が止まることなくアレンジされて、子ども達の喜ぶ姿が見られたことが理由の一つと捉えています。

③新型コロナウイルス感染症対策の実施

保護者には「健康チェックカード」を登園時に持ってくることをお願いし、毎日の子どもの様子や家族の様子を検温と共に記載してもらいました。登園時は再度園児の検温を行い、37.5℃以上ある時は登園できないこととしました。
幼稚園内では、3密を防ぐことの徹底と手洗い・うがい・換気を続けています。また、品川区からのコロナ禍に対処するガイドラインを準用し、変わりゆく罹患者の状況や緊急事態宣言下での対策について、保護者と随時文書をもって連携を取りました。また、安否確認システムを利用して、毎日の連絡を非接触にするなどの方法も併用しました。
行事については、中止を余儀なくされたものも多かったですが、3密を防ぐことはもちろん、バスや公共交通機関を利用することなく、幼稚園舎で代替行事として実施したことにより、幼稚園での楽しい思い出をたくさん作ることができました。プレスクールなどもコロナ禍の影響で、幼稚園に来園することができなかった時は、YouTube配信(先生たちの手作り動画)を行って、在園児でも楽しめる映像を提供しました。2020年度だけでもホームページ上で30本以上を配信しました。

八ヶ岳寮

当該年度の主な事業内容

①八ヶ岳学寮の運営

経年劣化による建物・設備等の不具合について修繕工事等を適宜実施し、利用する学生・生徒・児童・園児・教職員に対して、自然教室を体感できる教育環境の整備を継続しました。また2020年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで運営しました。

2020年5月1日現在

［1］教育研究上の基本となる組織に関する情報

大学等	学部・研究科等	学科等	課程等
文教大学	教育学部	学校教育課程	国語専修
			社会専修
			数学専修
			理科専修
			音楽専修
			美術専修
			体育専修
			家庭専修
			英語専修
		発達教育課程	特別支援教育専修
			初等連携教育専修
			児童心理教育専修
			幼児心理教育専修
	人間科学部	人間科学科	
		臨床心理学科	
		心理学科	
	文学部	日本語日本文学科	
		英米語英米文学科	
		中国語中国文学科	
		外国語学科	
	情報学部	情報システム学科	
		情報社会学科	
		メディア表現学科	
	国際学部	国際理解学科	
		国際観光学科	
	健康栄養学部	管理栄養学科	
	経営学部	経営学科	
（大学院）	教育学研究科	学校教育専攻	修士課程
	人間科学研究科	臨床心理学専攻	修士課程
			博士（後期）課程
		人間科学専攻	修士課程
	言語文化研究科	言語文化専攻	修士課程
			博士（後期）課程
	情報学研究科	情報学専攻	修士課程
	国際学研究科	国際学専攻	修士課程
（専攻科）	教育専攻科	教育学専攻	
（外国人留学生別科）			
文教大学付属高等学校			全日制課程普通科
文教大学付属中学校			
文教大学付属小学校			
文教大学付属幼稚園			

教員個別の保有学位及び業績の詳細は、文教大学ホームページで公開しています。

https://www.bunkyo.ac.jp

Home > 研究情報・図書館 > 研究者情報データベース を参照して下さい。

［2］教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報

専任教員数

※大学の教員数には学長を含みません。

大学等	学部・研究科等	学科等	教員数*1
文教大学	教育学部	学校教育課程	47
		発達教育課程	6
		心理教育課程	14
	人間科学部	人間科学科	15
		臨床心理学科	14
		心理学科	13
	文学部	日本語日本文学科	12
		英米語英米文学科	10
		中国語中国文学科	8
		外国語学科	9
	情報学部	情報システム学科	11
		情報社会学科	10
		メディア表現学科	9
	国際学部	国際理解学科	17
		国際観光学科	12
	健康栄養学部	管理栄養学科	17
	経営学部	経営学科	15
（大学院）	教育学研究科	学校教育専攻（修士課程）	(26)
	人間科学研究科	臨床心理学専攻（修士課程）	(13)
		臨床心理学専攻（博士（後期）課程）	(6)
		人間科学専攻（修士課程）	(22)
	言語文化研究科	言語文化専攻（修士課程）	(26)
		言語文化専攻（博士（後期）課程）	(10)
	情報学研究科	情報学専攻（修士課程）	(22)
	国際学研究科	国際学専攻（修士課程）	(13)
（専攻科）	教育専攻科	教育学専攻	(18)
（外国人留学生別科）			(4)
文教大学付属高等学校		全日制課程普通科	36
文教大学付属中学校			23
文教大学付属小学校			16
文教大学付属幼稚園			11

＊1）（　）内数字は大学との兼任教員数

教員の保有学位

※学長を含みません。

教育学部	博士：33人	教育学、学校教育学、心身障害学、文学、理学、学術、芸術学、美術、体育科学、医学、農学、心理学、D.Ed.、PhD in Applied Linguistics
	修士：31人	教育学、社会福祉学、文学、社会科学、音楽、芸術学、体育学、保健学、家政学、理学、農学、心理学
	学士：4人	教育、音楽、文学、家政
人間科学部	博士：19人	心理学、教育学、医学、学術、人文科学、カウンセリング、社会学、社会福祉学、医療福祉ジャーナリズム学、医科学
	修士：21人	心理学、カウンセリング、社会学、教育学、法学、学術、文学、体育学、経営学
	学士：1人	教育
文学部	博士：25人	文学、言語学、人文科学、教育学、学術、国際関係学、人間文化、Ph.D.、地域研究、イギリス文学、応用言語学、図書館情報学
	修士：14人	文学、M.A.、言語学、教育学、英語教育、学術
情報学部	博士：16人	工学、情報学、理学、政策・メディア、文学、学術、システムズ・マネジメント、社会工学
	修士：11人	学際情報学、映像身体学、芸術学、理学、文学、法学、学術、社会心理学、図書館情報学
	学士：3人	造形、文学、社会学
国際学部	博士：9人	Ph.D.、環境学、地域研究、文学、経済学、法学、農学
	修士：18人	国際学、社会学、文学、経済学、商学、教育学、法学、体育学、M.A.、M.Ed.
	学士：2人	文学
健康栄養学部	博士：10人	食品栄養学、保健学、医学、理学、体育科学、農学、社会学、学術
	修士：3人	家政学、教育学、心身健康科学
	学士：4人	農学、理学、B.S.
経営学部	博士：9人	経営学、経営工学、経済学、社会工学、組織行動学、言語学、学術
	修士：5人	経営学、商学、法学、経済学
	学士：1人	商学

［3］学生に関する情報

学生・生徒・児童・園児数

大学等	学部・研究科等	2020年5月1日現在				2021年5月1日現在	
		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数
文教大学	教育学部	350	371	1400	1570	408	11
	人間科学部	400	390	1600	1715	390	23
	文学部	360	353	1440	1573	363	8
	情報学部	285	311	1140	1243	271	9
	国際学部	245	252	980	1110	282	9
	健康栄養学部	100	104	400	425	95	0
	経営学部	165	174	660	729	167	2
（大学院）	教育学研究科	10	2	20	4	2	0
	人間科学研究科（修士課程）	30	15	60	32	12	0
	人間科学研究科（博士（後期）課程）	2	0	6	0	0	0
	言語文化研究科（修士課程）	10	9	20	19	9	1
	言語文化研究科（博士（後期）課程）	2	0	6	3	1	0
	情報学研究科	6	7	12	11	3	0
	国際学研究科	5	2	10	9	5	0
（専攻科）	教育専攻科	15	2	15	2	2	0
（外国人留学生別科）		40	13	40	28	11	10
文教大学付属高等学校		270	247	810	798	293	237
文教大学付属中学校		200	187	600	531	159	158
文教大学付属小学校		50	56	300	326	50	50
文教大学付属幼稚園		60	38	180	142	45	45

志願者数・受験者数・合格者数

学部	課程・学科・専修		志願者数	受験者数	合格者数
教育学部	学校教育課程	国語専修	852	830	124
		社会専修	1,050	1,032	143
		数学専修	901	877	132
		理科専修	430	424	73
		音楽専修	173	167	51
		美術専修	67	60	10
		体育専修	472	453	66
		家庭専修	112	106	38
		英語専修	578	559	99
		小計	4,635	4,508	736
	発達教育課程	特別支援教育専修	301	297	78
		初等連携教育専修	538	518	154
		児童心理教育専修	439	423	143
		幼児心理教育専修	250	220	118
		小計	1,528	1,458	493
	学部合計		6,163	5,966	1,229
人間科学部	人間科学科		998	954	450
	臨床心理学科		887	842	357
	心理学科		957	912	421
	学部合計		2,842	2,708	1,228
文学部	日本語日本文学科		816	794	322
	英米語英米文学科		548	530	266
	中国語中国文学科		223	219	149
	外国語学科		295	288	208
	学部合計		1,882	1,831	945
情報学部	情報システム学科		589	561	151
	情報社会学科		457	425	239
	メディア表現学科		609	578	165
	学部合計		1,655	1,564	555
国際学部	国際理解学科		1,455	1,389	407
	国際観光学科		978	925	213
	学部合計		2,433	2,314	620
健康栄養学部	管理栄養学科		353	325	247
	学部合計		353	325	247
経営学部	経営学科		1,737	1,635	270
	学部合計		1,737	1,635	270
合計			17,065	16,343	5,094

入学に関する基本的な方針

文教大学

教育学部

【求める学生像】

教育学部は、次のような学生の入学を期待しています。

①子供の健やかな発達を望み、教育を通して社会に貢献したいと強く願っている人

②教育者に必要な知識と実践力を身につけようとしている人

③目指す教育者像の実現に向かって学修し、努力する意欲を持っている人

④社会や時代の変化に関心を持ち、柔軟に対応していこうとする人

〈学校教育課程〉

小学校・中学校・高等学校等、教育全般に関わる仕事に関心を持ち、そのための専門的な知識や実践力を身に付ける場を求めている人

〈発達教育課程〉

子供の発達を軸として、特別支援教育や保育・幼児教育・初等教育等に関わる仕事に関心をもち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人

〈心理教育課程〉

心理教育課程においては、保育所・幼稚園等、保育や幼児教育に関わる仕事に関心をもち、そのための専門的な知識や実践力を身につける場を求めている人

【学んできてほしい内容】

〈学校教育課程〉

①教育学部で学ぶために必要な高等学校までの基本的で幅広い知識と技能

②基本的な学習態度や生活習慣

③積極的に他者と交流するためのコミュニケーション能力や協調性

④教育や支援活動に取り組むために必要な粘り強さと責任感

〈発達教育課程〉

①教育学部で学ぶために必要な高等学校までの基本的で幅広い知識と技能

②基本的な学習態度や生活習慣

③積極的に他者と交流するためのコミュニケーション能力や協調性

④教育・保育や支援活動に取り組むために必要な粘り強さと責任感

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

〈学校教育課程〉

◇総合型選抜

本課程が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、プレゼンテーションと質疑応答(面接)によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲を中心に、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを加味して評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接等によって(一部専修においては実技試験も含む。)、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力や実技能力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本課程での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国・Ａ日程・Ｃ日程入試では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します(一部専修においては実技課題を含む)。

〈発達教育課程〉

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、コミュニケーション・スキルなどを評価します。

◇一般選抜

本課程での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国・Ａ日程・Ｃ日程入試では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

人間科学部

【求める学生像】

人間科学部は、次のような学生の入学を期待しています。

①高校等で継続的に修学の努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技能を身につけた人

②人間の多様な営みに関心をもち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人

③学校生活、あるいは学校外の地域活動、文化活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、実際生活を通して人間社会への関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人

〈人間科学科〉

①高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人

②人間の多様な営みに関心をもち、その営みを探求する意思と思考力を持つ人

③学校生活、あるいは学校外の地域社会において、ボランティア活動、文化芸術活動、スポーツ活動などの実践体験をもち、生活を通して人間社会への関心と主体的な学習に取り組み、社会への参加を試みる姿勢を持つ人

〈臨床心理学科〉

①臨床心理学に対する強い関心と学習意欲を持つ人

②こころの問題について援助しようとする意欲と思考力を持つ人

③人間の幅広い側面に興味を持ち、コミュニケーションを図ろうとする意欲のある人

④臨床心理学の専門性を生かして社会に貢献したいと志望する人

〈心理学科〉

①高校等で継続的に修学努力を重ね、一定の基礎的・基本的な知識・技術を身につけた人

②心理学に対する関心と主体的に学習に取り組む姿勢を持つ人

③人の幅広い側面に興味を持ち、実際の生活を通して人間社会への関心とコミュニケーションを図ろうとする意欲のある人

【学んできてほしい内容】

①国語・英語・数学・理科・社会は、学部での学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。

②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望まれます。

〈人間科学科〉

①国語、英語、数学、理科、社会は、学科における学修の基礎となるものなので一定水準以上の学力が必要です。

②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学修していることが望まれます。

〈臨床心理学科〉

①基本的な生活態度、学習態度。

②人と交流しようとするコミュニケーション態度

③読解力と表現力を含む基礎学力

〈心理学科〉

①科学的態度を習得する上で必要となる国語、英語、数学、理科、社会など学科における学修の基礎となる科目の一定水準以上の基礎学力が必要です。

②その他の教科についても、論理的思考力、豊かな表現力、現実を的確にとらえた実践力などを涵養する観点から、幅広く学習していることが望まれます。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

〈人間科学科〉

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類及び小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入試共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

◇特別入試

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および論述試験、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、大学・社会等での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

〈臨床心理学科〉

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入試共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

◇特別入試

本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、大学・社会等での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

〈心理学科〉

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では大学入試共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに、基礎学力を評価します。

文学部

【求める学生像】

文学部は、その教育目標を達成するために、次のような学生の入学を期待しています。

①本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人

②多様な言語と文化に関心が深く、知的好奇心をそなえた学ぶ意欲あふれる人

③広い視野を持って国際社会で活躍できる人

④人に心を開き、円滑なコミュニケーションを行うことができる人

〈日本語日本文学科〉

①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人

②日本語および日本文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

〈英米語英米文学科〉

①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人

②英語圏の言語と文化に興味があり、将来英語力を生かしたい人

〈中国語中国文学科〉

①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人

②中国語の修得および中国語圏の文化に対する関心が深く、積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢を有する人

〈外国語学科〉

①本学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人

②英語ともう一つの外国語を修得する意欲があり、多文化に対する理解・共感に関心が深く、将来、グローバルな視点で社会に貢献する意欲を持つ人

【学んできてほしい内容】

①多様な言語と文化への深い関心、主体的な知的好奇心、国際社会で活躍できる広い視野、心を開いた円滑なコミュニケーション能力などの、意欲的に学ぼうとする態度

②日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理などの基礎的な知識

③日本語および日本語以外の言語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

〈日本語日本文学科〉

①日本語および日本文化への深い関心、日本語および日本文化を積極的かつ多角的に探求して、広く社会に貢献しようとする姿勢などの、意欲的に学ぼうとする態度

②日本語および日本語以外の他言語の基礎的な知識や技能。また、日本を中心とする国際的な歴史・地理などの基礎的な知識

③日本語の基礎的な応用力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化の産物への関心、および歴史・地理などの知識の基礎的な応用力

〈英米語英米文学科〉

①英語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度

②英語圏の言語と文化に関する基礎的な知識。また、英語で簡単なコミュニケーションができる力

③人間の言語と文化に関する基礎的な知識を生かし、今日の世界の状況を理解して、説明や意見を簡単な英語で述べる力

〈中国語中国文学科〉

①中国語圏の言語と文化への興味・関心。また、広い視野をもって意欲的に学ぼうとする態度ならびにコミュニケーション能力。また、他者との違いを理解・尊重しようとする態度によって他者と協働し、社会に貢献しようとする姿勢

②日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・思想・社会・文化などの基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識

③日本語および中国語を含む日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事象への関心を持ち、今日の社会が抱える課題に対して主体的に考察・判断・表現し、さらに取り組みを進めることができる意欲や技能

〈外国語学科〉

①英語ともう一つの外国語を修得する意欲、多文化に対する理解・共感への深い関心、将来グローバルな視点で社会に貢献する意欲などの、意欲

的に学ぶ態度。ならびに、他者との違いを受容し協働しようとする姿勢

②日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識や技能。また、歴史・地理・環境・社会情勢など、自身を取り巻く社会の諸側面に関する基礎的な知識、およびそれらに対する基礎的な問題意識

③日本語および日本語以外の言語の基礎的な知識に基づいて、具体的な事象や課題について主体的に考え、判断し、自身の考えを表現する基本的な力。また、広く人間の言語と人間が生み出したさまざまな文化・事物への関心に基づき、新たな課題を見出し発想する力

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

〈日本語日本文学科〉

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類および口頭試問、公募では出願書類および小論文によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、日本語ならびに日本文化に関連した領域に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

◇一般選抜

本学の個別学力試験または大学入学共通テスト利用入試で、本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国入試では外国語、国語（近代以降の文章）および選択科目、Ａ日程では国語（近代以降の文章・古典（古文・漢文））および外国語、Ｃ日程では国語（近代以降の文章・古典（古文・漢文））、大学入学共通テスト利用入試では国語および選択科目の学習の到達度を重視します。

◇特別入試

帰国生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生は出願書類、口頭試問および筆記試験（日本語読解・小論文）、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

〈英米語英米文学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、英語圏の言語ならびに文化に関連した領域に対する関心・適性、意欲的な活動、それに伴う成果などを評価します。出願資格として英語の各種検定合格を条件とし、その基礎力を有することを求めます。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類、大学入学希望書および口頭試問、公募では出願書類、小論文および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、英語圏の言語ならびに文化に関連した領域に対する関心、コミュニケーション力などを評価します。

◇一般選抜

本学の個別学力試験または大学入学共通テスト利用入試で、本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国入試・A日程では外国語、国語（近代以降の文章）および選択科目、C日程方式1では外国語の学習の到達度を重視し、C日程方式2では口頭試問によって評価を行います。

◇特別入試

帰国生・留学生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力・英語力を有しているかどうかを評価します。

〈中国語中国文学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。小論文および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、中国語およびその他の言語ならびに多文化理解に対する関心・適性、意欲的な活動、それに伴う成果などを評価します。出願資格として中国語または英語の各種検定合格を条件とし、その基礎力を有することを求めます。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類および口頭試問、公募推薦では出願書類、小論文および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、中国語ならびに中国文化に関連した領域に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

◇一般選抜

全国入試、A日程（方式1）入試および大学入学共通テスト利用入試では、本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。A日程方式2においては、中国語既習者に対しその習熟度を、また国語・漢文に関心を抱きそれを得意とする受験生に対しその習熟度を評価します。C日程においては、国語に関心を抱きそれを得意とする受験生に対し、文章読解力、文章表現力などを評価します。

◇特別入試

帰国生・留学生は出願書類、口頭試問および小論文、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

〈外国語学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに向かって意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。プレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、英語およびその他言語ならびに多文化理解に対する関心・適性、意欲的な活動、それに伴う成果などを評価します。出願資格として英語またはドイツ語・フランス語・中国語・コリア語の各種検定合格を条件とし、その基礎力を有することを求めます。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、本学科が求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。付属校・指定校では出願書類、大学入学希望書およびプレゼンテーション、公募では出願書類、小論文および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心、英語およびその他の言語ならびに多文化理解に関する関心、コミュニケーション力などを評価します。

◇一般選抜

本学の個別学力試験または大学入学共通テスト利用入試で、本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。全国入試およびＡ日程（方式１）では外国語、国語および選択科目、Ｃ日程（方式１）では英語、Ｃ日程（方式２）では口頭での英語運用能力、大学入学共通テスト利用入試では外国語および選択科目の学習の到達度を重視します。

◇特別入試

帰国生は出願書類、小論文および口頭試問、留学生は出願書類、小論文および口頭試問、留学生別科推薦は出願書類および口頭試問により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、本学科での教育を受けるための基礎学力・日本語力・英語力を有しているかどうかを評価します。

情報学部

【求める学生像】

情報学部は、次のような学生の入学を期待しています。

①情報化社会に関心があり、その中で主体的に生きようとする人

〈情報システム学科〉

①コンピュータやインターネット、ソフトウェアに興味があり、創造的で効果のあるシステムの企画や開発過程を理解し、システムの開発に携わる希望を持つ人

②技術の進歩に的確に対応できる知性および技術力を身につけ、システムの開発に活かすことに興味を持つ人

③デジタルコンテンツに興味を持ち、デジタルの良さを活かした情報の表現と、コンテンツ制作のプロセス理解に強い意欲を持った人

④ソフトウェアやデジタルコンテンツの重要性を理解し、利用者にとって使いやすいシステムの構築に興味を持つ人

⑤システマティックな問題解決の技法と、解決過程でのデジタル技術の応用方法に興味を持つ人

⑥教育におけるデジタル技術の活用に興味を持ち、新たな教育方法の提案に興味を持つ人

〈情報社会学科〉

①情報社会に関心を持ち、情報社会に係わる専門知識を修得する意欲を持つ人

②情報社会のなかで新たなビジネスを提案することに強い意欲を持つ人

③情報社会における諸問題に対して、チームを編成して、そのリーダーとして解決する強い意欲を持つ人

〈メディア表現学科〉

①主体的に学び考え判断し、行動することのできる人

②人間社会における文化と創造性に関する教養をもって社会で活躍しようとする人

③社会の出来事や物事に関する情報を収集・分析・考察・編集して、出版や報道などを通じて社会に発信することに関心がある人

④映像に関する理論や表現技法を身に付けて、教養と専門性をもって職能を発揮しようとする人

⑤デザインやグラフィックスに関する理論や表現技法を身に付けて、教養と専門性をもって職能を発揮しようとする人

⑥社会とメディアの双方を理解して、適切なメディアと表現方法を選択して、広報や広告として情報を発信することに関心がある人

⑦各分野で極めて優秀な成果を収め、その専門性を本学科での学修に活かしつつ社会で活躍しようとする人

【学んできてほしい内容】

①基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること

②論理的な思考力に資するような科目を習得していること

③現代の社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

〈情報システム学科〉

①情報システム学科で学ぶにあたり、チームでの活動に必要な基礎的なコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること

②情報学に基づく情報システム学科の科目を学ぶにあたり、必要な論理的思考力に結びつく科目を習得していること

③情報システムやデジタルコンテンツを企画・開発するにあたり、必要な現代社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

〈情報社会学科〉

①情報社会に対する基礎的な理解や関心を持っていること

②社会のなかにある諸問題の発見、分析、解決方法の提案をするための基礎となる思考力・判断力・表現力に直結する学習を十分に行っていること

③協働的な活動を進めるための主体性とコミュニケーション能力に直結する学習を十分に行っていること

〈メディア表現学科〉

①社会やメディアなどの理解に必要となる十分な学力と知的好奇心を有すること

②メディア表現学科で学ぶための基礎知識と言語力、コミュニケーション能力を有すること

③論理的思考・客観的思考に結びつく学習をしていること

【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】

〈情報システム学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、課題遂行などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況、知識・技能などを評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、面接、小論文などにより、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

〈情報社会学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来の目標に沿って主体的かつ意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および、課題の遂行または学科が指定した資格試験の結果の提出などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来の目標、思考力、判断力、表現力、志望動機、学修意欲、主体的に学ぶ態度などを評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、基礎学力を有しかつ意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および口頭試問などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、思考力、コミュニケーション能力、高校での学習・諸活動の状況、志望動機、学修意欲、主体的に学ぶ態度などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、面接、小論文などにより、将来のビジョン、志望動機、学修意欲、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

〈メディア表現学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来の目標に向かって主体的かつ意欲的に学修に取り組むことのできる入学者を選抜することを目的とします。書類審査と、課題の遂行やプレゼンテーション、または学科が指定した資格試験の結果の提出、口頭試問などによって、大学教育を受けるために必要な学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ態度」)を総合的に評価します。具体的には、将来の目標、志望動機、主体性、学修意欲、言語力、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力、入学後の学修に結びつく知識や技能の獲得状況などを評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、十分な学力を有しかつ意欲的に学修に取り組むことのできる入学者を選抜することを目的と

します。書類審査と、口頭試問や小論文などによって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、志望動機、主体性、学修意欲、将来の目標、言語力、論理性、客観性、思考力、判断力、コミュニケーション能力、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、小論文、面接などにより、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

国際学部

【求める学生像】

国際学部は、次のような学生の入学を期待しています。

①国際社会で生じている多様な問題に関心を持ち、国際理解や国際観光の学びを通じて積極的に社会貢献したいと考えている人

②英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人

③旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会への貢献をしたいという意欲を持つ人

④世界のいろいろな現場で求められる多様な「リーダー」の重要性を理解し、「人を育てる私」になる自覚をもって学修する意欲を持つ人

〈国際理解学科〉

①英語を主とする外国語コミュニケーション能力を高めるとともに、社会への理解を深めて国際社会と地域社会の課題解決に貢献したいという意欲を持つ人

②世界の地理、歴史、文化、言語に関する基礎知識を有している人

③高等学校までの学習において、正課外活動を通じて、地域社会の課題解決にかかわった経験がある人

〈国際観光学科〉

①旅行、宿泊、交通などの観光ビジネスや地域づくりに関心を持ち、国際観光を通じて社会に貢献したいという意欲を持つ人

②基礎的なコミュニケーション能力を有している人

③国際観光や地域づくりにかかわった経験がある人

【学んできてほしい内容】

①世界の歴史、文化、言語に関する基礎知識

②国際観光や国際交流の体験や学習経験

③基礎的なコミュニケーションスキル

〈国際理解学科〉

①世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識

②英語を主とした基礎的な外国語コミュニケーションスキル

③国際交流などの体験や学習経験

〈国際観光学科〉

①世界の地理歴史、政治経済、文化、言語に関する基礎知識

②自分の考えをまとめ相手に伝えるための思考力や表現力

③観光や地域にかかわる体験や学習経験

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

〈国際理解学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類とプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。課題遂行型においては、特に自ら国際社会や地域社会に関わる問題を設定し、その解決策を考えることができる力、自分の考えを相手に伝える力を評価します。資格優先型においては、特に外国語コミュニケーション能力を評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、国際社会や地域社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

〈国際観光学科〉

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類とプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、将来のビジョン、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。課題遂行型においては、特に自ら観光ビジネスや地域づくりに関わる問題を設定し、その解決策を考えることができる力、自分の考えを相手に伝える力を評価します。資格優先型においては、特に外国語コミュニケーション能力を評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、高校での学習・諸活動の状況、観光ビジネスや地域づくりの諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

健康栄養学部

【求める学生像】

健康栄養学部では、次のような学生の入学を期待しています。

①本学の健康栄養学部の特色である「予防医学を重視した管理栄養士養成」と「ココロの面からも対応できる管理栄養士の養成」を理解し、将来、食と健康のプロフェッショナルとなることを希望する人

②探究心旺盛で、食と健康に関する問題に興味を持っている人

③強い責任感と使命感を持っている人、学問に対しつねに真摯な態度で取り組む人、協調性に富み、周囲からの信望が厚い人

【学んできてほしい内容】

①理科（化学と生物）と家庭科を十分に習得していることを望みます。特に化学（有機化学）に関する基礎学力が十分に習得できていることが大切

です。（入学後、化学（有機化学）に関する基礎学力を能力別に補う初年次教育を実施しています。）

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、管理栄養士免許取得を目指して意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。課題についてのプレゼンテーションによって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、管理栄養士の業務についての理解、学修意欲、表現力、コミュニケーション力、判断力、などを評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とします。求める学生像を理解し、管理栄養士免許取得を目指して意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類および口頭試問によって、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、管理栄養士免許取得への意欲、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試（社会人一般）

出願書類、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。

◇特別入試（社会人キャリア優先）

社会人としてスポーツの分野で活躍した経歴をもつ事を前提とします。管理栄養士免許を取得し、卒業後は資格を活かして再びスポーツの分野に貢献する事を目標にする学生の入学を期待します。管理栄養士免許取得を目指し、熱意と協調性、リーダーシップを持って学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。

経営学部

【求める学生像】

経営学部では、次のような学生の入学を期待しています。

①文教大学の「人間愛」の理念のもとで、社会のより良き一員として生きていくための基盤的な能力や人格を着実に修養し、そのうえで経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を多面的に効果的に活用できる人

②経営活動において人を核心とする思想と手法を統合し、「人間尊重の経営」を具現化できる人

③基礎学力と学修意欲を有していることはもとより、大学の理念や学部の目標について理解し共鳴できる人

【学んできてほしい内容】

①基礎学力と学びへの姿勢

高等学校における教科を着実に学び、基礎学力を修得しており、学ぶことの面白さや学ぶ習慣を身につけている。

②求められる能力にかかる基礎の修得

コミュニケーション能力、論理的思考力、総合的判断力、そして的確な表現力は、経営学部での専門的な学修を深めるために不可欠となる。高等学校での各教科の学習を通じて、こうした能力の基礎が修得できている。

③主体的な思考と他者との協働

経営学部の教育では、学生と教員、あるいは学生同士の対話と協働によって、高度な思考力や卓越した創造性を錬磨させていく。主体的に思考し行動しながらも、他者を尊重し多様な人々と協力していこうとする態度が身についている。

④社会の一員としての意識

自分の人生や進路について真剣に考えるとともに、社会のさまざまな出来事に対して問題意識を有している。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

◇総合型選抜

本学科が求める学生像を理解し、将来のビジョンに沿って意欲的に学修に取り組める入学者を選抜することを目的とします。出願書類と課題、面接等により、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）や学びへの姿勢、学修意欲等を総合的に評価します。具体的には、課題に対する理解度と達成度および報告の的確さ、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、コミュニケーション力、高校での学習・諸活動の状況などを評価します。

◇学校推薦型選抜

高等学校長の推薦を前提とし、求める学生像を理解し、学びへの志向と熱意を持つ入学者を選抜することを目的とします。出願書類および小論文、面接により、大学教育を受けるために必要な学力の３要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」）や学びへの姿勢、学修意欲等を総合的に評価します。具体的には、基礎的な学力、論理的思考力、主体的に学ぶ態度、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、コミュニケーション力、高校での学習・諸活動の状況、社会の諸問題に対する関心などを評価します。

◇一般選抜

本学科での教育を受けるための基礎学力を有しているかどうかを評価します。一般選抜では、本学の個別学力試験によって、大学入学共通テスト利用入試では、大学入学共通テストで実施している教科・科目の試験の得点をもとに基礎学力を評価します。

◇特別入試

出願書類、面接、小論文により、志望動機、学修意欲、将来のビジョン、本学での教育を受けるための基礎学力・日本語力を有しているかどうかを評価します。

文教大学大学院

教育学研究科

【求める学生像】

教育学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

①教員免許を取得しているが、教職に関してより深く学び、または、免許をさらに高いものへ上進しようとする人

②学部の４年間で培った知見を土台にしながら、研究科へ進んで、それをさらに発展させようとする人

③大学院修学休業制度等を利用し１年間ないし２年間休職し、本研究科での研修を希望する人

④生涯学習の一環として教育に関する学問を深めようとする人

⑤教職の専門性を高めるために本研究科を志望する社会人、科目等履修生として大学院で研修を希望する人、大学院を修了後に研究生として学ぼうとする人

人間科学研究科

【求める学生像】

人間科学研究科では、次のような学生を求めています。

〈臨床心理学専攻修士課程〉

①心理学及び臨床心理学の高度な知識や技法を学び、公認心理師または臨床心理士、あるいはその両方の資格を取得し、心理臨床家として社会に貢献したい意欲を持つ人。

②臨床心理学領域の研究を積極的に行う意欲のある人。

③心理臨床家として自立するに相応しい誠実さや真摯な態度を有しているか、その実現の可能性を有している人。

〈人間科学専攻修士課程〉

①心理学、社会学、教育学または社会福祉学などを専門としながらも、人間科学の視点である学際性・総合性を踏まえた学修、実践及び研究を主体的に行う意欲のある人。

②高い課題解決能力を身につけ、将来、それを社会に役立てたいという意欲のある人。

〈臨床心理学専攻博士後期課程〉

①当該専門領域の修士に相応しい知識・技能及び研究成果を有している人。

②博士の学位取得に向け研鑽を重ねるとともに、これにあたり人間科学の学際性・総合性を踏まえることのできる人。

言語文化研究科

【求める学生像】
言語文化研究科は、次のような学生の入学を期待しています。

①本研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に対する理解と共感を有する人
②本学の建学の理念としての「人間愛」の精神を持つ人
③国際社会における異文化間に架橋できるような広い視野を持つ人
④修士課程においては、言語と文化に対する高度な専門的職業人となる意欲を持つ人
⑤博士後期課程においては、言語と文化に対する高度で専門的な研究を行う意欲を持つ人
⑥日本と異なる大学制度下で教育を受けた外国人の中で、特に本研究科の教育目標に沿った研究を志望する人
⑦社会人の中で、特に本研究科の教育目標に沿った研究を志望する人

情報学研究科

【求める学生像】
情報学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

①一定の基礎学力、科学技術の根幹を担う情報科学などの基本的な知識・技能を持ち、自ら学ぶ意欲も高く、論理的で柔軟な思考能力を持つ人
②知的好奇心が旺盛で主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度と新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた資質・素養を持つ人
③わが国はもとより世界からも学生を迎え入れる

国際学研究科

【求める学生像】
国際学研究科では、次のような学生の入学を期待しています。

①人類、世界、地域社会が直面する問題に関心を抱き、グローバルな視点から考え、ローカルな場で問題解決にむけて役割を果たしたいという志を持つ人
②問題解決のための、より専門的な思考力、判断力、方法・スキルを身につけたいという志を持つ人
③国際あるいは地域の発展のありかたやそのデザイン、市民の自発的な活動がより大きな役割を果たす社会、ツーリズムやその将来像、さらに日本と特定の国の制度や文化の比較、などの領域に関心を抱く人
④一定の語学能力・日本語文章力を有し、人文・社会科学領域の基礎力あるいは上記領域での経験を有する人
⑤国際交流、国際観光、ボランティア活動などへの関心や体験を有する人

文教大学付属中学校・高等学校

【求める生徒像】
①学園の建学の精神である「人間愛」の意味を理解し、自分と同様に人を大切に思いやり、その思いを社会奉仕などに具現化できる生徒。
②将来自分の進む進路の実現に向けて、日々の勉学に取り組む強い意志と向上心を持つ生徒。
③学校行事・部活動等に積極的に参加し、人との交わりの中で協調性・社会性を養うことができる生徒。

文教大学付属小学校

【求める児童像】
①「慈愛の心をもった子ども　自ら学ぶ子ども　情操豊かな子ども　頑張る子ども　明朗な子ども」
②「人間愛」あふれる文教っ子八ヶ条から、
◎大きな声であいさつ・返事ができること
◎素直な気持ち、謙虚さをもって人に接すること
◎人のせいではなく、自分で責任がもてること

文教大学付属幼稚園

【求める園児像】
満3歳に達し、心身共に健康な子で、学園の建学の精神である「人間愛」の教育方針並びに幼稚園の教育目標「素直で明るい元気な子ども」に、御理解・御賛同いただける御家庭のお子さんをお待ちしています。

就職者数及び卒業後の進路

文教大学

学部・学科 ＼ 状況別卒業者数（2020年度卒業者数）		大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校外国の学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
教育学部	学校教育課程	8	0	0	0	0	277	1	0	2	0	0	288
	心理教育課程	0	1	0	1	0	117	0	0	0	1	0	120
	計	8	1	0	1	0	394	1	0	2	1	0	408
人間科学部	人間科学科	3	0	0	0	0	130	1	0	0	1	0	135
	臨床心理学科	11	0	0	0	0	85	4	2	4	8	0	114
	心理学科	2	0	0	0	0	130	2	0	1	6	0	141
	計	16	0	0	0	0	345	7	2	5	15	0	390
文学部	日本語日本文学科	1	0	0	1	0	109	1	0	6	3	0	121
	英米語英米文学科	0	0	0	0	0	94	1	0	1	2	0	98
	中国語中国文学科	2	0	0	0	0	65	1	1	3	2	0	74
	外国語学科	0	0	0	0	0	68	1	0	0	1	0	70
	計	3	0	0	1	0	336	4	1	10	8	0	363
情報学部	情報システム学科	2	0	0	0	0	66	1	0	5	0	3	77
	情報社会学科	3	0	0	0	0	78	0	0	6	1	3	91
	メディア表現学科	1	0	0	0	0	89	2	0	9	1	1	103
	計	6	0	0	0	0	233	3	0	20	2	7	271
国際学部	国際理解学科	4	0	0	1	0	127	3	1	9	0	2	147
	国際観光学科	0	0	0	0	0	119	1	0	14	1	0	135
	計	4	0	0	1	0	246	4	1	23	1	2	282
健康栄養学部	管理栄養学科	0	0	0	0	0	88	0	0	4	2	1	95
	計	0	0	0	0	0	88	0	0	4	2	1	95
経営学部	経営学科	0	0	0	0	0	145	2	1	13	2	4	167
	計	0	0	0	0	0	145	2	1	13	2	4	167
大学合計		37	1	0	3	0	1,786	21	5	77	31	14	1,976

主な就職先

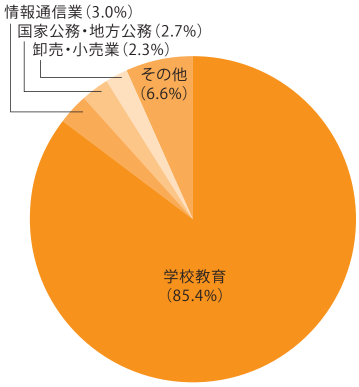
教育学部

公立小学校教員／公立中学校教員／公立高等学校教員／公立特別支援学校教員／公立幼稚園教員／公務員保育士（埼玉県さいたま市、千葉県松戸市、東京都北区、文京区、足立区）／（株）ジャステック／（株）アイ・エス・ビー／GRASグループ（株）／（株）Cygames／ディー・エイチ・エル・ジャパン（株）／（株）IDOM／（株）ベルパーク／（株）エジュテックジャパン／（株）LITALICO／（株）東急キッズベースキャンプ／（社福）佑啓会／東京都庁／千葉県庁／三郷市役所

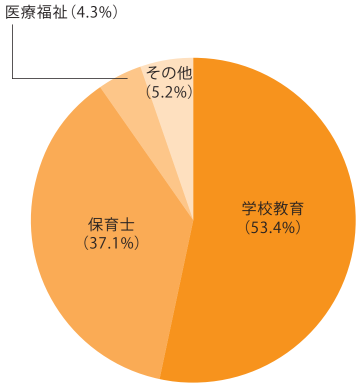
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【学校教育課程】



【心理教育課程】



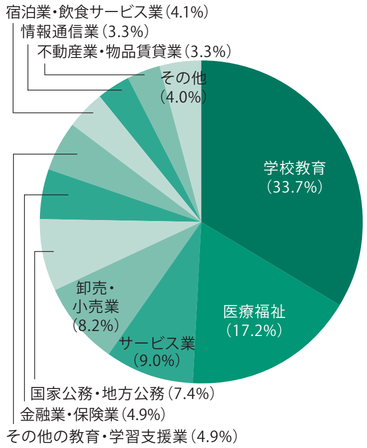
人間科学部

スガツネ工業（株）／山洋電気（株）／パナソニックスイッチングテクノロジーズ（株）／堀川産業（株）／ヤマトシステム開発（株）／（株）ソフトウェア・サービス／埼玉新都市交通（株）／（株）高速／（株）栃木屋／（株）ヨークベニマル／（株）カインズ／（株）ローソン／埼玉県信用農業（協組連）／（株）群馬銀行／アクサ生命保険（株）／明治安田生命保険（相）／（株）アインホールディングス／ルートインジャパン（株）／（株）ナガセ／日本赤十字社 栃木県支部／（医）IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）／（社福）三篠会／（株）LITALICO／ライクスタッフィング（株）／独立行政法人国立青少年教育振興機構／裁判所／埼玉県庁／横浜市役所／上田市役所／公立学校教員

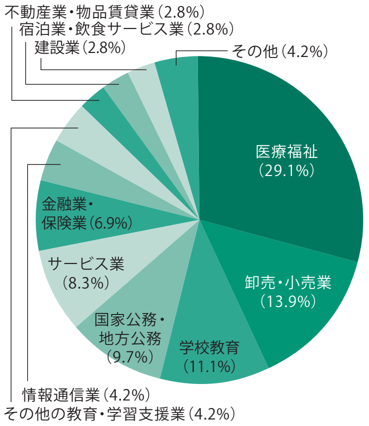
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

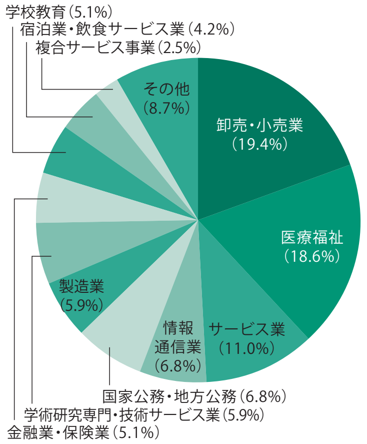
【人間科学科】



【臨床心理学科】



【心理学科】



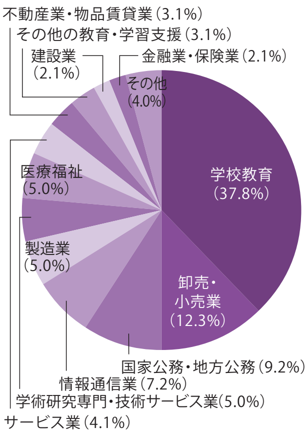
文学部

（株）第一テクノ／（株）ロック・フィールド／日本ピストンリング（株）／AGS（株）／（株）KDDIエボルバ／三菱電機インフォメーションネットワーク（株）／東日本旅客鉄道（株）／渡辺パイプ（株）／アイリスオーヤマ（株）／（株）エトワール海渡／（株）しまむら／（株）ベルク／（株）島忠／（株）東和銀行／第一勧業信用組合／日本生命保険（相）／アクサ生命保険（株）／NOVAホールディングス（株）／（株）星野リゾート・マネジメント／（学）三幸学園／（株）河合塾進学研究社／（医）IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）／日本年金機構／綜合警備保障（株）／ポラス（株）／厚生労働省／国税専門官／東京特別区／越谷市役所／公立学校教員

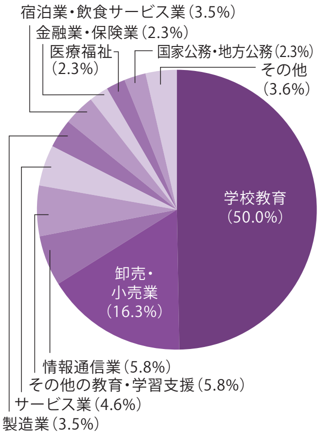
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

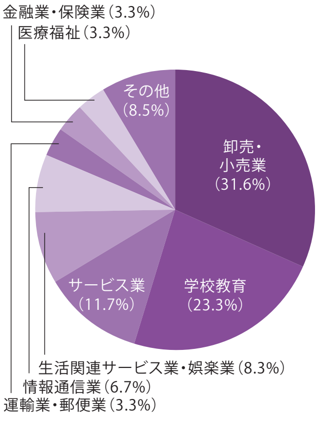
【日本語日本文学科】



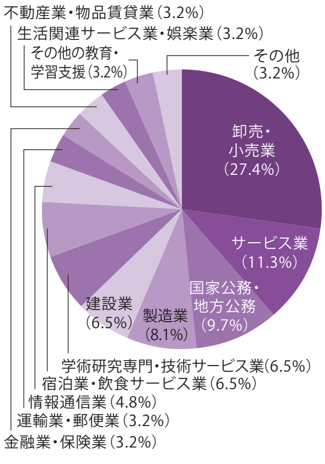
【英米語英米文学科】



【中国語中国文学科】



【外国語学科】



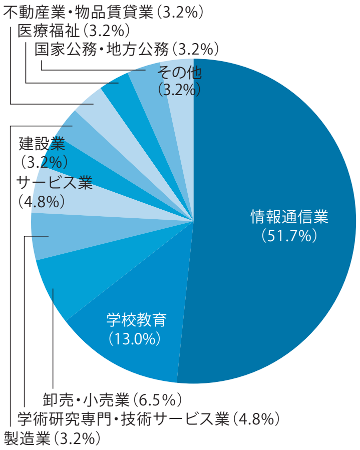
情報学部

Sky(株)／アネスト岩田(株)／旭情報サービス(株)／(株)マイナビ／(株)AOKIホールディングス／(株)アルファシステムズ／
日本システムウエア(株)／(株)和光ケミカル／(株)ステップ／ドコモ・システムズ(株)／(株)シジシージャパン／日本電設工業(株)／
日本アイ・ビー・エム(株)／(株)NTTデータ・ビジネス・システムズ／(株)日立ハイシステム21／ソリマチ(株)／(株)システナ／(株)スリーボンド／
丸紅情報システムズ(株)／NTTテクノクロス(株)／ハウスコム(株)／日本企画(株)／(株)情報システム工学／(株)日本オープンシステムズ／
ソフトブレーン(株)／パイプドHD(株)／アビームコンサルティング(株)／(株)インテック／(株)インターネットイニシアティブ／横浜市役所

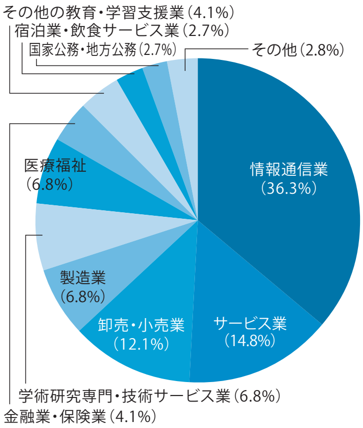
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

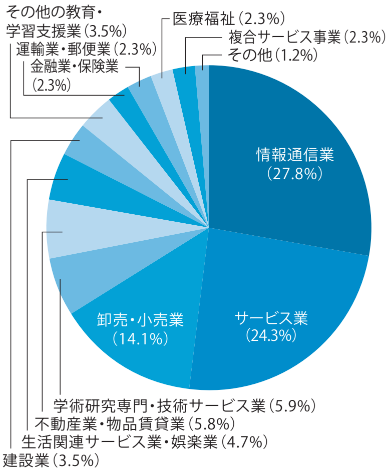
【情報システム学科】



【情報社会学科】



【メディア表現学科】※広報学科卒業者を含む。



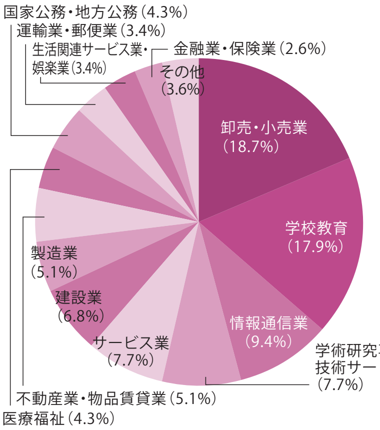
国際学部

日本赤十字社／(株)ポーラ／藤田エンジニアリング(株)／東日本旅客鉄道(株)／大和冷機工業(株)／渡辺パイプ(株)／
(株)クリエイトエス・ディー／(株)ユニクロ／(株)クスリのアオキ／積水ハウス(株)／日東工器(株)／(株)パルグループホールディングス／
(株)アダストリア／(株)東計電算／(株)スギ薬局／ダイトロン(株)／松田産業(株)／(株)エフ・ディ・シィ・プロダクツ／平安レイサービス(株)／
(株)ノバレーゼ／(株)スリーボンド／(株)共立メンテナンス／古河電気工業(株)／ウスイホーム(株)／クラブツーリズム(株)／
(株)ホテイフーズコーポレーション／(株)星野リゾート・マネジメント／AIG損害保険(株)／小田原箱根観光(株)／館林市役所

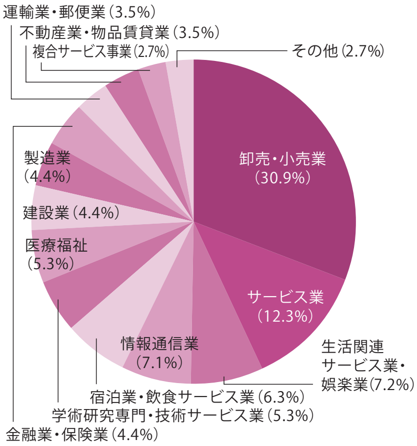
【産業別就業者の割合】

※一時的な仕事に就いた者を除く。

【国際理解学科】



【国際観光学科】

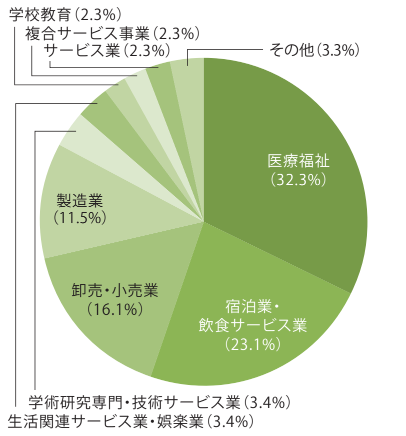


健康栄養学部

（株）クリエイトエス・ディー／（株）ロック・フィールド／日清医療食品（株）／（株）グリーンハウス／（株）ココカラファインヘルスケア／（株）TTC／（株）メフォス／（医）社団美心会／（株）ベネッセスタイルケア／横浜農業（協）／（株）サンデリカ／フジ産業（株）／三菱電機クレジット（株）／ライクアカデミー（株）／相鉄ローゼン（株）／シダックス（株）／国際医療福祉大学成田病院／デリカエース（株）／（医）IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）／株式会社 明治／三協食品工業（株）／SOMPOケアフーズ（株）／富士市農業（協）／湘南長寿園病院／（株）メフォス／（株）むらせ／（医）社団北水会／（株）美高商事／デリア食品（株）／（医）吉栄会 下総病院

【産業別就業者の割合】 ※一時的な仕事に就いた者を除く。

【管理栄養学科】

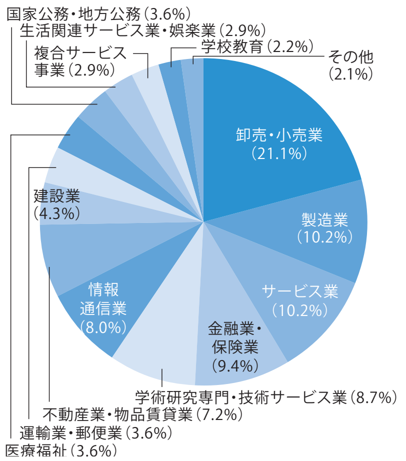


経営学部

（株）キーエンス／東京地下鉄（株）／大和冷機工業（株）／岩瀬産業（株）／セントラル警備保障（株）／日産車体（株）／（株）伊藤園／オーケー（株）／ウエルシア薬局（株）／（株）システナ／キーコーヒー（株）／（株）協和日成／（株）プレステージ・インターナショナル／（株）ニチボウ／（株）カクヤス／ハウスコム（株）／芝本産業（株）／（株）タカミヤ／（株）パルテック／（株）エディオン／（株）日本システムテクノロジー／横浜農業（協）／（株）マルエツ／長野ダイハツ販売（株）／いちよし証券（株）／（株）サンリツ／税理士法人千葉中央会計事務所／（株）ダイワコーポレーション／（株）常陽銀行／神奈川県警察本部

【産業別就業者の割合】 ※一時的な仕事に就いた者を除く。

【経営学科】



就職者数及び卒業後の進路

文教大学大学院・専攻科

大学院・専攻科	状況別卒業者数（2020年度修了者数）	大学院研究科	大学学部	短期大学本科	専攻科	別科	就職者	専修学校外国の学校	進学準備中	就職準備中	その他	不詳	計
教育学研究科	学校教育専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
人間科学研究科	臨床心理学専攻（博士課程）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床心理学専攻（修士課程）	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	11
	人間科学専攻（修士課程）	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
言語文化研究科	言語文化専攻（博士課程）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	言語文化専攻（修士課程）	1	0	0	0	0	2	0	0	6	0	0	9
情報学研究科	情報学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
国際学研究科	国際学専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	5
教育専攻科	教育学専攻	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

主な就職先

（医）IMSグループ（板橋中央総合病院グループ）／（社福）彩の国ふかや福祉会／ハレのこどもクリニック／HKU SPACE(香港大学専業進修学院)／東京特別区職員／埼玉県教育局／（株）成美学園／（株）三越伊勢丹ニッコウトラベル／（医）社団徳耀会／越谷市役所／葛飾区役所／三郷市役所／川口市役所

就職者数及び卒業後の進路

外国人留学生別科

状況別修了者数（2020年度修了者数）	就職者	進学者	その他	不詳	計
外国人留学生別科	0	10	1	0	11

［4］教育課程に関する情報

教育学部　学校教育課程　（2020年度入学生履修科目）

教養科目	共通教養科目	日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学	音楽 美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
教養科目	外国語・体育科目	英語Ⅰ～Ⅳ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ	中国語Ⅰ～Ⅳ コリア語Ⅰ～Ⅳ	トピックで学ぶ英語A～D 運動と健康Ⅰ・Ⅱ	スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	
学部基幹科目	必修	基礎演習	専門演習A～F	卒業研究		
学部基幹科目	選択必修	国際理解教育 生涯学習論（ボランティア論を含む）	人権教育 教育課題演習	海外教育実地研究 海外教育研修	鑑賞教育 語りの技法	ピアノ基礎技能演習
課程科目	基幹科目	教育原理	教職概論	教育課程論	教育方法論	
課程科目	教育学関連科目　初等教育	各教科の概説（国語・社会・算数・理科・音楽・図工・体育・家庭・生活・英語）		各教科の指導法Ⅰ・Ⅱ（国語・社会・算数・理科・音楽・図工・体育・家庭・生活・英語）		
課程科目	教育学関連科目　教職必修	教育心理学 道徳教育の理論と方法	生徒指導・進路指導 教育行財政（教育法規を含む）	特別支援教育入門 総合的な学習の時間の指導法	特別活動 教育相談の理論と方法	
課程科目	教育学関連科目　教職選択	教育の歴史 教育哲学 教育社会学 子どもの心理と教育	教育学特講 教育社会学特講 教育心理学特講 学校教育と家庭・地域社会	教育制度（比較教育を含む） 学級経営 教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ 生徒指導の研究（進路指導教育を含む）	特別支援教育の研究 国際理解教育の研究 特別活動実践論 教育工学	教授・学習過程論 教育メディア論 道徳教育実践論 教育評価
課程科目	教育学関連科目　実習科目	初等教育実地研究	中等教育実地研究	初等教育実習	中等教育実習Ⅰ・Ⅱ	教職実践演習（小・中・高）
課程科目	自由科目	中等教育実習Ⅱ 学級経営と学校図書館	学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館	読書と豊かな人間性 情報メディアの活用		

専修科目

国語専修	日本語学概論 日本文学概論 漢文学概論	書写Ⅰ・Ⅱ 日本語学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文学演習Ⅰ～Ⅳ	日本文学史Ⅰ・Ⅱ 日本語学講義Ⅰ・Ⅱ 日本文学講読Ⅰ・Ⅱ	漢文学講読 漢文学演習Ⅰ・Ⅱ 書写・書道研究	教科教育法「国語」Ⅰ～Ⅳ
社会専修	日本史概説 日本史演習 世界史概説 外国史演習 地理学概説 地理学演習	政治学概説 経済学概説 倫理学概説 法律学概説 社会学概説 哲学概説	日本経済史 日本文化史 ヨーロッパ社会史 国際関係史 地誌学 人文地理学	教科教育法「社会・地歴」Ⅰ～Ⅳ 日本政治史 日本史特別演習 東アジア史 外国史特別演習 自然地理学	地理学演習 地理学特別演習 宗教学概説
数学専修	線形代数学Ⅰ・Ⅱ 幾何学概論 初等幾何 変換幾何	幾何学演習 代数学概論 代数学演習 解析学概論	解析学演習 確率・統計 確率統計特論 微分積分学Ⅰ・Ⅱ	群論 ガロア理論 計算科学 複素解析	微分方程式 コンピュータ 教科教育法「数学」Ⅰ～Ⅳ
理科専修	物理学概論 物理学実験基礎 物理学実験A・B 物理学Ⅰ・Ⅱ	化学概論 化学実験基礎 化学実験A・B 化学Ⅰ～Ⅲ	生物学概論 生物学実験基礎 生物学実験A・B 生物学Ⅰ	地学概論 地学実験基礎 地学実験A・B 地学Ⅰ～Ⅲ	教科教育法「理科」Ⅰ～Ⅳ
音楽専修	ピアノⅠ～Ⅲ ピアノⅣ（伴奏法を含む） ピアノⅤ～Ⅵ ソルフェージュⅠ・Ⅱ	アンサンブルスタディⅠ～Ⅳ 合唱Ⅰ・Ⅱ 声楽Ⅰ（日本の伝統的な歌唱を含む） 声楽Ⅱ～Ⅵ	作曲Ⅰ（編曲法を含む） 作曲Ⅱ 指揮法 和楽器演習（箏曲）	和楽器演習（三味線） 音楽理論 音楽史総合 （日本の伝統・諸民族の音楽を含む）	西洋音楽史 教科教育法「音楽」Ⅰ～Ⅳ
美術専修	絵画Ⅰ・Ⅱ 絵画表現 彫刻Ⅰ・Ⅱ デザインⅠ・Ⅱ 工芸Ⅰ・Ⅱ 工芸表現	油彩画 版画 日本画 素描 塑造 彫造	陶芸 鋳造 環境造形 総合造形 造形材料と加工 デジタル表現	イラストレーション ペーパーエンジニアリング メディアデザイン クラフトデザイン 美術理論 色彩学	美術史 美術文化論 美術史演習 美術文化特別演習 教科教育法「美術」Ⅰ～Ⅳ
体育専修	体育運動学 体育原理 体育心理学 体育社会学 体育経営管理学	体育史 体育学研究法 運動生理学 運動生理学演習 衛生学・公衆衛生学	学校保健 ヘルスプロモーション 体つくり運動 器械運動 陸上競技	水泳 球技 球技A～D 武道 表現運動・ダンスA・B	冬季スポーツ 野外活動 教科教育法「保健体育」Ⅰ～Ⅳ
家庭専修	家庭経営学 家庭経済学 食物学 食物学実験 食品学	基礎調理実習 応用調理実習 栄養学 食生活論 被服学	被服学実験 基礎被服学実習 衣生活論 応用被服学実習 住居学（住居設計・製図を含む）	生活環境論 生活福祉論 家族関係学 保育学 家庭看護学	家庭電気・機械（情報処理を含む） 教科教育法「家庭」Ⅰ～Ⅳ
英語専修	Academic EnglishⅠ～Ⅳ Academic Reading A・B Acedemic Writing	English for Specific Purposes A・B Grammar and Vocabulary 英語学概論	英語学演習Ⅰ・Ⅱ 英語文学概論 英語文学演習Ⅰ・Ⅱ	異文化理解概論 英語文化演習A・B 英語発音演習	教科教育法「英語」Ⅰ～Ⅳ

教育学部　発達教育課程　(2020年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目		日本国憲法 宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学	音楽 美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
教養科目	外国語・体育科目		英語Ⅰ～Ⅳ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ	中国語Ⅰ～Ⅳ コリア語Ⅰ～Ⅳ	トピックで学ぶ英語A～D 運動と健康Ⅰ・Ⅱ	スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	
学部基幹科目	必修		基礎演習	専門演習A～F	卒業研究		
学部基幹科目	選択必修		国際理解教育 生涯学習論(ボランティア論を含む)	人権教育 教育課題演習	海外教育実地研究 海外教育研修	鑑賞教育 語りの技法	ピアノ基礎技能演習
課程科目	基幹科目		教育原理	社会福祉概論	教育心理学概論	特別支援教育概論	
課程科目	教育学関連科目	教職科目	□◇教育心理学概論 □◇特別支援教育概論 □◇教職概論	□◇教育方法の理論と実践 □◇教育課程概論 □道徳教育の理論と方法	□生徒指導・進路指導 □◇教育行財政(教育法規を含む) ◇障害児保育	□特別活動 (総合的な学習の時間の指導法を含む) □教育相談の理論と方法(幼児理解を含む)	
課程科目	教育学関連科目	教科・領域科目	□各教科の概説 (国語・社会・算数・理科・音楽・図工・体育・家庭・生活・英語) □各教科の指導法 (国語・社会・算数・理科・音楽・図工・体育・家庭・生活・英語)		◇幼児と健康 ◇幼児と人間関係 ◇幼児と環境 ◇幼児と言葉	◇幼児と表現A(音楽) ◇幼児と表現B(図画工作) ◇保育内容「健康」の指導法 ◇保育内容「人間関係」の指導法	◇保育内容「環境」の指導法 ◇保育内容「言葉」の指導法 ◇保育内容「表現」の指導法
課程科目	教育学関連科目	実習科目	□小学校教育実地研究 ○障害児教育実地研究	◇幼稚園教育実地研究 △保育実地研究Ⅰ・Ⅱ	◇幼小教育実習Ⅰ・Ⅱ □幼小教育実習Ⅲ	○障害児教育実習 △保育実習Ⅰ・Ⅱ 保育所実習	△保育実習Ⅲ施設実習 □◇保育・教職実践演習(幼・小)
課程科目	自由科目		学級経営と学校図書館	学校図書館メディアの構成	学習指導と学校図書館	読書と豊かな人間性	情報メディアの活用
専修科目	特別支援教育専修		障害児教育総論 知的障害児の発達と心理 知的障害児の生理・病理	病弱児の心理・生理・病理 知的障害児の行動理解 肢体不自由児の心理・生理・病理	発達障害・重複障害児教育総論 視覚障害児教育総論 知的障害児の指導	病弱児の指導 肢体不自由児の指導 聴覚障害児教育総論	障害児教育実地研究
専修科目	初等連携教育専修		乳幼児心理学	初等連携カリキュラム論	生活科・総合的学習教育論	幼小接続教育内容論A・B	
専修科目	児童心理教育専修		心理学概論 心理統計学 カウンセリング 乳幼児心理学	教育心理学基礎実験 学校心理学 社会心理学 家族心理学	カウンセリング演習 教育心理学研究法 子どもの理解と援助 心理療法	心理アセスメント実習Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学 発達と学習の心理学Ⅰ (パーソナリティと社会性)	発達と学習の心理学Ⅱ(認知発達) 対人関係論
専修科目	幼児心理教育専修		乳幼児心理学 カウンセリング カウンセリング演習 子どもの理解と援助 発達援助論 子どもの保健	保育原理 子ども家庭福祉 保育者論 社会的養護Ⅰ・Ⅱ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ 子どもの健康と安全	子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 保育の計画と評価 子どもの食と栄養 子育て支援 保育内容総論	保育内容各領域の概説 (健康、人間関係、環境、言葉、表現A(音楽)、表現B(図画工作)) 保育内容各領域の指導法 (健康、人間関係、環境、言葉、表現)	
共通開講科目	特別支援教育関連科目		精神医学Ⅰ・Ⅱ	障害児教育の歴史	障害児教育思想史	障害児福祉学	障害児教育社会学
共通開講科目	教育学関連科目		カウンセリング 学校教育論 教育社会学 教育思想史	教育と情報 発達と学習の心理学Ⅰ (パーソナリティと社会性) 発達と学習の心理学Ⅱ(認知発達)	教育フィールド研究Ⅰ・Ⅱ 初等連携カリキュラム論 子ども集団心理学 児童文化論	教育実践研究 学習指導論 教育メディア論 教科・教材論	チーム援助論 学級づくり論
共通開講科目	指導法関連法科目		器楽表現基礎Ⅰ・Ⅱ	器楽伴奏法Ⅰ・Ⅱ	歌唱表現基礎	造形表現演習	身体表現演習
共通開講科目	心理学関連科目		臨床心理学 社会心理学	家族心理学 学校心理学	カウンセリング演習 子どもの理解と援助	心理療法	

□:小学校教諭免許取得希望者が対象、◇:幼稚園教諭免許取得希望者が対象、△:保育士資格取得希望者が対象、○:特別支援学校教諭免許取得希望者が対象

人間科学部　（2020年度入学生履修科目）

教養科目	共通教養科目	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽	美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学 日本国憲法	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
	外国語・体育科目	英語Ⅰ～Ⅳ フランス語Ⅰ～Ⅳ トピックで学ぶ英語A～D	ドイツ語Ⅰ～Ⅳ 中国語Ⅰ～Ⅳ	コリア語Ⅰ～Ⅳ 運動と健康Ⅰ・Ⅱ	スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	
学部教養科目		人間科学の基礎 キャリアライフ論	生命科学 基礎統計学	死生学 国際社会論		
学部共通専門科目		心理学概論 社会学概論	社会福祉学概論 教育学概論	臨床心理学概論 人間科学演習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究	

人間科学科

専門教育科目	学科共通	人間科学概説 人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ 人間発達論 生涯学習学概論 現代文化論 ジェンダー論 地域とグローバルコミュニティN 人間生活の歴史と福祉 児童家庭福祉論 ウェルネスライフ論 スポーツ文化論 遊びと人間 手話コミュニケーション コミュニケーションスポーツ 情報社会論 臨床社会学 現代環境論	教育社会学N 現代社会と社会教育 国際教育論 児童家庭福祉実践論 ケアマネジメント論 障害者福祉実践論 国際ソーシャルワーク論 医学知識 精神医学Ⅰ・Ⅱ 精神保健学Ⅱ 精神科リハビリテーション学 相談援助実習指導Ⅰ～Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ～Ⅲ 社会心理学N 青年心理学N 教育心理学N 発達臨床心理学N	学校臨床心理学N 教育評価N 実存的人間論N 人間科学特講 海外人間科学研修N 経済学Ⅰ・Ⅱ（国際経済学を含む）N 法律学Ⅰ・Ⅱ（国際法を含む）N ソーシャルワーク実践理論 コミュニケーション演習 就労支援サービス 更生保護制度 精神保健福祉援助技術総論 精神障害者の生活支援システム 多変量解析入門 教育環境学 社会教育実習 社会教育課題研究	社会保障論Ⅱ ケースワーク演習 ケーススタディ演習 精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助技術各論 精神保健福祉制度論 相談援助実習Ⅰ・Ⅱ 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ 行政学N 行政法N 政治学Ⅰ・Ⅱ（国際政治学を含む）N 教育行政学N 教育相談の理論と方法N 哲学N	倫理学N 社会福祉行財政論 社会福祉運営管理論 権利擁護と成年後見制度 グループワーク演習 コミュニティワーク演習 西洋史N 地理学N 東洋史N 日本史N 地誌学N 生涯学習支援論Ⅰ・Ⅱ 社会教育経営論Ⅰ・Ⅱ
	社会文化コース	現代社会論N 社会調査法Ⅰ・Ⅱ 現代家族論N	サブカルチャー論 映像文化論N 逸脱行動論N	文化人類学 現代マスコミ論 現代社会と階層N	グローバル文化論 労働と人間N 社会調査実習Ⅰ・Ⅱ	メディア文化論 市民社会論 日本文化論N
	人間教育コース	子ども・若者活動支援論 人間教育実践論 家庭教育論 現代学校教育論N	生徒指導・進路指導N 社会教育の基礎 ボランティア論N コミュニティイベント論	子ども・遊び・自然 社会調査法Ⅰ スクール・ソーシャルワーク論 身体運動の理論と実際	子ども文化論 生きがい論 レクリエーション指導 スポーツライフの理論と実践	教育・スポーツ調査法 地方行政の運営と方法
	社会福祉コース	社会福祉学原論 ソーシャルワーク論 老人福祉論 障害者福祉論	貧困と公的扶助 介護概論 精神保健学Ⅰ 社会福祉援助技術総論	医療福祉論 スクール・ソーシャルワーク論 地域福祉論 精神保健福祉論	福祉カウンセリング ケースワーク・グループワーク論 コミュニティワーク論 社会保障論Ⅰ	
	スポーツ・コミュニティコース	コミュニティスポーツ論 地方行政の運営と方法 スポーツ心理学N スポーツカウンセリングN	現代社会と健康問題 子ども・遊び・自然 コミュニティと社会教育 コミュニティイベント論	社会教育の基礎 ボランティア論N 障害者スポーツ論 身体運動の理論と実際	社会調査法Ⅰ レクリエーション指導 スポーツライフの理論と実践 教育・スポーツ調査法	スポーツ観戦論 介護予防の理論と実践

臨床心理学科

専門教育科目	臨床心理学文献購読Ⅰ～Ⅲ 心理学実験 臨床心理面接・検査演習 心理学研究法 感情・人格心理学 知覚・認知心理学 発達心理学 学習・言語心理学 神経・生理心理学 公認心理師の職責 社会・集団・家族心理学 教育心理学R 心理調査法R 障害者・障害児心理学 家族心理学R 人間性心理学	実存的人間論R イメージ心理学 異常心理学 発達臨床心理学R 学校臨床心理学R 青年期の臨床心理 福祉心理学 犯罪被害者の心理 臨床心理とキャリア 教育評価R 心理学的支援法 教育・学校心理学 産業・組織心理学 人体の構造と機能及び疾病 心理学統計法 心理的アセスメント	家族療法 精神分析 音楽療法 分析心理学 司法・犯罪心理学 健康・医療心理学 認知行動療法 子どもの心理療法 コミュニティ心理学 グループアプローチR 教育相談の理論と方法R 産業カウンセリングR 臨床心理学特講 関係行政論 心理演習 精神疾患とその治療	臨床心理学総論 芸術療法 心理実習 現代社会論R 現代学校教育論R 教育社会学R 現代家族論R 逸脱行動論R 地域とグローバルコミュニティR ボランティア論R ソーシャルワーク論R 経済学Ⅰ・Ⅱ（国際経済学を含む）R 法律学Ⅰ・Ⅱ（国際法を含む）R 政治学Ⅰ・Ⅱ（国際政治学を含む）R 生徒指導・進路指導R 海外人間科学研修R	教育行政学R 日本文化論R 現代社会と階層R 労働と人間R 行政学R 行政法R 哲学R 倫理学R 西洋史R 地理学R 東洋史R 日本史R 地誌学R

心理学科

専門教育科目	学科共通	心理学研究法 心理学統計法Ⅰ・Ⅱ 心理学実験Ⅰ・Ⅱ 心理学的支援法 健康心理学概論 生理心理学（神経・生理心理学Ⅰ） 人格心理学（感情・人格心理学Ⅰ） 社会心理学（社会・集団・家族心理学Ⅰ） 学習心理学（学習・言語心理学Ⅰ）	認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ） 発達心理学 公認心理師の職責 心理調査法S ストレスマネジメント スポーツ心理学S 家族心理学（社会・集団・家族心理学Ⅱ） 市場調査論 キャリア発達の心理学	対人関係の心理学 青年心理学S スポーツカウンセリングS 言語心理学（学習・言語心理学Ⅱ） 障害者・障害児心理学 心理的アセスメント キャリア開発実習 福祉カウンセリングS 司法・犯罪心理学	文献購読 海外人間科学研修S 人体の構造と機能及び疾病 精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱ 精神保健学Ⅰ・ⅡS 医療福祉論S 法律学Ⅰ・Ⅱ（国際法を含む）S 経済学Ⅰ・Ⅱ（国際経済学を含む）S 政治学Ⅰ・Ⅱ（国際政治学を含む）S	哲学S 倫理学S 行政学S 行政法S 現代社会と階層S 日本文化論S 関係行政論
	心理学コース	心理学実験法 実験心理学	心理測定論 心理学近現代史	感情心理学（感情・人格心理学Ⅱ） 知覚心理学（知覚・認知心理学Ⅱ）	生涯発達心理学 神経心理学（神経・生理心理学Ⅱ）	
	健康心理学コース	健康心理アセスメント 福祉心理学	健康心理カウンセリング 健康教育指導法	教育・学校心理学 健康・医療心理学	心理演習 心理実習Ⅰ・Ⅱ	生命倫理と法
	ビジネス心理学コース	産業・組織心理学 消費行動心理学	ビジネス心理学 ビジネス心理学実習	ビジネスコーチング心理学 産業カウンセリングS	ビジネスと法 ビジネスコミュニケーション技術論	

文学部　(2020年度入学生履修科目)

教養科目	共通教養科目	宗教学 哲学 倫理学 文学 歴史学 論理学 音楽	美術 心理学 言語学 法律学 政治学 経済学 日本国憲法	社会学 文化人類学 地理学 教育学 国際学 科学思想史 数学	物理学 化学 生態学 生物学 生理学 宇宙地球科学 総合講座Ⅰ～Ⅹ	情報基礎 情報活用 情報A～E
	外国語・体育科目	英語Ⅰ～Ⅳ*2 フランス語Ⅰ～Ⅳ ドイツ語Ⅰ～Ⅳ コリア語Ⅰ～Ⅳ 日本語Ⅰ～Ⅳ*1 中国語Ⅰ～Ⅳ*3	トピックで学ぶ英語A～D トピックで学ぶフランス語A～C トピックで学ぶドイツ語A～C トピックで学ぶ中国語A～C トピックで学ぶコリア語A～C	フランス語で学ぶフランス語Ⅰ～Ⅲ ドイツ語で学ぶドイツ語Ⅰ～Ⅲ 中国語で学ぶ中国語Ⅰ～Ⅲ コリア語で学ぶコリア語Ⅰ～Ⅲ 日本語Ⅴ(1)(2)*1	運動と健康Ⅰ・Ⅱ スポーツと人間Ⅰ・Ⅱ スポーツ・レクリエーションⅠ・Ⅱ	

＊1) 留学生・帰国生のみ履修可 ＊2) 日本語日本文学科、中国語中国文学科のみ履修可 ＊3) 日本語日本文学科、英米語英米文学科、外国語学科のみ履修可

専門教育科目	学部共通	多文化理解概論 多文化理解演習Ⅰ・Ⅱ アジア文化研究Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパ文化研究Ⅰ・Ⅱ 比較文化論 アジア事情Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパ事情Ⅰ・Ⅱ 英米事情Ⅰ・Ⅱ 現代文化論 国際関係論Ⅰ・Ⅱ	国際教育論 言語学概論 アジアの言語Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパの言語Ⅰ・Ⅱ 言語と文化Ⅰ・Ⅱ 言語と社会Ⅰ・Ⅱ 対照言語学Ⅰ・Ⅱ 記号と意味 言語系総合講座 言語と心理Ⅰ・Ⅱ	文学概論 映画論 児童文学Ⅰ・Ⅱ 文学と宗教 演劇論Ⅰ・Ⅱ 比較文学Ⅰ・Ⅱ 社会と文学Ⅰ・Ⅱ ヨーロッパの文学Ⅰ・Ⅱ キャリアデザイン論 キャリアリテラシーⅠ～Ⅳ	日本語の技能総合演習Ⅰ・Ⅱ 情報処理と言語 情報処理と文化 編集出版の基礎 編集出版の展開 日本語教育学Ⅰ～Ⅴ 日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ 日本語教育法Ⅰ～Ⅲ 日本語教育教材研究Ⅰ・Ⅱ 日本語教育事情	音声教育法 文章教育法 日本語教育特講Ⅰ・Ⅱ 日本語教育実習Ⅰ～Ⅲ 日本語教育実習Ⅳ-(1) (2) 外国語実地演習Ⅰ～Ⅷ
	日本語日本文学科	研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ 日本語学基礎演習Ⅰ・Ⅱ 日本古典文学基礎講読Ⅰ・Ⅱ 日本近代文学演習Ⅰ・Ⅱ 日本文化研究 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ 日本近代文学批評と理論	日本近代文学史講読 日本古典文学演習Ⅰ・Ⅱ 漢文学概論(N) 卒業研究Ⅰ-(1),(2) 卒業研究Ⅱ-(1),(2) 日本語学演習Ⅰ・Ⅱ-(1),(2) 日本語学講義Ⅰ・Ⅱ-(1),(2)	日本文学講読Ⅰ～Ⅳ-(1),(2) 日本文学講読と創作Ⅰ・Ⅱ 日本文学史Ⅰ・Ⅱ-(1),(2) 漢文学講読Ⅰ・Ⅱ(N) 国語科教育学Ⅰ・Ⅱ 日本語史Ⅰ・Ⅱ 日本語学特講Ⅰ・Ⅱ	日本文学演習Ⅰ・Ⅱ-(1),(2) 日本文学特講Ⅰ～Ⅳ 漢文学演習Ⅰ・Ⅱ 日本の言語と文化Ⅰ・Ⅱ 書道実技Ⅰ・Ⅱ 外国語実地研修Ⅰ～Ⅴ 書道Ⅰ～Ⅲ-(1),(2)	書写・書道教育研究Ⅰ・Ⅱ 書道史Ⅰ・Ⅱ 書論・鑑賞
	英米語英米文学科	英語研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ Communicative EnglishⅠ・Ⅱ(E) Reading Ⅰ～Ⅳ 英語音声学 英語演習Ⅰ～Ⅳ 英語文法実習 Academic Writing 卒業研究Ⅰ・Ⅱ-(1),(2) 英語教育入門	英米文化入門 Overseas Study Preparation SeminarⅠ～Ⅲ 英語教育学Ⅰ・Ⅱ 応用英語学Ⅰ～Ⅲ 英語教育特論 応用言語学特講Ⅰ・Ⅱ 英米文化Ⅰ・Ⅱ(E) 英米文化演習Ⅰ・Ⅱ	英米文化特論 英米文化特講Ⅰ・Ⅱ(E) 英米文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ 英語文学Ⅰ・Ⅱ 英語文学講読Ⅰ・Ⅱ 英語文学特講Ⅰ～Ⅲ 英語文学特殊研究Ⅰ・Ⅱ 英語学Ⅰ・Ⅱ 英語学演習Ⅰ・Ⅱ	英文法論 英語学特講 意味論 音韻論 外国語技能資格A・B 英米語実地研修Ⅰ～Ⅴ	
	中国語中国文学科	中国語文法・講読Ⅰ～Ⅳ 中国語会話・作文Ⅰ～Ⅳ 研究基礎演習 中国古典基礎演習 中国歴史・地理基礎Ⅰ・Ⅱ 中国学概説 卒業研究Ⅰ・Ⅱ-(1),(2) 中国語文演習 中国語学概説Ⅰ・Ⅱ	中国語学講義Ⅰ～Ⅳ 中国語学演習Ⅰ～Ⅳ 中国語翻訳・通訳基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語ビジネス基礎Ⅰ・Ⅱ 中国語学研究Ⅰ～Ⅳ 中国語総合研究Ⅰ(翻訳・通訳) 中国語総合研究Ⅱ(ビジネス) 中国語総合研究Ⅲ(プレゼンテーション) 中国古典学概説Ⅰ・Ⅱ	中国古典学講義Ⅰ～Ⅳ 中国古典学演習Ⅰ～Ⅷ 文言文演習Ⅰ～Ⅴ 中国現代社会論概説 中国現代社会論講義Ⅰ～Ⅲ 中国現代社会論演習Ⅰ～Ⅴ 中国現代文化論概説 中国現代文化論講義Ⅰ～Ⅲ 中国現代文化論演習Ⅰ～Ⅴ	中国地域研究Ⅰ～Ⅳ 中国語コミュニケーションⅠ～Ⅳ 中国語演習Ⅰ(リーディング) 中国語演習Ⅱ(ライティング) 中国語演習Ⅲ(検定試験初級支援Ⅰ) 中国語演習Ⅳ(検定試験初級支援Ⅱ) 中国語演習Ⅴ(検定試験中級支援Ⅰ) 中国語演習Ⅵ(検定試験中級支援Ⅱ) 漢文学概論(C)	漢文学購読Ⅰ・Ⅱ(C) 中国研究特講Ⅰ・Ⅱ 中国語実地研修Ⅰ～Ⅶ 中国社会文化実地研究Ⅰ・Ⅱ 外国語技能資格A～D 中国語科教育学
	外国語学科	Introduction to Global Studies Study Abroad Preparation 研究基礎演習Ⅰ・Ⅱ Oral Communication Ⅰ・Ⅱ eLearning Ⅰ～Ⅲ Pronunciation Clinic 英語ライティング演習 言語コミュニケーション基礎論 Presentation & Debate English for Academic Purposes Reading Ⅰ～Ⅳ	English for Specific Purposes Ⅰ～Ⅲ Pro-Seminar Problem-solving Workshop SeminarⅠ・Ⅱ-(1),(2) English for international Communication A・B World Englishes World History Business Communication Global Issues and Current Events Issues in ICT Special Topics in Global Studies A・B	Communicative English Ⅰ・Ⅱ(G) 英米文化Ⅰ・Ⅱ(G) Workshop for Project A～D Tour Guide English Translation for Business North America StudiesⅠ・Ⅱ 英米文化特講Ⅰ・Ⅱ(G) Special Topics in Career English 異文化コミュニケーション論 多文化共生論 東アジア文化論	ヨーロッパ文化論 東アジア共生論 国際人権論 日欧交流史 東アジア交流史 Asian Studies Ⅰ・Ⅱ European Studies Ⅰ・Ⅱ Gender Studies Environmental Issues Special Topics in Area Studies 日本文化基礎Ⅰ・Ⅱ	Japanese Culture and Tradition 日本語教育実践Ⅰ・Ⅱ Current Issues in Japanese Society インターンシップ 外国語技能資格A～D Creative Writing Academic Writing 海外実地研修Ⅰ～Ⅵ

情報学部　(2020年度入学生履修科目)

共通教育科目	Ⅰ	哲学 倫理学 日本国憲法＊ 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習＊	Ⅱ	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 宗教学入門 情報倫理とモラル 数学入門 技術と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論

＊）教職課程必修科目

外国語科目	英語	Ⅰ（必修）	英語ⅠA・ⅠB
		Ⅱ（必修）	英語ⅡA・ⅡB
		Ⅲ（選択）	情報英語A～D
	日本語＊	必修	日本語会話 日本語読解 日本語作文

＊）外国人留学生及び帰国生

学部共通科目	選択必修	デザイン論 サブカルチャー論 メディアリテラシー 情報と社会 情報通信ネットワーク 情報処理概論 情報学序論 社会システムモデリング 現代社会と著作権

情報システム学科

専門教育科目	必修		基礎演習A・B★ 文章演習★	基礎プログラミング プロジェクト演習A～E	ゼミナールⅠ・Ⅱ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
	選択	システム開発領域科目	オフィスソフトウエア入門 ビジュアル数学 データベース アルゴリズムとデータ構造 データと統計的見方 マクロプログラミング 線形代数学 微分積分 デバッグ入門	オブジェクト指向プログラミング Webプログラミング★ システム分析★ インターネット こどもとメディア 情報システムとインタラクション データベース応用★ 情報数学序論 数と図形の世界	ハードウエア★ ゲームプログラミング 組み込み機器(IoT)プログラミング 医療情報システム オープンソースソフトウエア オペレーティングシステム 行政情報システム データマイニング グラフと組合せ論	確率論 記号論理 代数学 システム設計★ プロジェクトマネジメント★ クラウドサービス開発演習 スマートフォン・アプリケーション制作 Webマイニング システム開発事例研究	Webプログラミング応用 テキストマイニング ネットワーク運用管理 インストラクショナルデザイン 解析学概論 幾何学 IoTとセキュリティ 機械学習 ソフトウエアの構成とテスト★
		情報デザイン領域科目	Webページ制作 ディジタルクリエイション 作曲法 ディジタルデッサン ゲーム企画論 社会情報論 情報社会と法★ 情報セキュリティ★ コンテンツプランニング	コンピュータ・グラフィックス概論 デザイン史と色彩論 ゲームクリエイション ディジタルコミック制作 コンテンツの世界観構築 コンピュータ・グラフィックス制作 画像処理 ライトノベルの創作と編集 電子出版とクロスメディア	空間デザイン～建築とインテリア ゲームエンジン ヒューマンインタフェース 映像・アニメーション表現 Webデザイン エディトリアルデザイン サウンドデザイン コンテンツマーケティング キャラクターモデリング	こどものためのコンテンツデザイン マンガ表現★ アニメーション文化論★ 認知科学 サウンドエフェクトデザイン フィジカルコンピューティング 社会と教育 地理情報システム 拡張現実	メディアコンテンツプログラミング UXデザイン ウェアラブルコンピューティング アニメーション制作 メディア・デザイン論★ ファッション・インテリア研究★
		一般選択科目	情報システム特論A～D	海外研修A・B★	ベトナムの言語・文化・産業★	インターンシップ★	キャリア研究B

情報社会学科

専門教育科目	必修		情報社会と法★ データベース入門 データ分析総合演習	情報処理実践演習A・B 文章演習★ 基礎演習A・B★	人間愛と情報社会 総合演習A～C 情報技術総合演習	アルゴリズムとデータ構造入門 ハードウエア★ コミュニケーション戦略	プロジェクトマネジメント★ ゼミナールⅠ・Ⅱ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
	選択	コミュニケーション戦略領域科目	社会心理学 統計学入門 情報社会における計量社会学入門 国際ビジネス環境の理解 ビジネスデータ処理演習	情報社会における問題の発見と解決 図書館情報資源概論 調査集計法A・B マーケティング マーケティング・リサーチ	情報社会の分析と理解 情報資源組織論 コミュニケーション戦略特講A・B 情報資源組織演習 情報社会のリテラシ	情報社会のビジネスモデル 情報社会のサービス企画 マーケティング・リサーチ演習 現代社会の消費者行動 社会調査演習Ⅰ・Ⅱ	ビッグデータ解析の社会への応用 データモデリング データマイニング ビジネス発想法 情報と企業のイノベーション
		プロジェクトマネジメント領域科目	情報サービス産業の理解 人工知能入門 成功のプランニング 人工知能の社会への応用 Webプログラミング★ オペレーションズ・リサーチ	インターネットと情報セキュリティ 企業活動と情報システム 図書館情報技術論 情報サービス論 データベース応用★ システム分析★	プロジェクトマネジメント特講A・B プログラミングⅠ・Ⅱ 情報サービス演習 経営の分析と計画 システム設計★ 知的財産法	情報化要求の分析とソリューションの提案 システム開発技法 情報システムの品質と信頼性 情報デザイン設計 経済性の科学 情報社会における都市計画	ソフトウエアの構成とテスト★ 経営管理システム ビジネス法 不確実性とリスクのマネジメント
		一般選択科目	ロジカルシンキング 海外研修A・B★ 生涯学習論 図書館概論	図書館サービス概論 図書・図書館史 インタラクティブメディア概論★ クリエイティブ演習★	図書館制度・経営論 プレゼンテーション技法 ベトナムの言語・文化・産業★ 学外実習	キャリア研究C インターンシップ★ 図書館サービス特論 情報処理実践演習C	児童サービス論 メディア・ビジネス論

メディア表現学科

専門教育科目	必修			社会学概論 文章演習Ⅰ(コミュニケーション)	文章演習Ⅱ(時事教養) 基礎演習A・B★	メディア社会学 プレゼミナールA～C	マス・コミュニケーション論 コミュニケーション・プランニング論	ゼミナールⅠ・Ⅱ 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
	選択	メディア表現領域科目	副専攻	放送論 映像プロデュース論 出版論 広告概論	アニメーション制作B(CGアニメーション) 記号論 テレビコマーシャル論 映像表現論	新聞論 広報・PR論 メディア効果論 コミュニケーションメディア論	映画史 アニメーション文化論 言語コミュニケーション論 ジャーナリズム史	パーソナルデータ倫理・法制 ユニバーサルデザイン論 スポーツ・メディア論 コンテンツ・プロデュース
			主専攻	テレビ企画構想演習 映画分析演習 情報表現デザイン コミュニケーション論基礎 コンピュータ基礎 コンピュータ概論 テレビ構成演習 映像技術演習 ラジオ制作演習 出版演習 広告表現Ⅰ・Ⅱ マーケティング・コミュニケーション論 インタラクティブメディア概論★ アニメーション制作A(アニメーション基礎)	クリエイティブ演習★ 著作権ビジネス論 コンピュータ応用 映像表現Ⅰ・Ⅱ 映像ポストプロダクション演習 ショート・ムービー制作 ジャーナリズム論 インタビュー・取材演習 記事制作A・B 広告企画演習 コピーライティング SNS文化論 CG&ゲーム制作(ゲーム企画) サウンドプロデュース	写真技法 演技・パフォーマンス演習 社会調査論 リサーチデータのリテラシー コンテンツ制作と心の科学 文献講読 テレビ番組制作(スタジオ) CM制作 ミュージックビデオ制作 広告産業論 マーケティング・リサーチ論 デジタルメディア論 モバイルコンテンツ論 Webデザイン	アニメーション制作C(アート表現) マンガ表現★ 音声表現演習 サウンドデザイン(DTM音楽制作) コンテンツ発想法 メディア調査研究法A(量的調査研究の技法) メディア調査研究法B(多変量解析の技法) メディア調査研究法C(総合演習) 演出演習 ブランド論 商品・企画研究 イベント企画演習 社会調査の統計学 ファッション・インテリア研究★	情報学特殊講義A～C インターネットビジネス論 ドキュメンタリー論 出版文化論 小説・評論演習 ソーシャル・メディア・コミュニケーション 情報メディア論 メディアの内容分析 メディア・デザイン論★ 異文化コミュニケーション論
		一般選択科目		情報社会と法★ 情報セキュリティ★	海外研修A・B★ ベトナムの言語・文化・産業★	キャリア研究A ハードウエア	インターンシップ★	

★が印が付いている科目は、他学科の開講科目一覧表にも同一名称の科目がありますが、自学科の科目としてしか履修できません。

国際学部　(2020年度入学生履修科目)

<table>
<tr><td rowspan="2">共通教育科目</td><td>I</td><td>キャリア形成基礎</td><td rowspan="2">III</td><td rowspan="2">哲学
倫理学
文化人類学
日本国憲法
論理学
音楽
文学
美術
人間関係論
心理学
スポーツ科学
スポーツ・健康演習
総合科目A・B</td><td rowspan="2">IV</td><td rowspan="2">社会学入門
経営学入門
経済学入門
法学入門
政治学入門
宗教学入門
情報社会論
情報倫理とモラル
メディア論
数理思考の活かし方
技術と人間
生態系と人間
生命科学
現代社会のエネルギー論
現代社会のジェンダー論
現代社会の栄養論</td></tr>
<tr><td>II</td><td>日本語表現基礎
数学基礎
自然科学基礎
近現代史基礎
地理学基礎</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">言語科目</td><td>必修</td><td>CALL 101〜104
EIC 101〜104
EIC 201・301</td><td>日本語A〜E*</td></tr>
<tr><td>選択必修</td><td>日本語表現法 I・II
日本語表記の常識</td><td>日本事情</td></tr>
<tr><td>選択</td><td>CALL A〜C
EIC A〜C
ESP A〜F
ドイツ語 I〜III
スペイン語 I〜III</td><td>フランス語 I〜III
中国語 I〜III
コリア語 I〜III
世界の言語
卒論演習*</td></tr>
</table>

*) 外国人留学生

<table>
<tr><td rowspan="3">専門教育科目</td><td rowspan="3">学部共通専門科目</td><td>必修</td><td colspan="6">国際学入門</td></tr>
<tr><td rowspan="2">選択必修</td><td rowspan="2">I</td><td rowspan="2">地域研究A(ヨーロッパ)
地域研究B(中南米)
地域研究C(東アジア)
地域研究D(アフリカ)
地域研究E(アメリカ)
地域研究F(南アジア)
地域研究G(東南アジア)
地域研究H(オセアニア)
地域研究特論
海外研修A(アジア研修)
海外研修B(RM研修)
海外研修C(HM研修)
ボランティア実地演習</td><td rowspan="2">II</td><td rowspan="2">現代日本の諸問題
日本の伝統文化
日本の政治経済
日本の地理と歴史
日本の企業と社会</td><td>III</td><td>キャリア形成A・B
社会人の基礎力演習
インターンシップ</td></tr>
<tr><td>IV</td><td>国際学研究A〜C</td></tr>
</table>

国際理解学科

<table>
<tr><td rowspan="5">専門教育科目</td><td rowspan="2">学科共通専門科目</td><td>学科必修</td><td colspan="2">国際理解論
新入生ゼミナール</td><td colspan="4">基礎ゼミナール
専門ゼミナール I〜IV</td></tr>
<tr><td>学科選択必修</td><td>I</td><td>国際理解とコミュニケーション
(国際コミュニケーション論)
国際理解と政治(現代国際政治論)</td><td>国際理解と文化(異文化理解論)
国際理解と法(現代国際法)</td><td>国際理解と経済(現代世界経済論)
国際理解と環境(地球環境論)</td><td>II</td><td>応用演習
短期留学英語演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際コミュニケーション領域選択</td><td colspan="2">ジェンダーと国際社会
英語コミュニケーション論
異文化理解演習
イスラーム入門
キリスト教入門
キリスト教文化と社会</td><td>仏教・ヒンドゥ教入門
英語表現A・B
英語学概論
英語とメディア
環境コミュニケーション論
通訳入門</td><td>翻訳入門
英語音声学
英語文学A・B
西洋思想と国際社会
東洋思想と国際社会
社会言語学</td><td>比較文学
現代思想
国際化・情報化時代の社会学
交流文化論A・B
英語オーラル・コミュニケーション論
文化政策論</td><td>コミュニケーションのための英文法
日本ポップカルチャー論
インタープリテーション論 I (理論)
インタープリテーション論 II (応用演習)
美術史
特殊講義A〜C</td></tr>
<tr><td colspan="2">国際協力領域選択</td><td colspan="2">日本経済論
国際機構論
NPO・ボランティアの理論
法と行政A(法治国家の理念と仕組み)
法と行政B(外国人と行政)
開発教育論
外国史A・B</td><td>地理学
日本史
ソーシャルビジネス論
金融論
国際人権法
比較政治学
アジア太平洋経済論</td><td>国際金融論
市民の環境貢献
安全保障論
国際協力論
開発と国際協力
紛争と国際協力
憲法</td><td>資源と国際協力
環境と国際協力
観光と国際協力
平和学
開発経済学
国際化・情報化時代の社会学
環境経済学</td><td>国際環境法
農村社会開発論
現代中国論
統計調査の基礎
国際協力実地演習
特殊講義D〜F</td></tr>
</table>

国際観光学科

<table>
<tr><td rowspan="4">専門教育科目</td><td rowspan="2">学科共通専門科目</td><td>学科必修</td><td colspan="2">国際観光論
新入生ゼミナール</td><td colspan="4">基礎ゼミナール
専門ゼミナール I〜IV</td></tr>
<tr><td>学科選択必修</td><td>I</td><td>国際観光とビジネス
(ビジネス・マネジメント論)
国際観光とマーケティング
(マーケティング論)</td><td>国際観光と起業(起業論)
国際観光と会計(財務・会計論)</td><td>国際観光とホスピタリティ
(ホスピタリティ・マネジメント論)
国際観光とデザイン(観光デザイン論)</td><td>II</td><td>応用演習
短期留学英語演習</td></tr>
<tr><td colspan="2">観光ビジネス領域選択</td><td colspan="2">観光ビジネス論
観光サービス
観光マーケティング論
流通論
英語表現C
プロジェクトマネジメント
金融論
消費社会論</td><td>観光心理学
ビジネス倫理
トラベルビジネス論
旅行法規
トラベル実務
消費者行動論
広告論
産業組織論</td><td>ホスピタリティ人材開発
エアラインビジネス論
国際金融論
エアラインサービス論
統計調査の基礎
交通事業論
ホテル事業論
ホテルサービス論</td><td>ホテルレストラン会計
テーマパーク事業論
スポーツビジネス論
レジャー・スポーツ演習
ブライダルマネジメント
観光ビジネスの経済
観光企業の競争戦略
観光ビジネスプロジェクト演習 I (理論)</td><td>観光ビジネスプロジェクト演習 II
(応用演習)
専門インターンシップ事前研修
専門インターンシップ I〜IV
特殊講義G〜I</td></tr>
<tr><td colspan="2">観光デザイン領域選択</td><td colspan="2">NPO・ボランティアの理論
景観と風景のまちづくり
統計調査の基礎
英語表現C
地域開発とミュージアム
地域調査演習
観光と食文化</td><td>観光資源論
エコツーリズム論
観光社会学
地域のサスティナブル・デザイン論
インタープリテーション論 I (理論)
インタープリテーション論 II (応用演習)
飲食店企画論</td><td>現代都市論
観光と国際協力
地域プロジェクト演習 I (理論)
地域プロジェクト演習 II (応用演習)
生涯学習論
博物館展示論
博物館教育論</td><td>博物館情報・メディア論
博物館資料保存論
交流文化論A・B
文化政策論
アート・マネジメント論
美術史
博物館実習</td><td>専門インターンシップ事前研修
専門インターンシップ I〜IV
特殊講義J〜L</td></tr>
</table>

健康栄養学部　（2020年度入学生履修科目）

区分	分野	科目	科目
教養教育科目	一般教養	音楽 文学 個人と社会 生活と広告 法学入門	経営学入門 消費者行動論 ヒトと動植物 生命倫理 日本国憲法
	専門基礎	食生活論 基礎生物化学 生活と化学 栄養情報 統計学概論	
	外国語	英会話Ⅰ・Ⅱ 英語Ⅰ・Ⅱ 中国語Ⅰ・Ⅱ フランス語Ⅰ・Ⅱ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ	
	体育・情報処理	スポーツ・健康実習A・B 情報処理A～C	

区分	分野		科目		科目		科目		科目
専門教育科目	ココロを育む科目		心理学概論 臨床心理学概論 人間関係論		健康心理学 発達心理学 コミュニケーション論		心理アセスメント 代替医療論 サプリメントと健康		笑顔コミュニケーション論 アロマテラピーと健康 アロマテラピーコーディネート
	カラダを育む科目	必修	健康管理概論 公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ 生化学Ⅰ・Ⅱ 生化学実験Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 解剖生理学実験Ⅰ・Ⅱ 運動生理学 病理学 微生物学 食品学総論 食品学各論 食品学総論実験		食品学各論実験 食品衛生学 食品衛生学実験 調理学 調理学実習Ⅰ・Ⅱ 調理科学実験 基礎栄養学 基礎栄養学実験 応用栄養学Ⅰ・Ⅱ 応用栄養学実習 栄養アセスメント論 栄養教育総論		栄養教育各論Ⅰ・Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ 医療概論 臨床栄養学総論 臨床栄養学各論Ⅰ・Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ 公衆栄養学実習 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ 給食経営管理実習 総合演習Ⅰ・Ⅱ 臨地実習Ⅰ～Ⅲ	選択	総合演習Ⅲ 臨地実習Ⅳ
	栄養教諭コース科目	a	学校栄養指導論Ⅰ・Ⅱ	b	教育課程論 生徒指導論		教職実践演習（栄養教諭） 教育方法の理論と実践		学校教育相談（カウンセリングを含む） 栄養教育実習
	健康栄養コース科目	c	メニュー開発論 特定保健指導計画	d	無酸素性・有酸素性エクササイズの理論と実際 身体トレーニングのプログラムデザイン スポーツ栄養管理	e	食の安全性 食品開発論 バイオテクノロジー 食品の官能評価		食品の流通と消費 フードコーディネート論 フードスペシャリスト論
	臨床栄養コース科目	f	栄養法別対応論 臨床栄養ケアプラン 臨床栄養指導 福祉栄養学実習Ⅲ	g	福祉システム論 小児栄養 食物アレルギーへの対応		高齢者栄養 介護学概論		栄養ケア・マネジメント論 福祉栄養学実習
	ゼミナール		健康栄養演習 卒業研究						
	キャリアアップ	キャリアアップ演習	キャリアアップ演習A～F						
		教職科目	教職概論＊		教育原理＊		教育心理学＊		特別支援教育概論　道徳教育・特別活動＊　総合的な学習の時間の指導法＊

＊）教職科目に同じ

経営学部　（2020年度入学生履修科目）

区分		科目		科目		科目
共通教育科目	Ⅰ	キャリア形成基礎	Ⅲ	哲学 倫理学 文化人類学 日本国憲法 論理学 音楽 文学 美術 人間関係論 心理学 スポーツ科学 スポーツ・健康演習 総合科目A・B	Ⅳ	社会学入門 経営学入門 経済学入門 法学入門 政治学入門 宗教学入門 情報社会論 情報倫理とモラル メディア論 数理思考の活かし方 技術と人間 生態系と人間 生命科学 現代社会のエネルギー論 現代社会のジェンダー論 現代社会の栄養論
	Ⅱ	日本語表現基礎 数学基礎 自然科学基礎 近現代史基礎 地理学基礎				

区分			科目	科目
外国語科目	必修	Ⅰ	英語ⅠA・ⅠB	
		Ⅱ	英語ⅡA・ⅡB	
		Ⅲ	英語ⅢA・ⅢB	
			日本語A～E＊	
	選択必修		応用英語A～D	
	選択		ドイツ語Ⅰ～Ⅲ フランス語Ⅰ～Ⅲ スペイン語Ⅰ～Ⅲ	中国語Ⅰ～Ⅲ コリア語Ⅰ～Ⅲ

＊）外国人留学生のみ

区分	分野	科目	科目	科目	科目
専門教育科目	必修	知へのナビゲーション アカデミック・リテラシー	社会人基礎力演習 知の探究	ゼミナールⅠ 人間と経営学	基礎簿記演習
	選択必修Ⅰ	経営管理論 経営戦略論 経営組織論	人間尊重と経営 マーケティング 経済学の基礎	企業会計 公共経営入門 公共経済入門	ビジネスと法A
	選択必修Ⅱ	データ処理Ⅰ	プレゼンテーション	統計の見方	問題解決技法入門
	選択必修Ⅲ	ビジネスソリューション演習	キャリア開発研究	ゼミナールⅡ	
	選択	企業倫理 組織デザイン論 環境と経営 国際地域論A（アジア） 国際地域論B（アメリカ） 国際地域論C（ヨーロッパ） 起業論 産業心理学 人的資源管理論 人材開発論 組織行動論 e-ビジネス ビジネスモデル設計演習 マーケティング戦略 消費者行動論 マーケティング・リサーチ マーケティング・リサーチ演習 マーケティング戦略事例研究 流通論 英語文献研究 中小企業経営論	キャリアコンサルティング 日本経済論 企業と市場の経済（ミクロ経済） 国と国の経済（マクロ経済） ファイナンス ファイナンスとコーポレートガバナンス 経済データ分析 財務会計論 原価計算Ⅰ・Ⅱ 中級簿記 財務諸表分析演習 税務会計 連結会計 アカウンティング演習A・B 管理会計論 監査論 行政学 公共経営論 公共思想論 NPO・ボランティアの理論 公共経済学	行政評価 公会計 地域経営論 非営利組織論 情報公共論 社会福祉論 福祉医療マネジメント論 公共経営演習A～D 公共経営実地演習 社会心理学 政策科学 政策科学演習 経営基礎数学 統計の分析と利用 統計データの扱い方 多変量の統計データ解析 問題発見技法 スケジューリング 生産システム ネットワークモデル分析 シミュレーションモデル分析A・B	最適化モデル分析 問題解決技法演習 意思決定科学 ロジスティクス コンピュータ基礎演習 情報発信ツール活用演習 データベース作成 プログラミング データ処理Ⅱ 情報化戦略 情報技術演習A・B ビジネスと法B・C 労働法 行政法 経営学特論A・B 職業・キャリア指導 海外研修 インターンシップ 卒業論文

［5］学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

大学等	学部・研究科等			修業年限	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数		取得可能な学位及び専攻名称
						必修	選択	
文教大学	教育学部	学校教育課程	国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語専修	4年	124単位	86単位	38単位	学士（教育学）
		発達教育課程	特別支援教育専修			96単位	28単位	
			初等連携教育専修					
			児童心理教育専修					
			幼児心理教育専修			100単位	24単位	
	人間科学部	人間科学科		4年	124単位	32単位	92単位	学士（人間科学）
		臨床心理学科				28単位	96単位	
		心理学科				42単位	82単位	
	文学部	日本語日本文学科		4年	128単位	42単位	86単位	学士（文学）
		英米語英米文学科				40単位	88単位	
		中国語中国文学科				38単位	90単位	
		外国語学科				56単位	72単位	
	情報学部	情報システム学科		4年	124単位	36単位	88単位	学士（情報学）
		情報社会学科				48単位	76単位	
		メディア表現学科				36単位	88単位	
	国際学部	国際理解学科		4年	124単位	32単位	92単位	学士（国際学）
		国際観光学科						
	健康栄養学部	管理栄養学科		4年	130単位	93単位	37単位	学士（栄養学）
	経営学部	経営学科		4年	124単位	26単位	98単位	学士（経営学）
（大学院）	教育学研究科	学校教育専攻修士課程		2年	30単位	14単位	16単位	修士（学校教育）
	人間科学研究科	臨床心理学専攻修士課程		2年	43単位	25単位	18単位	修士（心理学）
		臨床心理学専攻博士（後期）課程		3年	16単位	12単位	4単位	博士（心理学）
		人間科学専攻修士課程		2年	30単位	6単位	24単位	修士（人間科学）
	言語文化研究科	言語文化専攻修士課程		2年	30単位	0単位	30単位	修士（文学）
		言語文化専攻博士（後期）課程		3年	16単位	0単位	16単位	博士（文学）
	情報学研究科	情報学専攻修士課程		2年	30単位	8単位	22単位	修士（情報学）
	国際学研究科	国際学専攻修士課程		2年	30単位	6単位	24単位	修士（国際学）
（専攻科）		教育専攻科		1年	30単位	0単位	30単位	ー
（外国人留学生別科）				1年	38単位	8単位	30単位	ー

授業科目のシラバスは、文教大学ホームページで公開しています。

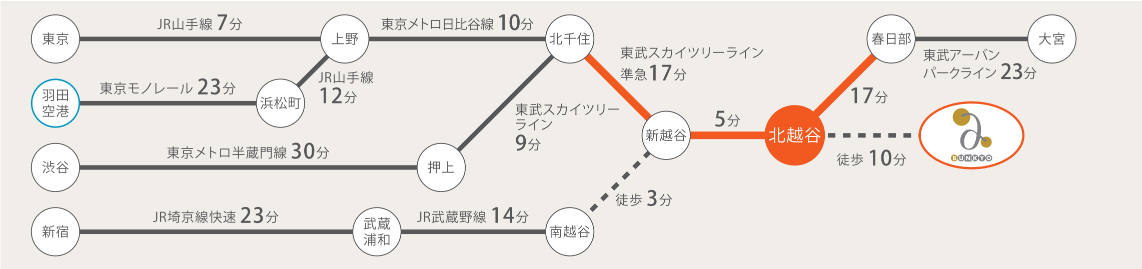
https://www.bunkyo.ac.jp

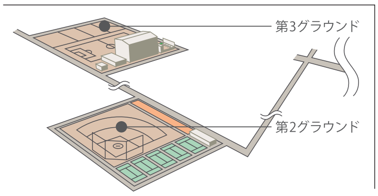
Home > 大学案内 > シラバス照会を参照して下さい。

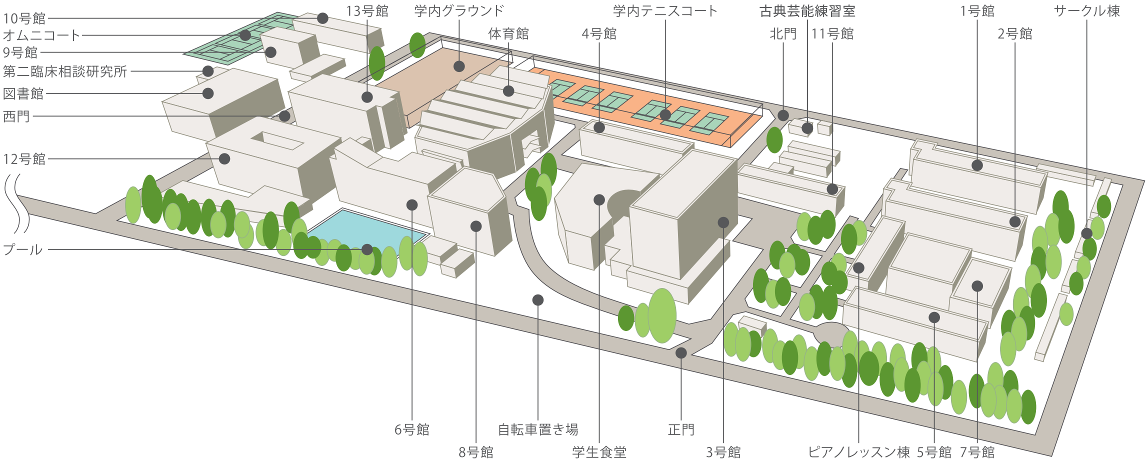
［6］学習環境に関する情報

越谷キャンパス	所在地	埼玉県越谷市南荻島3337
	主な交通手段	東武スカイツリーライン「北越谷」駅下車
	設置学校等	○大学（教育学部／人間科学部／文学部） ○大学院研究科（教育学研究科／人間科学研究科／言語文化研究科） ○専攻科（教育専攻科）　○外国人留学生別科

キャンパスの概要







運動施設の概要	▶体育館（メインアリーナ1,160㎡／サブアリーナ442㎡／トレーニングルーム172㎡） ▶学内テニスコート（全天候型10面3,383㎡）▶学内グラウンド（クレー3,304㎡） ▶第2グラウンド（テニスコート5面3,792㎡／野球場2面9,826㎡） ▶第3グラウンド（第2体育館384㎡／弓道場37㎡／人工芝グラウンド18,402㎡）

課外活動の状況

文化会団体

- 文化会本部
- 吹奏楽部
- 室内合奏団
- モダンフォークソングクラブ
- 音楽友の会
- 作詞作曲研究会
- 管弦楽団
- JAZZ 研究会
- 箏曲部
- 子どもといっしょ Wonder Kids
- 文藝會
- 美術部
- 書道部
- 劇団 NoN-SpoiL
- ボランティア部 C・フラフープ
- 学習ボランティア部 なずなの会
- 漫画研究会
- 国際交流ボランティアサークル わっち
- 寺子屋
- 華道部
- サブカルチャー研究部
- 合唱団コールリンデ
- Maggie（大道芸）

体育会団体

- 体育会本部
- 女子バレーボール部
- 女子バスケットボール部
- 女子ソフトテニス部
- 女子硬式庭球部
- 女子ソフトボール部
- 女子ハンドボール部
- 女子サッカー部
- 男子バレーボール部
- 男子バスケットボール部
- 男子ソフトテニス部
- 男子硬式庭球部
- 男子ソフトボール部
- 男子ハンドボール部
- 野球部
- サッカー部
- アメリカンフットボール部
- ラグビー部
- 卓球部
- バドミントン部
- ラクロス部
- 陸上競技部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 競技ダンス部
- 剣道部
- 弓道部
- 空手道部

その他

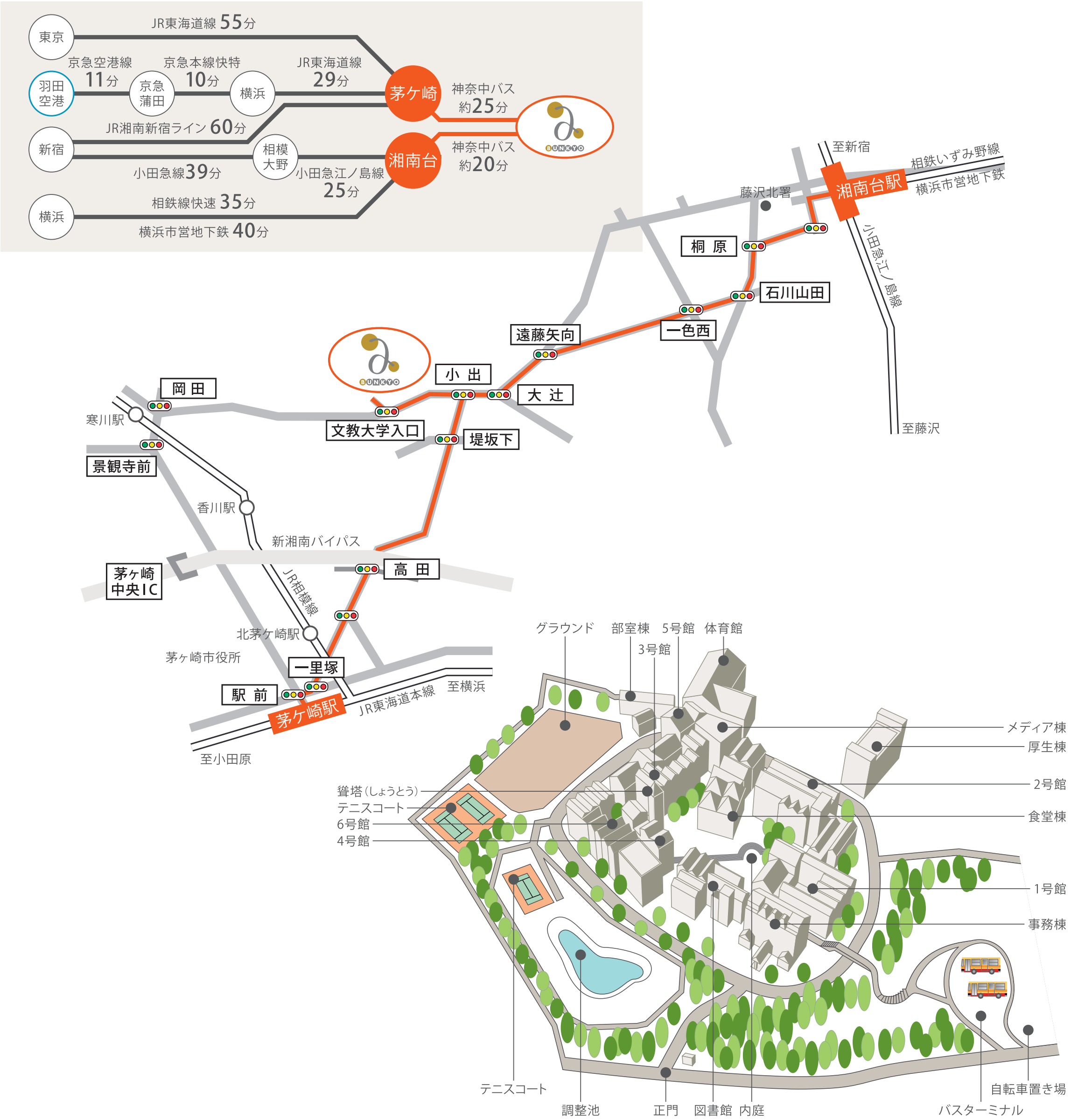
- 学友会総務部
- 藍蓼祭実行本部
- 留学生会

届出団体

- ACTスポーツクラブ（テニス）
- F.C.NUTS（サッカー）
- バドワイザーテニスクラブ（テニス）
- 文教AIRS（アルティメット）
- RED CROSS（野球・ソフトボール）
- F.C.Liberty（フットサル）
- ヘルベチカ（バスケットボール）
- アーリータイムズ -時期尚早-（軟式野球）
- サイクリスツツーリングクラブ -B.C.T.C.-（サイクリング）
- ハモハモ（アカペラ）
- 造形クラブ Do（陶芸・立体造形）
- いけっち（サッカー）
- G'z（バスケットボール）
- B-KIDS（バスケットボール）
- FLIP（フットサル）
- LEGENDS（軟式野球）
- ローターアクトクラブ（ボランティア）
- 野外教育研究会あべこべ（野外活動）
- SPREADS（ダンス）
- 和太鼓集団打組『出津龍』（和太鼓）
- デジヴ（写真撮影・展示）
- さちこの会（地域イベント研究・企画）
- Jet's ハイボール同好会（バレーボール）
- プランタンテニスクラブ（テニス）
- LARKS（野球・ソフトボール）
- SHUTTLES（バドミントン）
- Rookies（野球）
- Leggings（フットサル）
- ひろよ（バレーボール）
- 文教ツーリストクラブ（旅行・日本文化研究）
- 教師の卵サークルWE（教採対策）
- 茶道倶楽部（茶道）
- Rire（テニス）
- Pict+（アニメ・イラスト・漫画制作）
- SNOW's（スキー・スノーボード）
- お笑いサークルびぃんBack（お笑い）
- おさんぽの会（散歩）
- のとまる（セクシャルマイノリティサークル）
- Wings With（バトミントン）
- ビブロBunkyo（ビブリオバトル）
- チアリーディング応援サークルLuckers（チアリーディング）
- シリウス（天文）
- ポケモンサークル〜ポケルス〜（サブカルチャー研究）
- かめれおん（コスプレ）
- めぐり（郷土研究）
- レモンスカッシュ（スカッシュ）
- 人狼＆TRPGサークル「いあ」（サブカルチャー研究）
- 文教大学クイズ研究会（BQC）（クイズ研究）
- トリックスターズ（手品）
- 文教大学ボランティアサークル「あるけ」（ボランティア）
- 九州・沖縄文化研究会（郷土研究）
- Wadaci（ファッション研究）
- ボウリング（ボウリング）

湘南キャンパス		
	所在地	神奈川県茅ヶ崎市行谷1100
	主な交通手段	小田急江ノ島線「湘南台」駅下車　西口より神奈中バス「文教大学」下車 JR 東海道線「茅ケ崎」駅下車　北口より神奈中バス「文教大学」下車
	設置学校等	○大学（情報学部／国際学部／健康栄養学部／経営学部） ○大学院研究科（情報学研究科／国際学研究科）

キャンパスの概要



運動施設の概要	▶体育館（大アリーナ952㎡／小アリーナ272㎡）▶部室棟（トレーニングルーム43㎡） ▶学内テニスコート（全天候型3面）▶学内グラウンド（クレー8,032㎡） ▶厚生棟屋上（弓道場435㎡）

課外活動の状況

文化会団体

- 文化会本部
- 映画製作研究部
- 演劇部 劇団また旅
- 音楽友の会
- 作詞作曲研究会
- 茶道部
- アカペラサークル CyAN
- 吹奏楽部
- 写真部
- 調理サークル 飯
- null2x
- FOG PARTY
- 放送部
- 創作部
- アナログゲーム研究部

体育会団体

- 体育会本部
- 和太鼓部 楓
- 剣道部
- 硬式テニス部
- ライフセービング部
- ソフトテニス部
- ダンス部 BUZZ
- 軟式野球部
- 男子ソフトボール部
- バドミントン部
- バレーボール部
- 陸上競技部
- 弓道部
- 武蔵・殺陣剣舞会

その他

- 学友会
- 聳塔祭実行委員会

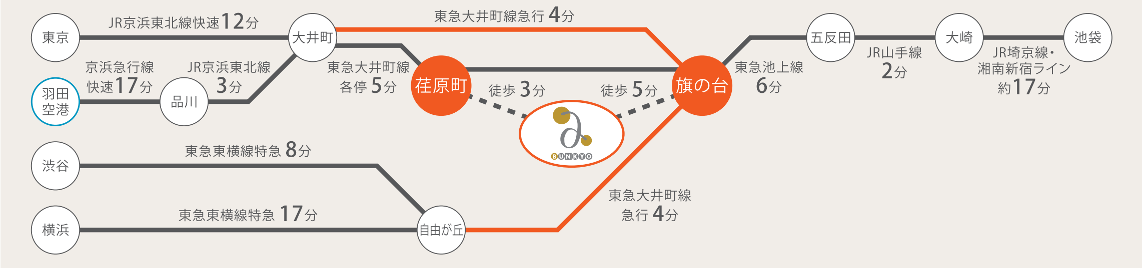
届出団体

- Beat Generation（サッカー）
- BIT（バスケットボール）
- Full Throttle（テニス）
- HOP（ボランティア）
- MEW（イベント）
- S☆G☆A（テニス）
- Seeds（フットサル）
- SURF & SNOW（イベント）
- 観光研究会 avion（観光研究）
- 湘南アニメーション研究所（アニメーション制作）
- 茅ヶ崎地区BBS会（青年ボランティア）
- 文教の森プロジェクト（森林整備）
- 文教大学 鉄道研究会（鉄道研究）
- ポケモンサークル（ゲーム研究）
- 留学生会（留学生交流）
- 湘南プランタン（テニス）
- 浪花×MINT（イベント）
- KoP（サバイバルゲーム）
- アニメ特撮交流観賞会（アニメーション鑑賞）
- COCOS（テニス）
- JoinUS!（スポーツ交流）
- 情報社会研究会（自己啓発）
- TABLE FOR TWO（ボランティア）
- PLAY OF GAME（ゲーム研究）
- Rachien Family（イベント）
- HoT（ハンドボール）
- Shaft（バドミントン）
- Turtle Caravan（映像作品・写真撮影）
- こども応援丸 文教支部（学習支援）
- Vanksy（マイナースポーツ）
- Calme（ソフトテニス）
- ホビーデザイン企画制作会（ボードゲーム）

旗の台キャンパス

所在地	東京都品川区旗の台3-2-17
主な交通手段	東急大井町線・池上線「旗の台」駅下車
設置学校等	○文教大学付属高等学校 ○文教大学付属中学校 ○文教大学付属幼稚園

キャンパスの概要



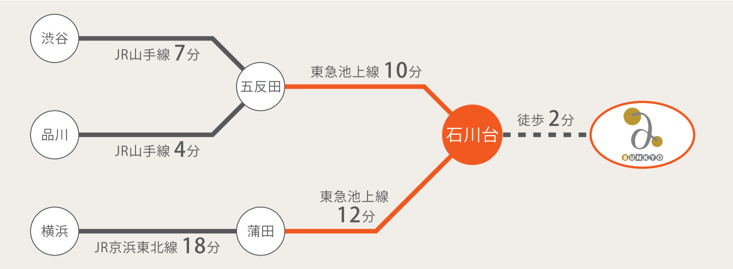
運動施設の概要	▶体育館（アリーナ1,030㎡／温水プール617㎡／トレーニングルーム98㎡） ▶屋内運動場（講堂563㎡）　▶柔道場（北棟3F 198㎡） ▶中高外庭運動場（人工芝他1,477㎡）　▶グラウンド（人工芝他1,743㎡） ▶幼稚園園庭（人工芝他643㎡）

課外活動の状況

文教大学付属中学校・高等学校	白蓉会（生徒会）活動として、体育・学術・芸術・芸能・同好会の5ブロックに分かれて活動しているほか、地域のゴミ拾い・上野公園迷子係等のボランティア活動にも力を入れています。旗の台体育館（アリーナ・屋内プール・グラウンド等）・外庭のほか、多摩川河川敷や駒沢オリンピック公園総合運動場等校外の施設も利用して活動しています。
文教大学付属幼稚園	文教大学付属幼稚園での課外活動は、任意参加で、①スポーツクラブ（年中、年長対象）②モダンバレエ（全園児対象）③水泳クラブ（年中、年長対象）④文教幼児教室（年中、年長対象）を行っています。

石川台キャンパス	所在地	東京都大田区東雪谷2-3-12
	主な交通手段	東急池上線「石川台」駅下車
	設置学校等	○文教大学付属小学校

キャンパスの概要



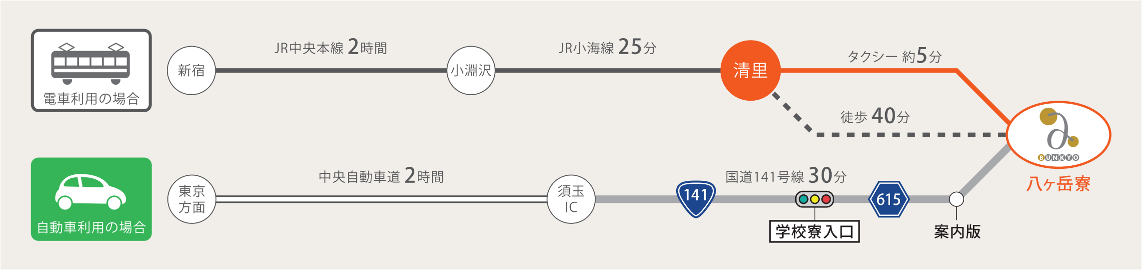
運動施設の概要	▶屋内運動場（講堂375㎡）▶第一運動場（人工芝等1,602㎡）▶第二運動場（全天候型862㎡）

課外活動の状況

新型コロナウイルスの影響により中止

八ヶ岳寮	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545
	主な交通手段	JR 小海線「清里」駅下車

八ヶ岳寮の概要



施設の概要	▶研修室（20人用3室 合計111㎡）▶宿泊室（10畳10室 合計302㎡） ▶宿泊室（8畳3室 合計72㎡）▶食堂（収容数100人159㎡） ▶建物面積1,728㎡ ▶敷地面積26,464㎡

［7］学生等納付金に関する情報

文教大学

2020年度学納金一覧

学部・学科・課程			入　学　金	授　業　料	教育充実費	実験実習費
教育学部	学校教育課程	1年次	280,000円	837,000円	270,000円	―
		2年次	―	849,000円		
		3年次	―	861,000円		
		4年次	―	855,000円		
	発達教育課程	1年次	280,000円	837,000円		
	心理教育課程	2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
人間科学部	人間科学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	―
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	臨床心理学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	心理学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
文学部	日本語日本文学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	―
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	英米語英米文学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	中国語中国文学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	外国語学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	160,000円
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
情報学部	情報システム学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	―
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	情報社会学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	メディア表現学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
国際学部	国際理解学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	―
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
	国際観光学科	1年次	280,000円	762,000円		
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		
健康栄養学部	管理栄養学科	1年次	280,000円	832,000円	270,000円	130,000円
		2年次	―	824,000円		
		3年次	―	836,000円		
		4年次	―	830,000円		
経営学部	経営学科	1年次	280,000円	762,000円	270,000円	―
		2年次	―	754,000円		
		3年次	―	766,000円		
		4年次	―	760,000円		

※授業料は、分納を認めております。※別科生及び別科修了生は、入学金180,000円。※付属高校生（推薦・対象学力入試）は、入学金半額免除。※編入生及び再入学生の学納金は、以下のとおりとする。●入学金は、再入学を許可された年度と同額とする。●授業料、教育充実費及び実験実習費は、入学を許可された学年と同額とする。※実験実習費は在籍5年目以降は徴収しない。（ただし、4年間の在学期間を満たしていること）

その他の費用徴収　（免許状等の取得に必要な費用）

※各費用（課程履修費、教育実習費等）の納入時期は、当該費用が必要となる年次に納入。

教育学部

学校教育課程

【2019年以前の入学者】

卒業要件で取得することができる教育職員免許状（正免）のほかに、必要な単位の修得によって取得することができる教育職員免許状（副免〔タテ副免・ヨコ副免〕）があります。

〈正免〉

所属専修（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語）

◇小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状の取得

所属専修（特別支援教育）

◇小学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状〔知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する領域〕の取得

〈副免〉

タテ副免

正免に加えて、所属専修教科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

ヨコ副免

正免及びタテ副免に加えて、所属専修教科以外の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状の取得

※ヨコ副免は、所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。

正免及び副免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【正免】	課程履修費	介護等体験費用
小学校一種 中学校二種＊1（所属専修教科） 特別支援学校一種＊2	―＊3	15,000円＊4

＊1）国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が取得できる免許です。＊2）特別支援学校一種免許状（知的・肢体不自由・病弱）は、特別支援教育専修の学生が取得できる免許です。＊3）正免に係る課程履修費は、必要ありません。＊4）国語専修、社会専修、数学専修、理科専修、音楽専修、美術専修、体育専修、家庭専修及び英語専修の学生が必要となる費用です。特別支援教育専修の学生は、必要ありません。

免許種類【副免】	課程履修費	介護等体験費用
タテ副免	20,000円	―
ヨコ副免	20,000円	
タテ副免及びヨコ副免	40,000円	

※介護等体験費用は、正免取得のために納入するので必要ありません。

【2020年以降の入学者】

学校教育課程の卒業要件を満たしたうえで、「教育職員免許法施行規則」に定める指定科目及び「教育実践に関する科目」を修得すると、教育職員免許状〔自専修免・他専修免〕の取得に必要な要件を満たすことができます。

〈自専修免〉

所属専修（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・体育・家庭・英語）

◇小学校教諭一種免許状＊1

◇中学校教諭一種免許状「所属専修教科」＊2

◇高等学校教諭一種免許状「所属専修教科」＊2

〈他専修免〉

◇中学校教諭一種免許状「所属専修教科以外の1教科」＊3

◇高等学校教諭一種免許状「所属専修教科以外の1教科」＊3

自専修免及び他専修免の取得に係る費用は、次のとおりです。

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費
小学校一種	―＊4	30,000円	15,000円
中学校一種「所属専修教科」 高等学校一種「所属専修教科」		20,000円	

免許種類【他専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費
中学校一種「所属専修教科以外の1教科」 高等学校一種「所属専修教科以外の1教科」	20,000円	―＊5	―＊5

＊1）卒業の要件に加え、所定の科目の単位を修得することによって取得できます。＊2）小免に加えて、所属専修で取得できる免許状です。＊3）「他専修免」については、２年次から４年次の３年間に自分の所属する専修の卒業に必要な科目の時間割を組んだ後、空いた時間で取得に必要な指定科目を履修していくため、在学中に免許状取得に必要な科目の全てを履修することができない場合があります。＊4）自専修免に係る課程履修費は、必要ありません ＊5）教育実習費及び介護等体験費は、自専修免取得のために納入するため必要ありません

心理教育課程

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費、教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈児童心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種	20,000円	30,000円	―
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円＊1	15,000円＊2

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	教育実習費
幼稚園一種	20,000円	30,000円
幼稚園一種 小学校一種	110,000円	60,000円＊1

＊1）幼稚園一種及び小学校一種の免許を取得する場合、幼稚園及び小学校の2校で教育実習を行います。教育実習費は、1校種につき、30,000円です。＊2）小学校一種免許取得者のみ納入が必要となる費用です。

保育士資格取得に必要な科目の課程履修費・保育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

〈幼児心理教育コース〉

免許種類	課程履修費	保育実習Ⅰ 施設実習費	保育実習Ⅰ・Ⅱ 保育所実習費
保育士資格	20,000円	20,000円	30,000円

発達教育課程

発達教育課程の卒業要件を満たしたうえで、「教育職員免許法施行規則」に定める指定科目及び「教育実践に関する科目」を修得すると、教育職員免許状〔自専修免・他専修免〕の取得に必要な要件を満たすことができます

〈特別支援教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費
小学校教諭一種 特別支援学校一種 （知的障害者・肢体不自由者・病弱者に関する）	―＊1	50,000円	―＊2

〈初等連携教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種 小学校一種	―＊1	50,000円	15,000円

〈児童心理教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
小学校一種	―＊1	30,000円	15,000円

〈幼児心理教育専修〉

免許種類【自専修免】	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
幼稚園一種	―＊1	30,000円	―＊2
保育士資格		20,000円 ＊3 30,000円 ＊4	

〈4専修共通〉

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
他専修免	20,000円	―＊5	―＊5

＊1）自専修免に係る課程履修費は、必要ありません。＊2）特別支援教育専修及び幼児心理教育専修の学生は、介護等体験費は不要です。＊3）保育実習Ⅰ施設実習費です。＊4）保育実習Ⅰ・Ⅱ保育所実習費です。＊5）教育実習費及び介護等体験費は、自専修免取得のために納入するため必要ありません。

人間科学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

人間科学科／臨床心理学科／心理学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用	福祉実習費
中学校一種（社会） 高等学校一種（公民）	20,000円	25,000円	15,000円	―
中学校一種（社会） 高等学校一種（公民・福祉）			―	19,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	15,000円	―

※高等学校（福祉）及び特別支援学校一種の免許取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格を取得しようとする場合の諸費用は、次のとおりです。

資格種類	福祉実習費
社会福祉士	40,000円
精神保健福祉士	

※「社会福祉士国家試験受験資格」取得を希望される方で児童相談所での実習を追加で希望される場合、別途18,000円の費用が必要となります。

文学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

日本語日本文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種（国語） 高等学校一種（国語）	20,000円	25,000円	15,000円
高等学校一種（書道）			―＊1
中学校一種（国語） 高等学校一種（国語） 高等学校一種（書道）			15,000円
中学校一種（国語） 高等学校一種（国語） 中学校二種（英語）	40,000円		
小学校一種	110,000円	30,000円	

＊1）高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

英米語英米文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種（英語） 高等学校一種（英語）	20,000円	25,000円	15,000円
小学校一種	110,000円	30,000円	

中国語中国文学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種（中国語） 高等学校一種（中国語）	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種（国語） 高等学校一種（国語）			
高等学校一種（書道）			―＊1
中学校一種（中国語） 高等学校一種（中国語） 中学校二種（国語）	40,000円		15,000円
中学校一種（中国語） 高等学校一種（中国語） 中学校二種（英語）			
小学校一種	110,000円	30,000円	

＊1）高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

外国語学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種（英語） 高等学校一種（英語）	20,000円	25,000円	15,000円

日本語教員養成コースを履修する場合の諸費用は、次のとおりです。

資格名	登録費	日本語教育実習費
日本語教員養成コース 「1級（主専攻）」または 「2級（副専攻）」「2級」	10,000円	20,000円

情報学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

情報システム学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種（情報）	20,000円	20,000円	―＊2
中学校一種（数学）＊1 高等学校一種（数学）＊1		25,000円	15,000円
高等学校一種（情報） 中学校一種（数学） 高等学校一種（数学）			

情報社会学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種（情報）	20,000円	20,000円	―＊2

メディア表現学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種（情報）	20,000円	20,000円	―＊2

＊1）情報社会学科、メディア表現学科の学生が中学校・高等学校一種（数学）の免許状を追加取得する場合は、他学科受講として別途に当該課程履修費が必要になります。また、中学校の教員免許状の取得のため、実習期間が長くなることにより、教育実習費は25,000円となります。＊2）高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

国際学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

国際理解学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
中学校一種（英語） 高等学校一種（英語）	20,000円	25,000円	15,000円
中学校一種（社会） 高等学校一種（公民）			

健康栄養学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

管理栄養学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
栄養教諭一種	6,000円	15,000円	―

経営学部

教職課程を履修する場合の免許状取得に必要な科目の課程履修費・教育実習に係る諸費用は、次のとおりです。

経営学科

免許種類	課程履修費	教育実習費	介護等体験費用
高等学校一種（商業）	20,000円	20,000円	―＊1

＊1）高等学校教諭免許のみの取得の場合は、介護等体験費用は必要ありません。

その他

教員免許状授与の一括申請について

一括申請とは、大学が免許状取得有資格者をとりまとめて、大学が所在する都道府県の教育委員会へ免許状の授与申請をすることです。一括申請諸費用は、一免許状につき次のとおりです。

対象学生	申請先	一括申請諸費用
越谷キャンパスの学生	埼玉県教育委員会	3,500円
湘南キャンパスの学生	神奈川県教育委員会	

※栄養教諭一種の免許状は、大学による一括申請を実施していません。

学校図書館司書教諭課程

教育学部、人間科学部、文学部、言語文化研究科、教育学研究科及び教育専攻科の学生が学校図書館司書教諭課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
学校図書館司書教諭	10,000円

図書館司書課程

人間科学部及び文学部の学生が図書館司書課程を履修する場合の課程履修費は、次のとおりです。

免許種類	課程履修費
図書館司書	28,000円

文教大学大学院・専攻科

2020年度学納金一覧

研究科等		入学金	授業料	教育充実費
人間科学研究科（博士後期課程）	1年次	280,000円	626,000円	100,000円
	2年次	―	612,000円	
	3年次	―	612,000円	
人間科学研究科（修士課程）	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
言語文化研究科（博士後期課程）	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
	3年次	―	612,000円	
言語文化研究科（修士課程）	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
情報学研究科	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
国際学研究科	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
教育学研究科	1年次	280,000円	626,000円	
	2年次	―	612,000円	
専攻科 教育専攻科	―	250,000円	634,000円	

※授業料は分納を認めています。※文教大学卒業生の入学金は、大学院では半額免除、専攻科では全額免除。
※教育学研究科に現職教員が在籍する場合の金額は別に定める。
※博士後期課程について、当該課程の修了に必要な所定の単位を修得している者が、標準修業年限を超えて在学する場合の授業料は300,000円。（半期150,000円）

その他の費用徴収

免許状上進について

言語文化研究科及び教育学研究科の学生が、専修免許状を取得する場合、その免許状の種類・教科と同じ一種免許状を所有していなければなりません。二種免許状所有者の場合、言語文化研究科の学生は文学部で、教育学研究科の学生は教育学部で科目を履修することで、専修免許状を取得することができます。文学部又は教育学部の科目を履修する場合の費用は、次のとおりです。

学部科目聴講費用
1単位につき、3,500円

博士論文審査料

博士論文の提出時には、以下のとおり論文審査料を納めなければなりません。

種別	授業料	論文審査料
課程博士	本大学院博士後期課程学生（在学中に論文を提出した場合）	免除
論文博士	本大学院の博士後期課程に3年以上在籍し、所要の授業科目を16単位以上修得し、かつ、博士論文の作成等に対する指導を受けた後退学した者	100,000円
	上記以外の者	200,000円

減免制度

文教大学大学院私費外国人留学生の学納金減免制度

対　象	・大学院の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生（国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く）であること。 ・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。 ① 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者 ② 文教大学大学院学則に基づく標準修業年限を超えて在籍している者 ③ 当該年度に休学（半期休学含む）している者 ④ 研究・学業成績、学習態度又は生活態度が不良と認められる者
採用人数	計21人（2020年度実績）
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類 【申請時期】 6月頃 【申請場所】 国際交流センター国際交流室 （越谷オフィス・湘南オフィス）

文教大学私費外国人留学生の学納金減免制度

対　象	・学部の正規課程に在学し、在留資格「留学」を有する私費外国人留学生（国費留学生及び政府派遣外国人留学生を除く）であること。 ・人物、学業ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難と認められる者とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は対象から除外する。 ① 2019年度までの標準修得単位数を満たしていない者 ② 文教大学私費外国人留学生に対する奨学金の給付を受けている者 ③ 本学を通じて採用された学外の奨学金で、当該年度の授業料減免額以上の給付を受けている者 ④ 留年した者。ただし、病気その他やむを得ない事由により留年した者は除く。 ⑤ 当該年度に休学（半期休学含む）している者
採用人数	計21人（2020年度実績）
減免額	授業料年額の30%を限度とした額
申請手続等	【申請書類】 ① 授業料減免申請書 ② その他指示された書類 【申請時期】 6月頃 【申請場所】 国際交流センター国際交流室 （越谷オフィス・湘南オフィス）

付属学校

学納金一覧

	授業料		入学金		その他の費用徴収	
付属高等学校	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
	420,000円	5月28日 8月28日 11月30日	280,000円	2月12日 ～ 2月26日	170,000円	5月28日
	【その他の費用の内訳】維持費（170,000円）					
付属中学校	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
	420,000円	5月28日 8月28日 11月30日	280,000円	2月1日 ～ 2月10日	170,000円	5月28日
	【その他の費用の内訳】維持費（170,000円）					
付属小学校	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
	1年生 480,000円	毎月納入 40,000円	200,000円	第1回 11月10日・11月11日 第2回 11月24日・11月25日	140,000円	4月27日
	2～4年生 444,000円	毎月納入 37,000円				
	5～6年生 408,000円	毎月納入 34,000円				
	【その他の費用の内訳】維持費（140,000円）					
付属幼稚園	金額	納入時期	金額	納入時期	金額	納入時期
	ひよこ 384,000円	毎月納入 32,000円	3年保育 150,000円	11月5日	80,000円	4月27日
	梅・松 348,000円	毎月納入 29,000円	2年保育 120,000円			
	【その他の費用の内訳】維持費（冷暖房費を含む）（60,000円）、教材費（20,000円）					

[8]学生等支援と奨学金に関する情報

学生等支援組織

文教大学

	組織名	機能
就職支援	キャリア支援課	就職や進学に関する個別相談、学生が描く目標を実現するための具体的なプログラム作成、スケジュールに沿った着実な就職活動サポート
進学支援		
履修支援	教務課・学生課（越谷キャンパス） 教育支援課（湘南キャンパス）	授業支援、試験運営、証明書発行、各種実習対応、学籍管理、課外活動支援、奨学金対応、拾得物管理、アルバイト紹介
生活支援（住居、アルバイト等）		
経済支援		
学生生活全般の相談	学生支援室	学生生活全般の相談
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健センター（医務室・相談室）	医務室：病気やけがの応急処置、日常の健康管理に関する相談 相談室：専門のカウンセラーによる悩みや不安等の相談

文教大学付属高等学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導部	進路指導、進学情報提供、キャリア教育
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習、文教ステーションとの連携
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学付属中学校

	組織名	機能
学習支援	学習指導部	シラバス作成、講習、文教ステーションとの連携
保健・衛生・メンタルヘルス等	保健室・教育相談室	生徒の心身のケア、人間関係作り支援

文教大学付属小学校

	組織名	機能
進学支援	進路指導委員会（高学年部会）	個別の面談による聞き取りと、それをもとにした委員会の話し合いと調整
保健・衛生・メンタルヘルス等	養護教諭を中心に全教員で連携	「からだから」の月一回の発行、学期ごとの発育測定等

文教大学付属幼稚園

	機能
進学支援	国立・私立小学校受験に向けた担任及び園長による保護者の要望に応じたアドバイス、文教幼児教室担当講師による特別講演の実施
保健・衛生・メンタルヘルス等	特別支援を必要とする園児への園・保護者・品川区教育委員会との連携による適切な対応

奨学金

文教大学

文教大学奨学金

対　　象	勉学の意欲を持ちながら、経済的な理由で修学に支障をきたしている学生（1〜4年生）
出願資格	以下を全て満たしていること ① 勉学の意欲を持ち、成績基準を満たしている者 （ただし、1年生は成績基準なし） ② 学費の支払いが困難な者
採用人数	計221人（2020年度実績）
金　　額	授業料の全額又は一部（2020年度実績）
申込手続等	【必要書類】 ① 文教大学奨学金願書 ② 所得関係書類 【出願時期】　9月頃 【出願場所】 越谷キャンパス： 湘南キャンパス：指定送付先へ郵送

文教大学緊急特別奨学金

対　　象	大学1〜4 年生
出願資格	下記の要件を全て満たす者 ① 修学の意思があるが、家計急変*により最終延納期限までに学納金が納入できない者 ② 日本学生支援機構等の奨学金を貸与中の者又は同機構の緊急採用（1種）応急採用（2種）の奨学金いずれかを希望する者 ③ 文教大学奨学金の受給者は、給付額が授業料の半額以下の者（春学期）又は給付額が授業料の全額以外の者（秋学期） ④ 標準修得単位数を満たしている者
採用人数	0人（2020年度実績）
金　　額	授業料の半額（半期分）を上限とする。 ただし、採用は在学中に一度限り。

*対象となる家計急変の事由
●主たる家計支持者が死亡　●主たる家計支持者が失職・退職　●主たる家計支持者が経営不振
●主たる家計支持者が破産　●主たる家計支持者が倒産　●主たる家計支持者が離別
●主たる家計支持者が病気　●主たる家計支持者の自宅住居が全壊（焼）・半壊（焼）

文教大学学業成績優秀者奨励金

対　　象	本学の学部に在籍し、本学において2019年度の成績評価を受けた学生（ただし、研究生・委託生・聴講生・専攻科生及び科目等履修生は含まない。）で、2019年度までに当該学年の標準修得単位数以上を修得し、成績評価においてGPAの値が最上位の者が対象となります。 ※最上位の者が全国入試特待生に該当した場合は、当該特待生を除いた最上位の者を対象とします。 ※GPAの値が同じ者が複数いた場合は、2019年度の修得単位数が多い者を対象とします。また、GPA及び修得単位数とも同じだった場合は、複数を最上位者とします。
採用人数	51人〔越谷：30人／湘南：21人〕（2020年度実績） ※各学科・課程の2〜4年生から、最上位の者1人（学校教育課程は、各学年の最上位から2人）
金　　額	奨学金の給付額は、年間授業料の15％以内を上限とし、毎年度、学生委員会で給付額を決定します。

文教大学私費外国人留学生に対する奨学金

対　　象	文教大学私費外国人留学生（2〜4年生） ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に、他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀、かつ、修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事（ボランティア等）に参加すること。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	26人〔越谷：9人／湘南：17人〕（2020年度実績）
金　　額	月額30,000円
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書（奨学金希望の理由、将来の希望等を記入します。） ② その他必要とされる書類 【出願時期】　4月中旬〜下旬 【出願場所】 越谷キャンパス：国際交流センター国際交流室（越谷オフィス） 湘南キャンパス：国際交流センター国際交流室（湘南オフィス）

文教大学外国人留学生別科奨学金

対　　象	文教大学外国人留学生別科生
出願資格	下記の条件を全て満たした者で、クラス担任が推薦する者 ① 修了が見込まれ、本学の学部、大学院のいずれかに進学をする者 ② 学習態度が良く、学業優秀な者 ③ 学校行事参加等での積極性が認められる者
採用人数	4人（2020年度実績）
金　　額	授業料の全額または一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】　奨学金申請書 【出願時期】　1月頃 【出願場所】　越谷キャンパス：国際交流センター国際交流室（越谷オフィス）

文教大学私費外国人留学生特待生制度

対　　象	外国人留学生入学試験合格者の中から選考 ※ただし、留学生指定校推薦入学試験・留学生編入学試験・留学生別科推薦入学試験の合格者を除く。
対象学部	文学部・情報学部・国際学部・経営学部
採用人数	2人（2020年度実績）
金　　額	入学金免除と月額30,000円（入学年度1年間限り） ※留学生特待生に採用された場合、当該年度は本学奨学金には出願できません。

文教大学大学院

文教大学大学院奨学金

対　象	大学院全研究科学生 春募集:2年生以上のみ　秋募集:1年生のみ
出願資格	大学院全研究科在学生のうち、人物、学力共に優秀で、健康であり、学資の支弁が困難であると認められる者 ※ただし当該年度に他の給付される奨学金の受給を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
採用人数	8人（2020年度実績） 春募集7人〔越谷:5人／湘南:2人〕秋募集1人〔越谷:1人／湘南:0人〕
金　額	授業料の全額又は一部に相当する金額
申込手続等	【必要書類】 ① 奨学金願書 ② 本人及び配偶者の収入を証明する書類 ③ 成績を証明する書類 ④ その他、募集説明会において指示された書類 【出願時期】　春募集:4月　秋募集:10月 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口

文教大学大学院私費外国人留学生奨学金

対　象	文教大学大学院私費外国人留学生 ※国費留学生及び政府派遣留学生は除く。 ※当該年度に他団体から給付される奨学金を受けている者又は受ける予定の者は、原則として除く。
出願資格	出願者の中から成績が優秀で、かつ修学のために経済的援助が必要と認められる者
付帯事項	奨学生に採用された学生は、積極的に大学の行事（ボランティア等）に参加することが義務付けられています。違反した場合は、次年度の奨学金出願資格を失います。
採用人数	22人〔越谷:13人／湘南:9人〕（2020年度実績）
金　額	授業料の一部
申込手続等	【必要書類】 ① 申請書 ② その他、必要とされる書類 【出願時期】　9月 【出願場所】 越谷キャンパス:国際交流センター国際交流室（越谷オフィス） 湘南キャンパス:国際交流センター国際交流室（湘南オフィス）

その他の奨学金

独立行政法人日本学生支援機構法に基づいて施行されている奨学金のほか、地方公共団体（都道府県市区町村）・民間育英団体その他の奨学金があります。
募集時期、奨学金の月額、給付・貸与種別は、多岐にわたります。

チャレンジ育英制度

企画奨励	
出願資格	下記の「Ⅰ」及び「Ⅱ」の事項に該当する企画を対象とする。（ただし、クラブ・サークルの活動は除く） Ⅰ. 下記の全ての事項に当てはまること。 ①本学（文教大学（専攻科・別科含む）・文教大学大学院）の学生または本学の学生で構成する団体が実施する活動。 ②育英金を援助することにより、更に高いレベルの結果が期待できる活動。 ③学生又は団体が自ら発案した、自主的な活動であること。 ④4年生の出願については、卒業論文等と関連のないもの。 ⑤大学が実施する他の支援制度等に採用されていないこと。 ⑥原則として下記「活動時期」の期間内に完結し、結果を報告できる活動であること。 Ⅱ. 上記Ⅰの条件を満たし、かつ以下のいずれかに当てはまること。 ①独創性溢れる、ユニークな企画であること。 ②活動の結果が地域並びに社会への還元を期待できること。 ③文教大学の名を世に広めることができる。文教大学のブランド向上に寄与できること。 ④その他、選考委員会が承認した活動。 ≪注意≫ ●過去に採用された企画と類似する企画の場合、企画の"発展性"が必要です。また、出願者が違う場合であっても、同一グループとみなすことがあります。 ●1人が複数の企画に出願することができません。ただし、共同実施者として参加することは可能です。 ●活動に関する事前打ち合わせ等での飲食費は活動予算及び収支報告の対象外となります。（実際の活動に伴う食材費は除く） ●当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。
給付件数	各校舎10件以内（2020年度実績:0件）※コロナ禍の影響
給付額	個人、団体を問わず1件あたり20万円以内
活動時期及び活動報告	出願できる活動は、下記の期間に実施される活動とする。活動期間は出願年度の4月1日～1月31日とし、活動終了後、速やかに報告書を提出しなければならない。
申込手続等	【必要書類】 ① チャレンジ育英制度企画奨励応募用紙 ② 企画書（任意の書式） ③ 共同実施者名簿（該当者のみ提出） ④ 活動予算計画書 ⑤ 誓約書 ⑥ その他添付書類 【出願時期】　5月 【出願場所】 越谷キャンパス:学生課窓口 湘南キャンパス:教育支援課窓口 【活動終了後に提出するもの】 ① 活動結果報告書 ② 収支報告書 ③ 計画を遂行したことが分かる資料等

論文奨励	
出願資格	本学等（文教大学（専攻科・別科含む）・文教大学大学院）の学生であること。 ※ただし、当該年度に休学している者又は休学・退学する予定の者は出願できません。
給付件数及び育英金の給付額	8件（2020年度実績） ① 最優秀賞：10万円（0件） ② 優秀賞：5万円（1件） ③ 佳作：2万円（3件） ④ 努力賞：5千円（4件）
課題テーマ（2020年度）	〈越谷キャンパスの学生〉 下記①～④の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述してください。 ① 文教大学への提言 ② 新型コロナウイルス感染拡大の中で考えたこと ③「9月入学制度」に移行するために必要な方法とは ④ 対面指導・接触制限下における学校教育の意義 ※複数の課題に出願することはできません。 〈湘南キャンパスの学生〉 下記①～⑥の課題から1つを選択し、5,000字程度で論述してください。 ① 文教大学建学の精神「人間愛」について ② 文教大学内の課題とその解決方法 ③ コロナ感染防止のための「ヒト」の移動制限措置について ④ コロナ禍における健康管理について ⑤ 市町村の感染症対策について ⑥ オンライン授業の経験を通じた新たな学びのあり方の提案について ※複数の課題に出願することはできません。 【両キャンパス学生に共通する事項】 ※未発表の論文に限ります。 ※卒業年次生については、研究論文（卒業論文）と類似のものは認めません。
申込手続等	【出願書類】 ① チャレンジ育英制度応募用紙 ② 論文（印刷されたもの） ③ 論文（USBメモリー等に記録したもの） ④ 誓約書 【出願時期】　9月 【出願場所】 越谷キャンパス：学生課窓口 湘南キャンパス：教育支援課窓口

［1］文教大学学園

ガバナンス

2020年度の文教大学学園の役員は、理事16名（うち非常勤理事5名）、監事2名（いずれも非常勤）で構成しています。2020年度に開催した理事会（全14回）のうち役員の欠席は、校務もしくは病気療養によるもの以外はなく、1年間を通じて高い理事会出席率（98.2%）を維持しています。また、やむを得ない理由で理事本人が理事会に出席できない場合には、「意思表示書」を以って議案ごとに「賛否」を明確にするようにしています。「学校法人文教大学学園寄附行為」に則り、全ての役員には理事会開催7日前までにあらかじめ議題と資料を配付し、万一、本人が直接出席できない場合でも、できる限り全ての役員の意思が、より明確に各議案に反映できるように配慮した運営を行っています。

また、2020年4月から施行の私立学校法の一部改正にあわせて、2019年度第10回理事会（臨時第2回）及び第2回評議員会（臨時第1回）にて、本学園寄附行為の変更を審議・決定しました。2020年度は、私立学校法改正の趣旨を踏まえた「学校法人のガバナンス体制の強化」を図るべく、変更後の本学園寄附行為に則して、理事会運営の見直しや各種学内手続きの整備等を進めました。なお、2020年度に締結した役員との責任限定契約及び保険会社との役員賠償責任保険契約の詳細については以下のとおりです。

ア.責任限定契約

私立学校法に従い、2020年4月1日より責任限定契約を締結しました。

- 対象役員の氏名
  非業務執行理事（土屋隆英氏、浜脇麻起子氏、若松豊樹氏）
  監事（佐藤善吉氏、大内康裕氏）
- 契約内容の概要
  非業務執行理事及び監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金120万円と、役員報酬の2年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。
- 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置
  契約の内容に、役員がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の定めがある。

イ.役員賠償責任保険契約

2020年4月1日より、下記保険会社の役員賠償責任保険に加入しました。

- 団体契約者　東京海上日動火災保険株式会社
- 被保険者　記名法人…学校法人 文教大学学園
  個人被保険者…理事・監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員
- 補償内容
  （1）役員（個人被保険者）に関する補償
  法律上の損害賠償請求対応費用、公的調査等対応費用、刑事手続対応費用等
  （2）記名法人に関する補償
  法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用、提訴請求対応費用等
- 支払い対象とならない主な場合（職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置）
  法令違反の認識がありながら行った行為等
- 保険期間中総支払限度額 5億円

情報公開

文教大学学園は、2011年4月1日から「学校法人文教大学学園情報公開規程」を制定・施行しました。これは、学園が公教育の担い手として、学校法人の運営や教育研究の諸事業等の社会的説明責任を果たす必要があることに鑑み、体制を整えて事業を展開していくために、学園が保有する情報の公開等について必要な手続を定めたものです。2020年4月から施行の私立学校法の一部改正を受けて、新たに「学校法人文教大学学園役員の俸給・報酬等に関する規程・取扱細則」を公開するために、2019年度第14回理事会（臨時第3回）にて内容の変更を審議・決定いたしました。

また、事業計画書及び事業報告書については、例年に引き続き記載内容、形式の充実を図っています。事業計画書は当該年度における学園の事業や大学・各付属学校の教育目標、教育研究活動計画を中心とする内容とし、学園・大学のホームページ等で公表しています。事業報告書は、策定した事業計画に対する報告を中心とする内容とし事業計画書との連動を確保していくことに加え、教育研究・管理運営の概要や財務状況等について詳細に記載することで、説明履行責任の主軸としています。

学校法人運営の透明性の向上を目指し、主に学園・大学のホームページ、事業計画書及び事業報告書を通じて、教育研究活動に関する情報や財務情報をこれからも積極的に公表してまいります。

施設設備整備

学園では、時代に適合した教育・研究環境の整備を図るため、各キャンパスにおいて整備事業を進めるとともに、老朽施設についても教育・研究活動に支障をきたすことのないよう、計画的な修繕工事を行っています。

［2］文教大学・大学院

ガバナンス

〈大学審議会・大学院委員会〉

大学の意思決定に係る審議機構として、学長、副学長、学部長、学部選出委員、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学審議会を設置しています。大学審議会は、大学の教育研究の基本方針に関する事項のほか、学則、大学組織、教員人事に関わる重要事項等を審議し、大学の意思を決定します。2020年度は、11回の審議会を開催しました。

大学院に関わる事項については、学長、副学長、研究科長、学部長、専攻長、大学事務局長及び両キャンパス事務局長による大学院委員会を同様に設置しています。大学院委員会は、2020年度に6回開催しました。

委員会：

学部横断的な事項に取り組むための教学運営上の組織として、次のとおりキャンパスごとに委員会を設置しています。

〈学生委員会〉

学生の厚生補導、学外活動の指導援助、学生の福利厚生に関すること。

〈教務委員会〉

各学部に共通する教育課程の重要事項に関すること。

〈就職委員会〉

学生の就職及び進路指導に関すること。

〈ハラスメント防止委員会〉

ハラスメント防止及び解決に関すること。

〈学長戦略会議〉

上記委員会の委員長（ハラスメント防止委員長を除く）と点検・評価委員長、国際交流センター長、学長、副学長、図書館長、大学事務局長及びキャンパス事務局長により、学長戦略会議を設置しており、学長の補佐機関として教学に関する企画及び立案、連絡調整等を行っています。学長戦略会議は、2020年度に11回開催しました。

自己点検・評価

学長直轄の委員会として点検・評価委員会が設置されており、担当の学長補佐を委員長に、各学部からの選出委員、キャンパス事務局及び法人事務局から選出された委員で構成されています。2020年度は12回の委員会を開催し、主に内部質保証推進体制について検討しました。

情報公開の推進

大学ホームページで、受験生を始めとした学外の方々が本学の教育情報を簡単に調べることができるように情報の公表に努めています。

また、日本私立学校振興・共済事業団が運用する大学ポートレート(私学版)にも、本学の教育情報の公表をしています。

施設設備整備

施設設備の整備においては、学生の安全・安心を第一義とした各キャンパスの安全性を高める環境整備と教育効果を高める環境整備を二本の柱とし、事業を推進しています。2020年度の具体的な整備事業については、大学の項目に記載しています。

学校法人の目的は、学校を運営して教育・研究を遂行することにあります。教育活動は人材の育成を目的とし、研究活動はその成果を学内に留めることなく、社会に還元することを目的とします。学校法人は、このような特性を踏まえ、永続的に教育研究活動を行えるよう必要な校地、校舎等の基本財産の維持や長期にわたって収入と支出の均衡の状況について確認できるよう、学校法人会計基準に基づき、次の3つの財務諸表を主体として会計処理を行っています。

学校法人会計と企業会計の違いについて	企業会計が営利目的の事業活動とその成果（財政状態）について、収益力を高めること及び利害関係者に開示することを目的としているのに対し、学校法人会計は一般企業よりも高い公共性から、学校経営における教育研究活動の健全性や永続性を開示することを目的としています。

財務諸表	説　明
資金収支計算書	当該会計年度に行った教育研究等の諸活動に対応する全ての資金の収入及び支出の内容と、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。これらを「教育活動による資金収支」「施設整備等活動による資金収支」「その他の活動による資金収支」の3つに区分けした活動区分資金収支計算書をあわせて作成することにより、活動区分ごとの資金の流れが分かります。（予算科目の説明：【収入の部】及び【支出の部】）
事業活動収支計算書	当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにし、事業活動収支の均衡状態が保たれているかどうかを示すもので、学校法人の負債とならない収入と、借入金返済及び施設・設備購入等の資本的支出に充てる額を除いた支出を計上します。これによって、経営状態が健全であるかどうかを判断することができます。また、「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」の3つの区分に分けることで、経常的（教育活動及び教育活動外収支）・臨時的（特別収支）な収支バランスの状況を的確に把握することができます。（予算科目の説明：【事業活動収入の部】及び【事業活動支出の部】）
貸借対照表	一定時点（3月末現在）における資産、負債及び純資産の内容並びに残高を示し、学校法人としての財政状況（ストック）を明らかにするものです。

資金収支計算書

収入の部

科　目	説　明
学生生徒等納付金収入	授業料、入学金、教育充実費（維持管理費）等、学生生徒等が納入する学費
手数料収入	主に入学検定料等の受験料
寄付金収入	個人や企業からの金銭による寄付金
補助金収入	教育や研究に対しての国や地方公共団体からの助成金
資産売却収入	主に保有する有価証券の満期償還や資産を売却したことで得る収入
付随事業・収益事業収入	公開講座の受講料や外部機関からの受託研究資金
受取利息・配当金収入	主に預金、債券等を運用して得た利息又は配当金
雑収入	退職金財団等からの交付金や前年度以前に計上した収入又は支出の修正による資金収入等
借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団又は銀行等からの借入金
前受金収入	主に新入生の入学手続き時に受け取る学納金
その他の収入	当年度に入金される「前期末未収入金収入」等

支出の部

科　目	説　明
人件費支出	教職員の給与及び退職金並びに日本私立学校振興・共済事業団、退職金財団等の掛金
教育研究経費支出	教育研究、奨学金及び学生生活を支援するために要する費用
管理経費支出	学生の募集活動や事務管理費等の教育に直接関係のない費用
借入金等利息支出	借入金に伴う利息
借入金等返済支出	借入金元本部分の返済
施設関係支出	土地、建物、構築物等の固定資産取得のための支出
設備関係支出	機器備品、図書、車両等の固定資産取得のための支出
資産運用支出	将来の固定資産を取得するための準備金や特定事業目的のための基金等への繰入支出
その他の支出	当年度に支払われる「前期末未払金支払支出」等

事業活動収支計算書

※事業活動収支計算書特有の科目を掲載。

事業活動収入の部

科　目	説　明	区 分
寄付金	資金収支計算書の寄付金に加え、現物寄付を計上	教育活動特別
資産売却差額	保有していた資産の額（帳簿価額）以上で売却した時の差額分	特別

事業活動支出の部

科　目	説　明	区 分
人件費（退職給与引当金繰入額）	資金収支計算書では人件費支出の中に退職金支出が含まれていますが、事業活動収支計算書では教職員人件費のほかに退職給与引当金繰入額という科目があります。これは当該年度末に在職する教職員全員の退職金から、一定額を引当金として確保するため、前年度末の引当金計上額との差額（不足額）を追加的に繰り入れるものです。	教育活動
教育研究経費（減価償却額） 管理経費（減価償却額）	資金収支計算書に掲載されている科目以外に、減価償却額が計上されています。減価償却とは、時間の経過により老朽化することで価値が減少する固定資産（校舎・機器備品）について、資産としての価値を減少させるための手続をいいます。実際に資金を伴う支出がある訳ではありませんが、取得した建物等の資産を活用して教育・研究を行っている実態から、使用期間に応じて取得価額を合理的に配分して毎年費用化します。	教育活動
資産処分差額	保有していた資産の額（帳簿価額）を下回って売却した時の差額分	特別
基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入と事業活動支出の差額で、基本金組入額控除前の金額。これにより、基本金組入前の純粋な収支を把握することができ、単年度における収支バランスを確認することができます。	―
基本金組入額合計	学校法人の諸活動に必要な資産を継続的に維持するために事業活動収支差額から組入れるもので、土地や建物等の施設関係資産の取得額（第1号基本金）、奨学基金への繰入額（第3号基本金）、1ヶ月分の運転資金相当額（第4号基本金）等で構成されます。このうち、基本金組入対象となるのは、自己資金で賄った相当額となります。	―
当年度収支差額	基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を控除した後の差額。収支差額がプラスであれば、資本的支出（基本金組入額）と経費支出の全てが事業活動収入で賄われたことになります。この収支差額の累計が翌年度繰越収支差額です。	―

[1]財産目録

（単位：千円）

区分	2020年度（2021年3月31日現在）		2019年度（2020年3月31日現在）	
一　基本財産				
1 土地	282,188.79 ㎡	12,159,393	282,189.49 ㎡	12,159,393
校舎敷地	200,006.05 ㎡	9,481,823	208,177.04 ㎡	10,354,102
図書館敷地	5,601.13 ㎡	337,295	3,146.61 ㎡	75,245
体育館敷地	5,922.68 ㎡	274,548	4,279.73 ㎡	99,143
運動場敷地	70,658.93 ㎡	2,065,727	66,586.11 ㎡	1,630,904
2 建物	133,220.70 ㎡	21,068,961	109,019.98 ㎡	12,059,183
①校舎	105,687.22 ㎡	15,087,156	90,036.67 ㎡	9,816,367
②図書館	14,226.95 ㎡	3,104,202	8,185.47 ㎡	675,598
③講堂・体育館	10,967.12 ㎡	2,571,991	8,666.68 ㎡	1,338,948
④寄宿舎	1,695.10 ㎡	191,705	1,695.10 ㎡	198,782
⑤その他	644.31 ㎡	113,907	436.06 ㎡	29,488
⑥建設仮勘定		57,728		5,489,587
3 図書	572,318 冊	2,643,085	582,713 冊	2,682,487
4 教具・校具・備品	30,304 点	1,060,236	24,845 点	624,856
5 その他		2,147,892		1,003,237
基本財産計		39,137,294		34,018,743
二　運用財産				
1 現金預金		12,345,918		16,020,506
2 特定資産		2,518,636		2,516,347
3 有価証券		40,095		40,095
4 差入保証金		557		559
5 長期貸付金		0		0
6 短期貸付金		0		0
7 未収入金		458,067		376,157
8 前払金		72,846		85,768
9 その他		1,769		1,752
運用財産計		15,437,888		19,041,224
三　負債額				
1 固定負債		7,524,154		7,925,521
①長期借入金		4,100,000		4,500,000
市中銀行		(4,100,000)		(4,500,000)
②長期未払金		75,266		88,399
③退職給与引当金		3,348,889		3,337,121
2 流動負債		5,127,353		4,381,508
①短期借入金		400,000		400,000
市中銀行		(400,000)		(400,000)
②未払金		1,852,196		1,166,626
③前受金		2,551,492		2,588,444
④預り金		323,664		226,439
負債総額		12,651,507		12,307,029
四　基本財産＋運用財産		54,575,182		53,059,966
五　純資産（四－三）		41,923,676		40,752,937
総負債（三）－前受金 / 総資産（四） ×100		18.5 %		18.0 %

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

［2］収支計算書

資金収支計算書

（単位：千円）

収入の部				前年度比	
科　目	2020年度 予　算	2020年度 決　算	差　異	2019年度 決　算	増　減
学生生徒等納付金収入	10,821,333	10,693,155	128,178	10,841,971	△ 148,816
手数料収入	472,085	423,375	48,710	491,256	△ 67,881
寄付金収入	41,975	48,558	△ 6,583	18,589	29,970
補助金収入	1,372,331	1,611,113	△ 238,782	1,198,769	412,345
（国庫補助金収入）	（743,026）	（963,458）	（△ 220,432）	（550,212）	（413,245）
（地方公共団体補助金収入）	（629,305）	（647,656）	（△ 18,351）	（648,556）	（△ 901）
資産売却収入	77,088	52,283	24,805	27,133	25,150
付随事業・収益事業収入	154,167	57,948	96,219	134,399	△ 76,451
受取利息・配当金収入	14,727	17,723	△ 2,996	14,366	3,357
雑収入	324,549	449,617	△ 125,068	389,485	60,132
借入金等収入	250	0	250	5,200,000	△ 5,200,000
前受金収入	2,708,109	2,550,386	157,723	2,588,422	△ 38,036
その他の収入	390,682	476,746	△ 86,064	217,897	258,849
資金収入調整勘定	△ 2,914,689	△ 3,045,574	130,885	△ 3,084,343	38,768
当年度収入合計	13,462,607	13,335,331	127,276	18,037,945	△ 4,702,614
前年度繰越支払資金	16,020,506	16,020,506	0	14,501,098	1,519,408
収入の部合計	29,483,113	29,355,837	127,276	32,539,044	△ 3,183,207

前年度より約250名の学生生徒数が減少したことで、予算編成時の算出から減少しました。

東京あだちキャンパス建設にあたり、省エネ対策を組み入れた校舎であることから、国のZEB化事業補助金を獲得しました。また、授業料等減免を目的とした国の高等教育修学支援新制度における補助金収入も含まれます。

退職金財団等交付金収入が増加したこと及び東京あだちキャンパス建設にかかる消費税が還付されました。

支出の部				前年度比	
科　目	2020年度 予　算	2020年度 決　算	差　異	2019年度 決　算	増　減
人件費支出	7,675,669	7,506,781	168,888	7,715,424	△ 208,643
教育研究経費支出	2,894,891	2,765,771	129,120	2,405,337	360,434
管理経費支出	1,022,769	829,522	193,247	841,012	△ 11,491
借入金等利息支出	10,686	10,686	0	10,339	347
借入金等返済支出	400,000	400,000	0	300,250	99,750
施設関係支出	6,138,837	5,500,420	638,417	5,117,609	382,811
設備関係支出	856,299	629,379	226,920	197,365	432,014
資産運用支出	82,698	49,557	33,141	40,050	9,508
その他の支出	1,255,553	1,220,359	35,194	1,148,037	72,322
予備費	50,000	0	50,000	0	0
資金支出調整勘定	△ 1,724,597	△ 1,902,556	177,959	△ 1,256,885	△ 645,671
当年度支出合計	18,662,805	17,009,919	1,652,886	16,518,538	491,381
翌年度繰越支払資金	10,820,308	12,345,918	△ 1,525,610	16,020,506	△ 3,674,588
支出の部合計	29,483,113	29,355,837	127,276	32,539,044	△ 3,183,207
当年度収支差額	△ 5,200,198	△ 3,674,588	△ 1,525,610	1,519,408	△ 5,193,995

増加の要因としては、大学の高等教育修学支援新制度による奨学費や新型コロナウイルス感染症対策の物品購入及びオンライン授業学生支援費用によります。
減少の要因としては、学生がキャンパスに滞在していないことによる光熱水費、印刷製本費、また、対外活動における広報費等があげられます。

主に東京あだちキャンパス開設における建物及び構築物、越谷校舎新棟建設工事に伴う建設仮勘定支出となります。

東京あだちキャンパス開設にかかる各種備品を取得しました。

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

活動区分資金収支計算書

（単位：千円）

科　目	2020年度 予　算	2020年度 決　算	差　異	前年度比	
				2019年度決算	増　減
教育活動による資金収支					
学生生徒等納付金収入	10,821,333	10,693,155	128,178	10,841,971	△ 148,816
手数料収入	472,085	423,375	48,710	491,256	△ 67,881
特別寄付金収入	19,073	15,626	3,447	615	15,011
一般寄付金収入	7,562	11,214	△ 3,652	7,722	3,491
経常費等補助金収入	1,372,331	1,430,243	△ 57,912	1,072,237	358,006
付随事業収入	154,167	57,948	96,219	134,399	△ 76,451
雑収入	324,549	449,617	△ 125,068	386,043	63,574
教育活動資金収入計	13,171,100	13,081,177	89,923	12,934,244	146,933
人件費支出	7,675,669	7,506,781	168,888	7,715,424	△ 208,643
教育研究経費支出	2,894,891	2,765,771	129,120	2,405,337	360,434
管理経費支出	1,022,769	829,205	193,564	819,396	9,808
教育活動資金支出計	11,593,329	11,101,757	491,572	10,940,158	161,599
差引	1,577,771	1,979,420	△ 401,649	1,994,086	△ 14,666
調整勘定等	170,883	45,028	125,855	△ 49,885	94,913
教育活動資金収支差額	1,748,654	2,024,448	△ 275,794	1,944,201	80,247
施設整備等活動による資金収支					
施設設備寄付金収入	15,340	21,719	△ 6,379	10,251	11,468
施設設備補助金収入	0	180,870	△ 180,870	126,531	54,339
施設設備売却収入	0	0	0	1	△ 1
施設整備等活動資金収入計	15,340	202,589	△ 187,249	136,784	65,805
施設関係支出	6,138,837	5,500,420	638,417	5,117,609	382,811
設備関係支出	856,299	629,379	226,920	197,365	432,014
施設整備等活動資金支出計	6,995,136	6,129,799	865,337	5,314,974	814,825
差引	△ 6,979,796	△ 5,927,210	△ 1,052,586	△ 5,178,190	△ 749,020
調整勘定等	471,142	522,389	△ 51,247	△ 144,665	667,054
施設整備等活動資金収支差額	△ 6,508,654	△ 5,404,821	△ 1,103,833	△ 5,322,855	△ 81,966
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 4,760,000	△ 3,380,373	△ 1,379,627	△ 3,378,654	△ 1,719
その他の活動による資金収支					
借入金等収入	250	0	250	5,200,000	△ 5,200,000
有価証券売却収入	77,088	50,597	26,491	27,132	23,464
前田学術研究奨学資金引当特定資産取崩収入	3,000	3,091	△ 91	3,945	△ 854
貸付金回収収入	0	0	0	84	△ 84
預り金受入収入	11,295	97,226	△ 85,931	23,375	73,850
差入保証金戻入収入	230	272	△ 42	190	82
貯蔵品売却収入	0	1,687	△ 1,687	0	1,687
預託金回収収入	0	0	0	9	△ 9
小計	91,863	152,872	△ 61,009	5,254,736	△ 5,101,864
受取利息・配当金収入	14,727	17,723	△ 2,996	14,366	3,357
過年度修正収入	0	1	△ 1	3,442	△ 3,441
その他の活動資金収入計	106,590	170,596	△ 64,006	5,272,544	△ 5,101,949
借入金等返済支出	400,000	400,000	0	300,250	99,750
有価証券購入支出	77,088	43,947	33,141	25,289	18,659
前田学術研究奨学資金引当特定資産繰入支出	5,380	5,380	0	14,531	△ 9,151
差入保証金支出	230	230	0	230	0
貯蔵品購入支出	3,160	3,160	0	2,700	460
小計	485,858	452,717	33,141	343,000	109,718
借入金等利息支出	10,686	10,686	0	10,339	347
借入手数料支出	0	0	0	21,600	△ 21,600
過年度修正支出	0	317	△ 317	16	301
その他の活動資金支出計	496,544	463,720	32,824	374,954	88,766
差引	△ 389,954	△ 293,125	△ 96,829	4,897,590	△ 5,190,715
調整勘定等	△ 244	△ 1,090	846	472	△ 1,562
その他の活動資金収支差額	△ 390,198	△ 294,215	△ 95,983	4,898,062	△ 5,192,277
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 5,200,198	△ 3,674,588	△ 1,525,610	1,519,408	△ 5,193,995
前年度繰越支払資金	16,020,506	16,020,506	0	14,501,098	1,519,408
翌年度繰越支払資金	10,820,308	12,345,918	△ 1,525,610	16,020,506	△ 3,674,588

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

事業活動収支計算書

（単位：千円）

	科目	2020年度 予算	2020年度 決算	差異	前年度比 2019年度決算	前年度比 増減
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	10,821,333	10,693,155	128,178	10,841,971	△ 148,816
	手数料	472,085	423,375	48,710	491,256	△ 67,881
	寄付金	26,635	32,713	△ 6,078	12,318	20,395
	経常費等補助金	1,193,344	1,430,243	△ 236,899	1,072,237	358,006
	付随事業収入	154,167	57,948	96,219	134,399	△ 76,451
	雑収入	324,549	449,588	△ 125,039	394,490	55,098
	教育活動収入計	12,992,113	13,087,023	△ 94,910	12,946,672	140,351
	事業活動支出の部					
	人件費	7,735,815	7,518,548	217,267	7,714,337	△ 195,789
	教育研究経費	3,686,431	3,634,486	51,945	3,278,230	356,257
	管理経費	1,290,464	923,601	366,863	903,526	20,074
	徴収不能額等	500	170	330	449	△ 279
	教育活動支出計	12,713,210	12,076,805	636,405	11,896,542	180,263
	教育活動収支差額	278,903	1,010,218	△ 731,315	1,050,131	△ 39,913
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	14,727	17,674	△ 2,947	14,358	3,316
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	14,727	17,674	△ 2,947	14,358	3,316
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	10,686	10,686	0	10,339	347
	借入手数料	0	0	0	21,600	△ 21,600
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	10,686	10,686	0	31,939	△ 21,253
	教育活動外収支差額	4,041	6,988	△ 2,947	△ 17,581	24,569
経常収支差額		282,944	1,017,206	△ 734,262	1,032,550	△ 15,344
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	6,856	△ 6,856	1,910	4,946
	その他の特別収入	194,327	219,872	△ 25,545	150,084	69,788
	特別収入計	194,327	226,727	△ 32,400	151,994	74,734
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	23,667	72,878	△ 49,211	51,927	20,951
	その他の特別支出	0	317	△ 317	16	301
	特別支出計	23,667	73,195	△ 49,528	51,943	21,252
	特別収支差額	170,660	153,533	17,127	100,051	53,482
基本金組入前当年度収支差額		403,604	1,170,739	△ 767,135	1,132,601	38,138
	基本金組入額合計	△ 7,359,798	△ 5,897,188	△ 1,462,610	△ 364,102	△ 5,533,086
当年度収支差額		△ 6,956,194	△ 4,726,449	△ 2,229,745	768,499	△ 5,494,948
前年度繰越収支差額		△ 5,554,155	△ 5,554,155	0	△ 6,322,654	768,499
基本金取崩額		0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額		△12,510,349	△10,280,604	△ 2,229,745	△ 5,554,155	△ 4,726,449
（参考）						
事業活動収入計		13,201,167	13,331,424	△ 130,257	13,113,024	218,400
事業活動支出計		12,797,563	12,160,685	636,878	11,980,423	180,262

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

教育活動収支
（経常的な収支のうち、教育活動による収支状況）

収入では経常費補助金や退職者交付金が増加しました。
支出では新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していた事業の変更を余儀なくされたことで教育研究経費及び管理経費が減少しました。また、東京あだちキャンパス完成時期の変更により取得にかかる減価償却費も減少し、収支差額は収入超過となりました。

教育活動外収支
（経常的な収支のうち、財務活動による収支状況）

主に保有有価証券の利金や配当金を収入として計上しています。支出は外部借入金の利息によるものです。

特別収支
（資産売却や処分等の臨時的な収支状況）

主に国の補助金や東京あだちキャンパス開設募金による寄付金収入を計上しています。
前期に引き続き東京あだちキャンパス建設にあたりZEB化事業補助金を獲得しました。なお、図書の除却により資産処分差額が増加しましたが、結果として収入超過となりました。

当年度収支差額

経常収支差額及び特別収支差額ともに収入超過となったため、基本金組入前当年度収支差額は収入超過となりましたが、東京あだちキャンパスに関する固定資産取得に伴い多額の基本金組入れを実施したことにより、当年度収支差額は支出超過となりました。

翌年度繰越収支差額

以上の結果、累積収支差額である翌年度繰越収支差額でも累積収支のマイナスが増加する結果となりました。

貸借対照表

（単位:千円）

資産の部

科　目	2020年度	2019年度	増　減
固定資産	41,696,595	36,575,796	5,120,799
有形固定資産	38,882,383	33,739,360	5,143,022
土地	12,159,393	12,159,393	0
建物	21,068,961	12,059,183	9,009,778
構築物	1,892,980	723,855	1,169,125
教育研究用機器備品	948,743	548,220	400,523
管理用機器備品	111,493	76,636	34,857
図書	2,643,085	2,682,487	△ 39,402
建設仮勘定	57,728	5,489,587	△ 5,431,860
特定資産	2,518,636	2,516,347	2,289
その他の固定資産	295,577	320,089	△ 24,512
ソフトウェア	85,285	109,755	△ 24,470
有価証券	40,095	40,095	0
その他	170,197	170,239	△ 42
流動資産	12,878,587	16,484,170	△ 3,605,583
現金預金	12,345,918	16,020,506	△ 3,674,588
その他	532,669	463,664	69,005
資産の部合計	54,575,182	53,059,966	1,515,216

東京あだちキャンパス開設により、建物や構築物等へ振替を行いました。
また、越谷校舎新棟建設工事に伴う建設仮勘定を計上しています。

主に東京あだちキャンパス建設工事の支払資金が減少しています。

負債の部

科　目	2020年度	2019年度	増　減
固定負債	7,524,154	7,925,521	△ 401,367
長期借入金	4,100,000	4,500,000	△ 400,000
長期未払金	75,266	88,399	△ 13,134
退職給与引当金	3,348,889	3,337,121	11,767
流動負債	5,127,353	4,381,508	745,844
短期借入金	400,000	400,000	0
未払金	1,852,196	1,166,626	685,570
前受金	2,551,492	2,588,444	△ 36,951
預り金	323,664	226,439	97,226
負債の部合計	12,651,507	12,307,029	344,477

東京あだちキャンパス建設資金の一部に利用している借入金です。

将来の教職員の退職金支給に備えるため、退職金債務をあらかじめ負債として計上しています。

主に2021年度に支払う東京あだちキャンパス建設資金が増加しています。

2021年度入学生の入学金や授業料等です。

純資産の部

科　目	2020年度	2019年度	増　減
基本金	52,204,280	46,307,092	5,897,188
第１号基本金	51,005,148	45,107,960	5,897,188
第３号基本金	398,132	398,132	0
第４号基本金	801,000	801,000	0
繰越収支差額	△10,280,604	△ 5,554,155	△ 4,726,449
翌年度繰越収支差額	△10,280,604	△ 5,554,155	△ 4,726,449
純資産の部合計	41,923,676	40,752,937	1,170,739
負債及び純資産の部合計	54,575,182	53,059,966	1,515,216

東京あだちキャンパス開設に伴う固定資産の取得等により増加しました。

奨学基金や研究資金等として継続的に保持し、かつ運用する資産の額となります。

恒常的に保持すべき資金として、1カ月分の運転資金を算定しています。

純資産は前年度末から約10億円増加しました。

※千円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

［1］収支計算書の推移

当該年度を含む過去5年間の財政の推移を掲載しています。

資金収支計算書

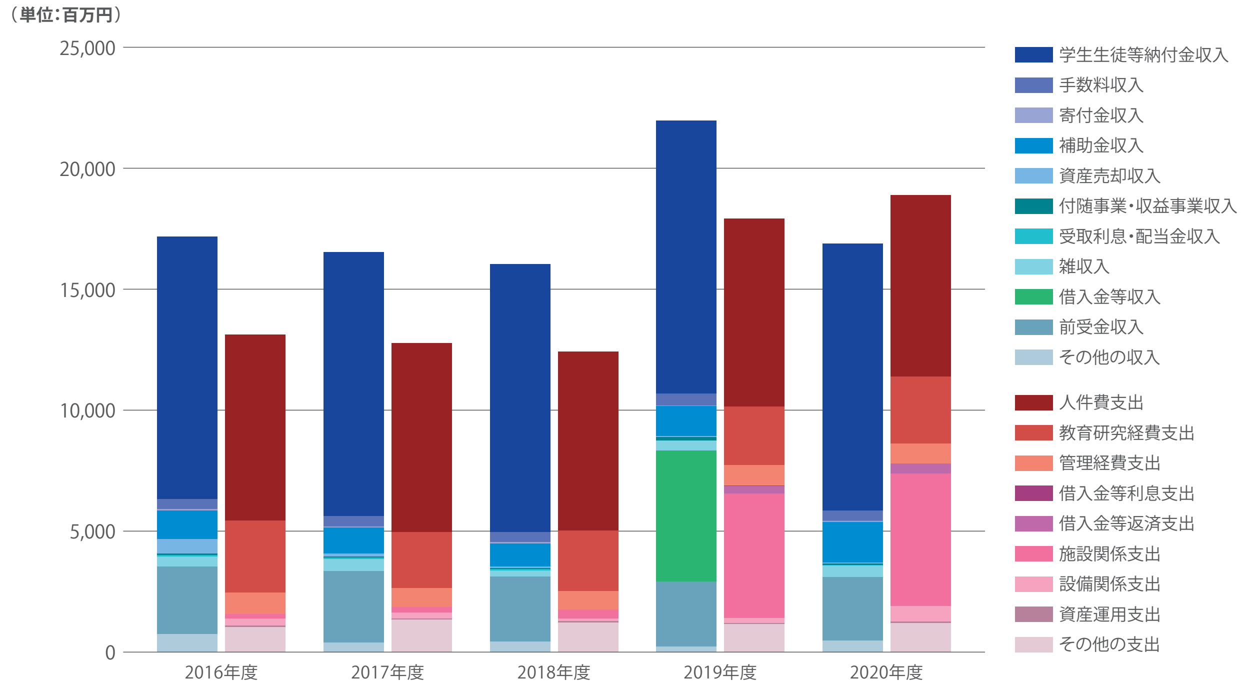
（単位：百万円）

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	10,796	10,877	11,018	10,842	10,693
手数料収入	476	435	494	491	423
寄付金収入	31	31	11	19	49
補助金収入	1,160	1,090	952	1,199	1,611
資産売却収入	600	80	27	27	52
付随事業・収益事業収入	141	137	138	134	58
受取利息・配当金収入	9	7	12	14	18
雑収入	394	488	204	389	450
借入金等収入	0	0	0	5,200	0
前受金収入	2,825	2,941	2,708	2,588	2,550
その他の収入	743	423	469	218	477
資金収入調整勘定	△ 3,293	△ 3,281	△ 3,133	△ 3,084	△ 3,046
前年度繰越支払資金	9,223	11,319	12,934	14,501	16,021
収入の部合計	23,106	24,545	25,835	32,539	29,356

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	7,679	7,826	7,381	7,715	7,507
教育研究経費支出	2,948	2,285	2,452	2,405	2,766
管理経費支出	918	818	799	841	830
借入金等利息支出	0	0	0	10	11
借入金等返済支出	0	0	0	300	400
施設関係支出	192	184	346	5,118	5,500
設備関係支出	323	272	141	197	629
資産運用支出	1	74	34	40	50
その他の支出	1,072	1,342	1,252	1,148	1,220
資金支出調整勘定	△ 1,345	△ 1,190	△ 1,071	△ 1,257	△ 1,903
翌年度繰越支払資金	11,319	12,934	14,501	16,021	12,346
支出の部合計	23,106	24,545	25,835	32,539	29,356

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

資金収支の推移



※ 調整勘定、前年度繰越支払資金及び翌年度繰越支払資金を除いて表示しています。

事業活動収支計算書

（単位：百万円）

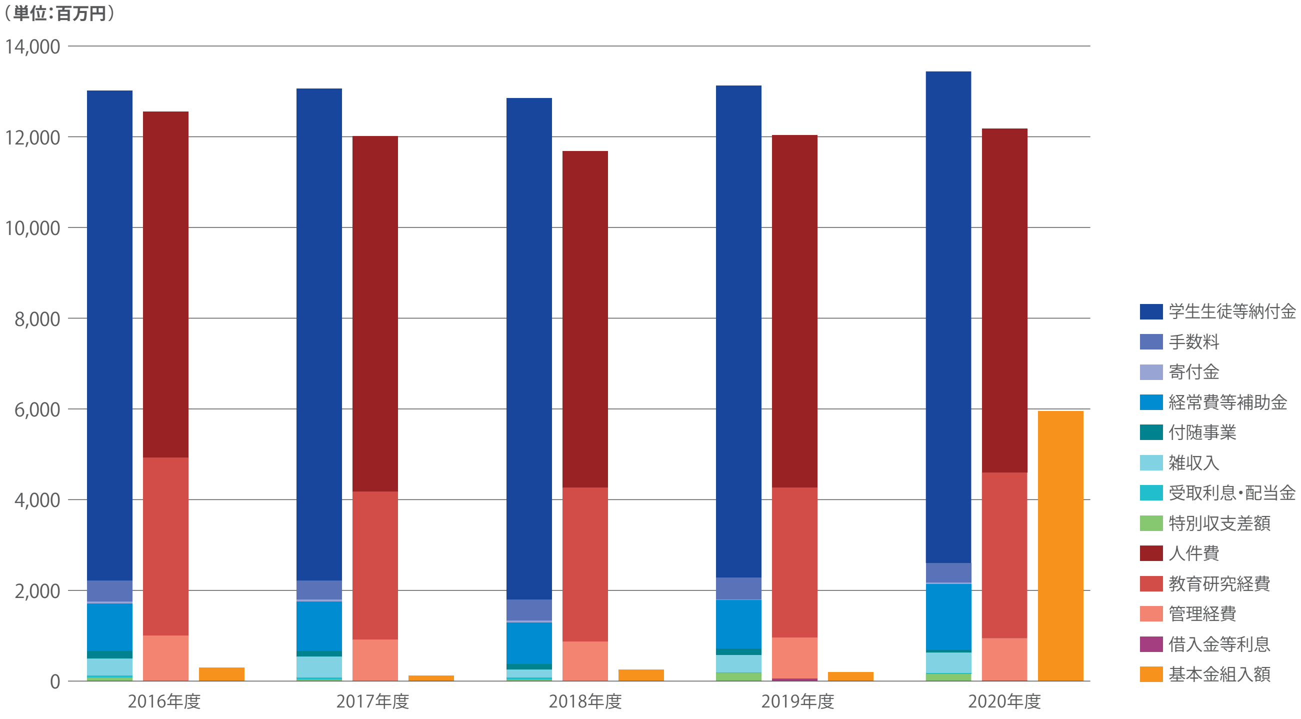
教育活動・教育活動外収支		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入	学生生徒等納付金	10,796	10,877	11,018	10,842	10,693
	手数料	476	435	494	491	423
	寄付金	13	8	16	12	33
	経常費等補助金	1,058	1,090	918	1,072	1,430
	付随事業	141	137	138	134	58
	雑収入	419	488	205	394	450
	受取利息・配当金	9	7	12	14	18
支出	人件費	7,629	7,858	7,406	7,714	7,519
	教育研究経費	3,918	3,256	3,384	3,278	3,634
	管理経費	1,006	897	878	904	924
	借入金等利息	0	0	0	32	11
	経常収支差額	360	1,029	1,132	1,033	1,017

特別収支		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
収入	資産売却差額	0	7	2	2	7
	その他の特別収入	137	38	37	150	220
支出	資産処分差額	62	19	17	52	73
	その他の特別支出	0	2	1	0	0
	特別収支差額	74	25	21	100	154

その他の数値	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
基本金組入前当年度収支差額	435	1,054	1,153	1,133	1,171
基本金組入額（△）	△ 278	△ 111	△ 254	△ 364	△ 5,897
当年度収支差額	157	943	899	768	△ 4,726
前年度繰越収支差額	△ 8,486	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554
基本金取崩額	165	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554	△ 10,281
学生生徒数（単位：人）	10,510	10,531	10,637	10,473	10,240

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

事業活動収支の推移



※事業活動収支の特別収支は超過分の差額を収入として表示しています。
※2020年度の基本金組入額が上昇している要因は、東京あだちキャンパスの開設によるものです。

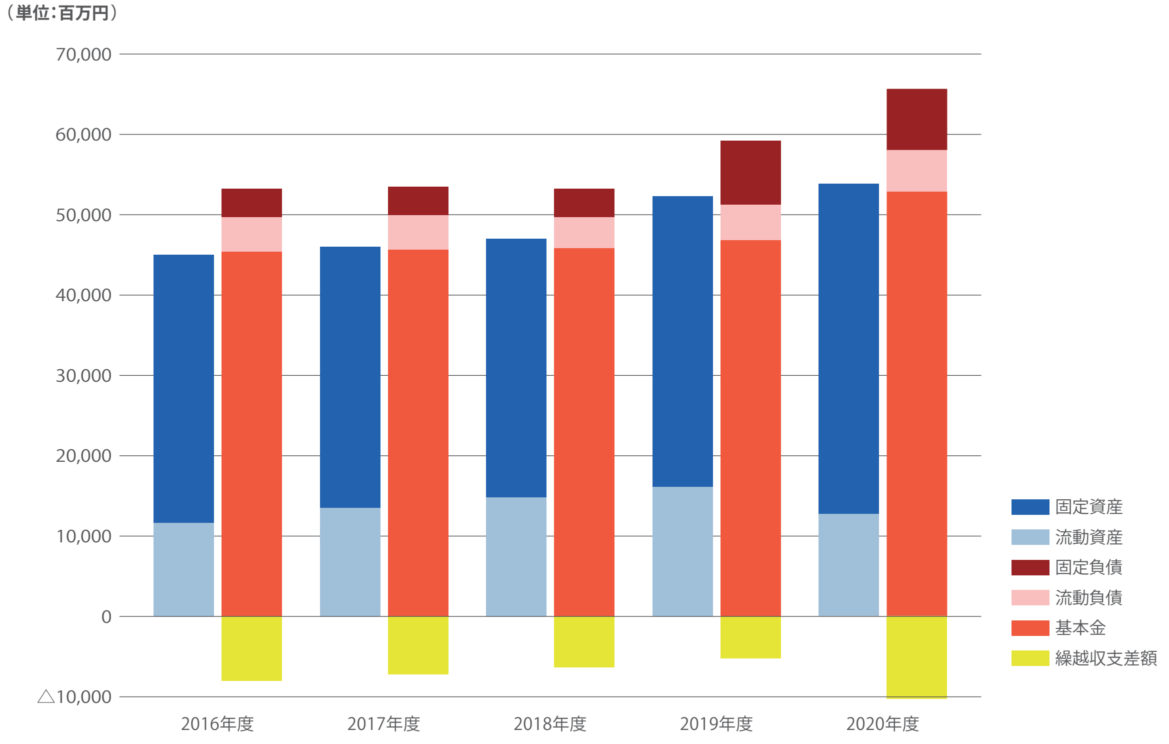
貸借対照表

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	33,367	32,768	32,243	36,576	41,697
有形固定資産	30,591	29,926	29,409	33,739	38,882
特定資産	2,507	2,507	2,515	2,516	2,519
その他の固定資産	269	335	318	320	296
流動資産	11,759	13,472	14,780	16,484	12,879
資産の部合計	45,126	46,240	47,023	53,060	54,575
固定負債	3,457	3,476	3,432	7,926	7,524
流動負債	4,256	4,296	3,971	4,382	5,127
負債の部合計	7,713	7,773	7,403	12,307	12,652
基本金	45,578	45,689	45,943	46,307	52,204
第１号基本金	44,379	44,490	44,744	45,108	51,005
第３号基本金	398	398	398	398	398
第４号基本金	801	801	801	801	801
繰越収支差額	△ 8,165	△ 7,222	△ 6,323	△ 5,554	△ 10,281
純資産の部合計	37,413	38,467	39,620	40,753	41,924
負債及び純資産の部合計	45,126	46,240	47,023	53,060	54,575

※百万円未満の端数については、四捨五入しているため、合計等の額が計算上一致しない場合があります。

貸借対照表の推移



※「貸借対照表の推移」について、繰越収支差額をグラフの表示上マイナスの数値として表示しています。

［2］財務比率の推移

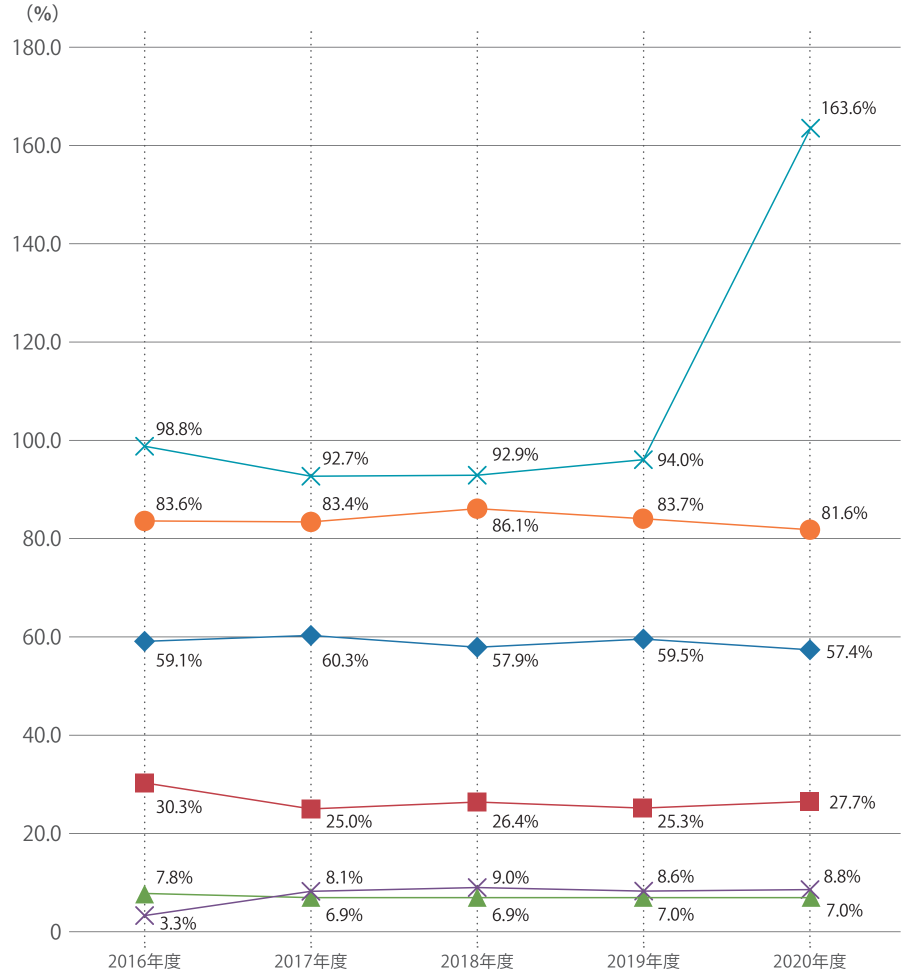
当該年度を含む過去5年間の主な財務比率を掲載しています。

事業活動収支計算書の比率

比率名	算出方法	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価指標*2	大学平均*3
人件費比率	人件費 / 経常収入*1	59.1%	60.3%	57.9%	59.5%	57.4%	▼	54.4%
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入*1	30.3%	25.0%	26.4%	25.3%	27.7%	△	31.4%
管理経費比率	管理経費 / 経常収入*1	7.8%	6.9%	6.9%	7.0%	7.0%	▼	9.8%
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	3.3%	8.1%	9.0%	8.6%	8.8%	△	3.6%
基本金組入後収支比率	事業活動支出 / 事業活動収入－基本金組入額	98.8%	92.7%	92.9%	94.0%	163.6%	▼	107.4%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入*1	83.6%	83.4%	86.1%	83.7%	81.6%	〜	75.5%

＊1）経常収入=教育活動収入計＋教育活動外収入計
＊2）評価指標：（目安）△・・・高い値が良い　▼・・・低い方が良い　〜・・・どちらともいえない
＊3）大学平均：日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用　（数値）文他複数学部を設置する大学法人の2019年度の数値を表示

財務比率の推移（事業活動収支）



基本金組入後収支比率
比率が100％を超えると、赤字となり、100％未満であると黒字となります。基本金組入額に左右されるため、考慮する必要があります。

学生生徒等納付金比率
外部要因に影響されにくい重要な自己財源であるため、安定的に推移することが望まれます。

人件費比率
学校法人最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因となるため、適正な水準を保つ必要があります。

教育研究経費比率
教育研究活動の維持・充実のため不可欠である数値であるため、収支均衡を損なわない範囲で高い数値が望ましいものとなります。

管理経費比率
教育活動以外の目的で支出される経費であり、学校経営のための支出は止むを得ないものの、比率としては低い方が望ましいものとなります。

事業活動収支差額比率
この数値が高くなるほど自己資本は充実していることとなり、経営の財政面において余裕があるものとみなすことができます。

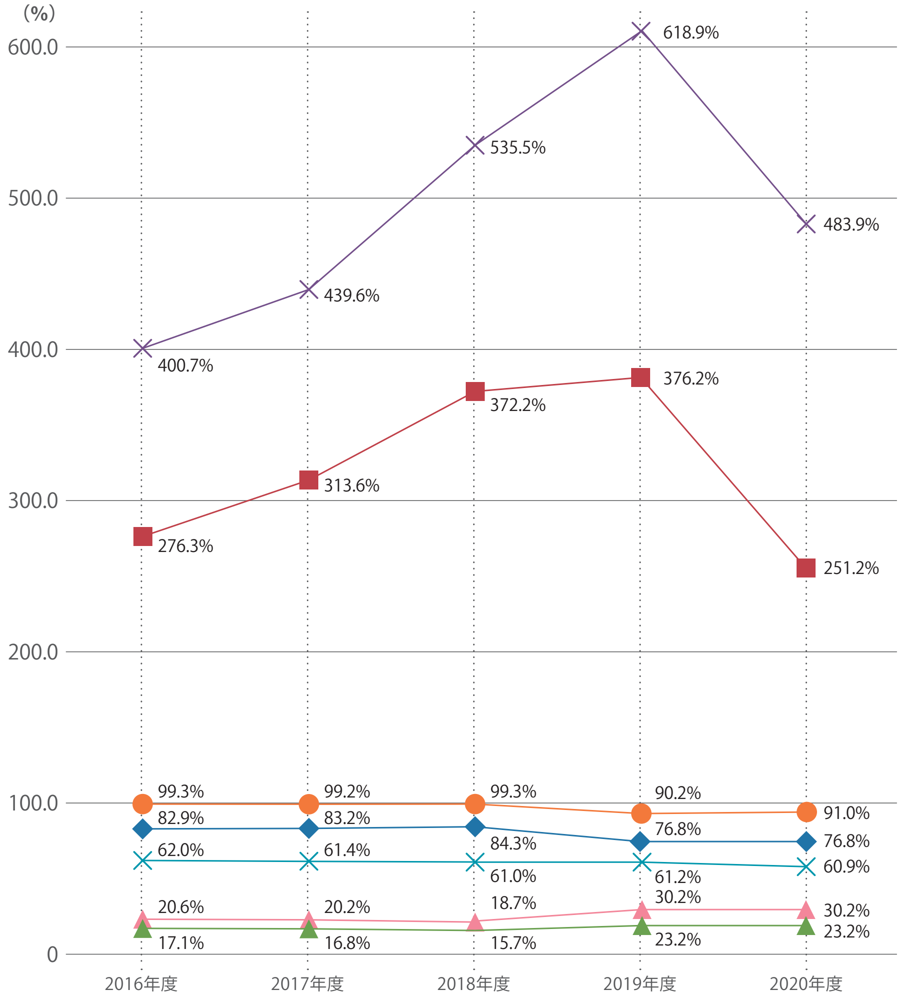
※2015年度の基本金組入後収支比率が上昇している要因は、固定資産取得にかかる基本金組入額増加によるものです。

貸借対照表の比率

比率名	算出方法	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	評価指標*1	大学平均*2
純資産構成比率	純資産 / 総負債+純資産	82.9%	83.2%	84.3%	76.8%	76.8%	△	88.2%
流動比率	流動資産 / 流動負債	276.3%	313.6%	372.2%	376.2%	251.2%	△	260.2%
総負債比率	総負債 / 総資産	17.1%	16.8%	15.7%	23.2%	23.2%	▼	11.8%
負債比率	総負債 / 純資産	20.6%	20.2%	18.7%	30.2%	30.2%	▼	13.3%
前受金保有率	現預金 / 前受金	400.7%	439.6%	535.5%	618.9%	483.9%	△	354.4%
退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 / 退職給与引当金	62.0%	61.4%	61.0%	61.2%	60.9%	△	73.6%
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	99.3%	99.2%	99.3%	90.2%	91.0%	△	97.7%

＊1）評価指標：（目安）△・・・高い値が良い　▼・・・低い方が良い
＊2）大学平均：日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」より引用　（数値）文他複数学部を設置する大学法人の2019年度の数値より算出

財務比率の推移（貸借対照表）



前受金保有率
翌年度の授業料や入学金が現金預金として適切に保有しているか測る比率であり、100%を越えることが一般的とされています。

流動比率
1年以内の流動負債に対して、現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかの支払能力を判断する指標です。一般的に金融機関等では、200%を超えると優良であると判断されます。

基本金比率
基本金組入対象資産において、どの程度組み入れが完了しているか示す指標です。未組入額があることは、借入金や未払金をもって取得していることを示すため、100%に近いことが望ましいとされています。

純資産構成比率
学校法人の資金の調達源泉を分析する指標です。比率が高いほど財政的に安定しており、50%を下回ると他人資本が自己資本を上回っていることを示します。

退職給与引当特定資産保有率
将来的な支払債務である退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか判断するものです。

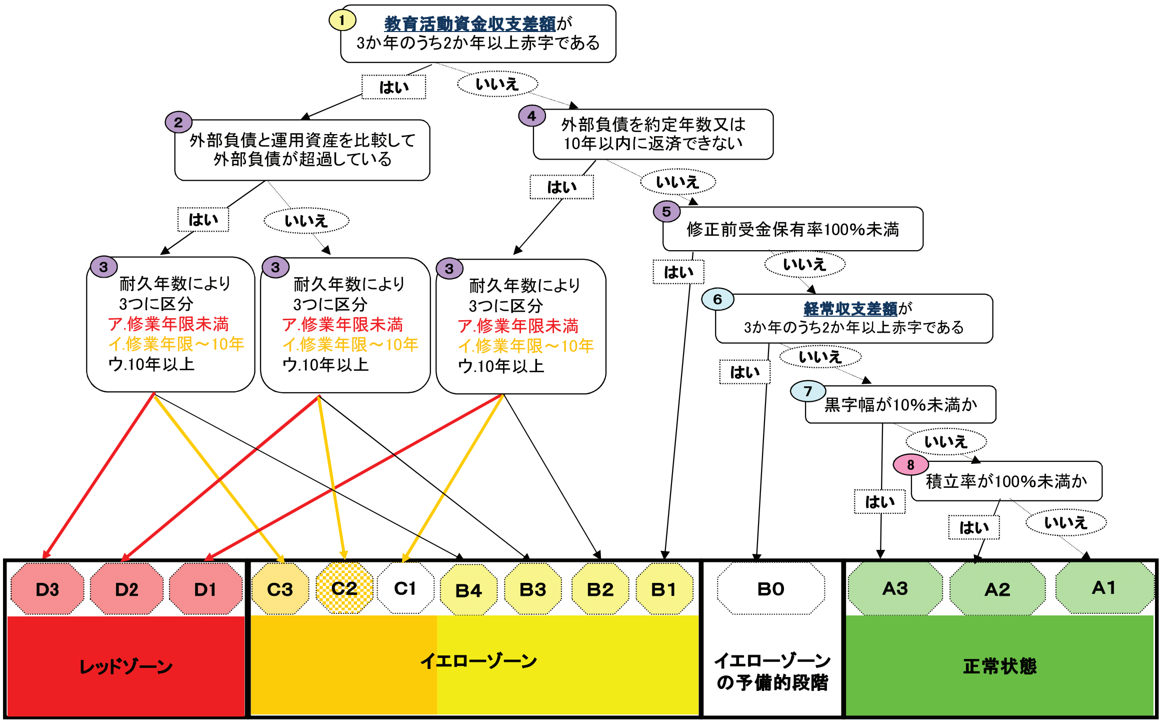
負債比率
他人資本が自己資本を上回っていないか分析する指標です。100%以下で低い方が望ましいとされます。

総負債比率
総資産に対する他人資本の比重を測る指標です。低いほど望ましく、100%を超えると債務超過であることを示します。

学園の経営状況

経営状況の分析にあたり、私立学校振興・共済事業団が提供する「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）」を利用しております。（引用：https://www.shigaku.go.jp/files/s_center_shihyo27-1.pdf）

定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）



（金額単位：百万円）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
①教育活動資金収支差額 （3年中2年以上赤字か）	1,465 いいえ	1,895 いいえ	2,051 いいえ	1,944 いいえ	1,010 いいえ
④外部負債 （約定年数or10年以内返済できない）	1,426 いいえ	1,316 いいえ	1,145 いいえ	6,155 いいえ	6,427 いいえ
⑤修正前受金保有率 （100%未満）	490.8% いいえ	526.2% いいえ	629.8% いいえ	717.7% いいえ	584.2% いいえ
⑥経常収支差額 （3年中2年以上赤字か）	360 いいえ	1,029 いいえ	1,132 いいえ	1,033 いいえ	1,017 いいえ
⑦黒字幅（10%） （10%未満か）	2.8% はい	8.5% はい	9.7% はい	8.7% はい	8.4% はい
⑧積立率（100%） （100%未満か）	78.9% ―	84.4% ―	89.3% ―	93.5% ―	71.7% ―
判定	A3	A3	A3	A3	A3

上記指標に基づいて、5年間の経営状況を置き換えると、判定区分は5年連続で「A3」の判定となります。

※「A3」　経営状況　：正常領域
　　　　　収支差額　：黒字幅10%未満
　　　　　ストック　：外部負債を約定通り返済でき、かつ、前受金＜運用資産
　　　　　長期的対応：計画的な収支改善による黒字の増加

経営上の成果と課題

2015年度の土地の取得を皮切りに、新キャンパス（文教大学東京あだちキャンパス）開設の準備を進めてきました。2020年度は新型コロナウイルスの影響で学校運営が制限される中、2021年4月に計画どおり開学できたことは大きな成果と言えます。加えて昨年度に引き続き新キャンパス建設にあたり、2020年度も経済産業省の「省エネルギー投資促進に向けた支援補助金」を獲得したことも収支の安定に貢献しました。

中長期的には、あらゆる状況下において、大学および付属学校の安定した募集力を背景とした学園の収入構造を如何に堅持していくか、さらに確実な事業の計画および実施が必要となっていきます。

今後の方針

外部環境の大きな変化や競争激化の状況においても、引き続き社会に求められる学校運営を継続していくために、新たに「文教大学学園第4次中期経営計画（BUNKYO ACTION PLAN 2025）」を策定し、将来性を加味した実現性の高い計画に経営資源を集中していくことで、堅実な財務基盤を維持し、学園の永続性を担保していきます。

監　査　報　告　書

2021年5月25日

学校法人　文教大学学園
理 事 会　御中
評議員会　御中

学校法人　文教大学学園
監　事　　　佐 藤　善 吉
監　事　　　須 原　洋

私たちは、私立学校法第37条第3項及び学校法人文教大学学園寄附行為第27条の規定に基づき、学校法人文教大学学園の2020年度（2020年4月1日から2021年3月31日まで）の、業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会その他必要と思われる会議に出席するほか、理事等から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、監査室から業務監査の報告を受けるとともに、独立監査人である双葉監査法人と連携し、計算書類について検討を行うなど、必要と思われる監査手続きを実施した。

監査の結果、私たちは学校法人文教大学学園の業務に関する決定及び執行は適正であり、業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

また、計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）並びに財産目録は会計帳簿と合致し、学校法人文教大学学園の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認める。

以　上

2020年度
文教大学学園事業報告書

2021年5月31日　発行

編 集 人　事業計画書・事業報告書策定プロジェクトチーム2020-2021
［法人事務局］伊藤 諭・野作 公平・中島 茜・佐藤 翼（経営企画室）
須賀 智哉・冨田 祐未（総務課）
二藤 菜津美（財務課）・栗田 彩智美（施設課）
石原 麻衣（幼小事務課）
発 行 人　学校法人　文教大学学園
発 行 所　東京都品川区旗の台3-2-17　TEL：03-3783-5511（代）
制作／印刷　株式会社 クリエイティブ・マインド／株式会社 精美堂

BUNKYO